箱根町第６次総合計画
後期基本計画

令和５年度　施策別評価結果

令和6年 11 月

箱　根　町

目　　次

１　第６次総合計画の概要

（１）計画の構成 １
（２）総合計画で目指す将来像 ２
（３）基本目標と施策 ２

２　総合計画の進行管理・評価

（１）進行管理の考え方 ４
（２）評価の方法 ４

３　施策別の評価結果（まとめ）

（１）施策の進捗状況 ６
（２）成果指標の達成状況 ７
（３）事業の進捗状況 １１

４　施策別の評価シート

（１）施策別の評価シートの見かた １２
（２）施策評価結果一覧・施策別評価シート..... １５

1　第６次総合計画の概要

（１）計画の構成

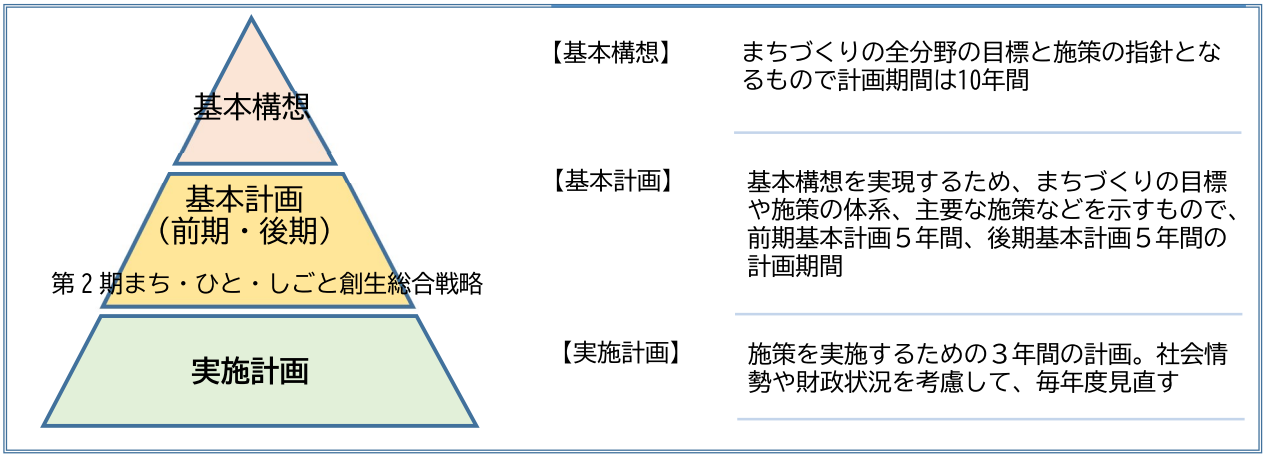
第６次総合計画は、基本構想、基本計画及び実施計画の３層で構成されています。

基本構想は、将来像をはじめ箱根町が進むべき方向性を明らかにしたまちづくりの全分野の目標と施策の指針となるもので、計画期間は、10 年間（平成 29〔2017〕～令和８〔2026〕年度）です。

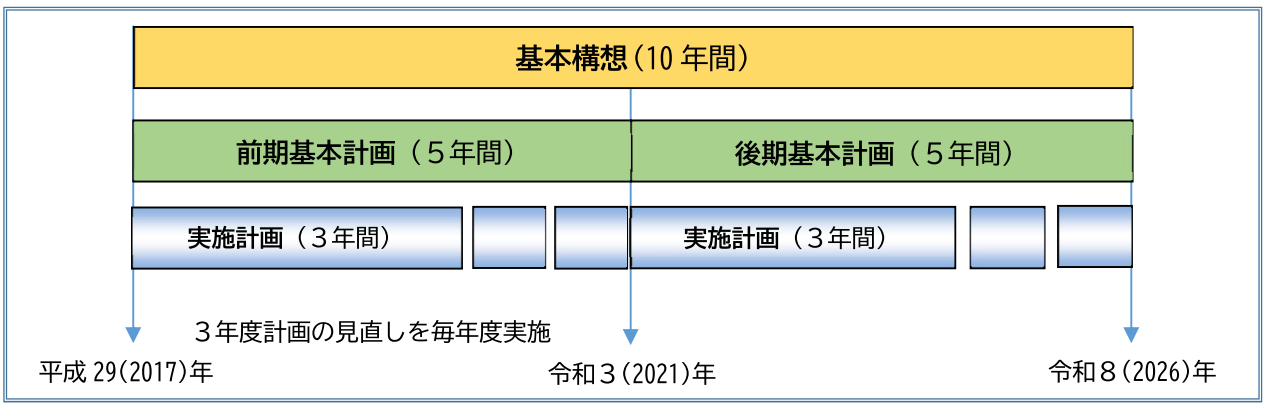
基本計画は、基本構想を実現するため、まちづくりの目標に対する現状と課題、課題解決に向けた施策の体系や方針などを示すもので、時代の変化が速い中で、中間年で施策の見直しなどの的確な対応を図れるよう、前期５年間（平成 29〔2017〕～令和３〔2021〕年度）、後期５年間（令和４〔2022〕～令和８〔2026〕年度）をそれぞれ計画期間とします。

また、実施計画は、基本計画で定めた施策を実施するための３年間の具体的計画であり、社会経済状況の変化や町民生活を取り巻く環境の変化に柔軟に対応できるよう、毎年度見直します。

【計画の体系】



【計 画 期 間】



（２）総合計画で目指す将来像

やすらぎとおもてなしのあふれる町－箱根

「やすらぎ」とは、箱根の誇る美しい自然環境の保全を図っていき、住む人、訪れる人すべてが癒しを感じられる町を目指していくとともに、火山対策をはじめ防災対策の強化を図って、安全・安心が確保される町を目指すことを意味します。

「おもてなし」とは、町民同士が相手を思いやる気持ちを持って日々ふれあうことのできる町を目指すことで、地域コミュニティの維持向上につなげるとともに、国内外から訪れるすべての人々に対してもおもてなしの心が伝わる町になることを意味します。

（３）基本目標と施策

将来像の実現に向けて、６つの基本目標（保健・医療・福祉、教育・文化、生活環境、自然環境・安全、観光産業、行財政・協働の各分野）を定めるとともに、その目的を達成するために具体的に取り組むべき 36 の施策を設定しています。

基本目標	施　　策
基本目標　１ 皆が支えあう、誰もが元気なまちづくり	施策１　健康づくりの推進
	施策２　子育て支援の充実
	施策３　地域福祉の充実
	施策４　高齢者福祉の充実
	施策５　障がい者福祉の充実
	施策６　社会保障の充実
	施策７　ワーク・ライフ・バランスの実現
基本目標　２ 未来を拓く人材が育ち、町民相互に高めあうまちづくり	施策８　学校教育の充実
	施策９　生涯学習の推進
	施策 10　文化・芸術活動の推進
	施策 11　家庭教育の充実
	施策 12　青少年の健全育成
	施策 13　文化財の保護と活用
	施策 14　スポーツ活動の推進
	施策 15　男女共同参画・人権尊重の推進
	施策 16　多文化交流の実現

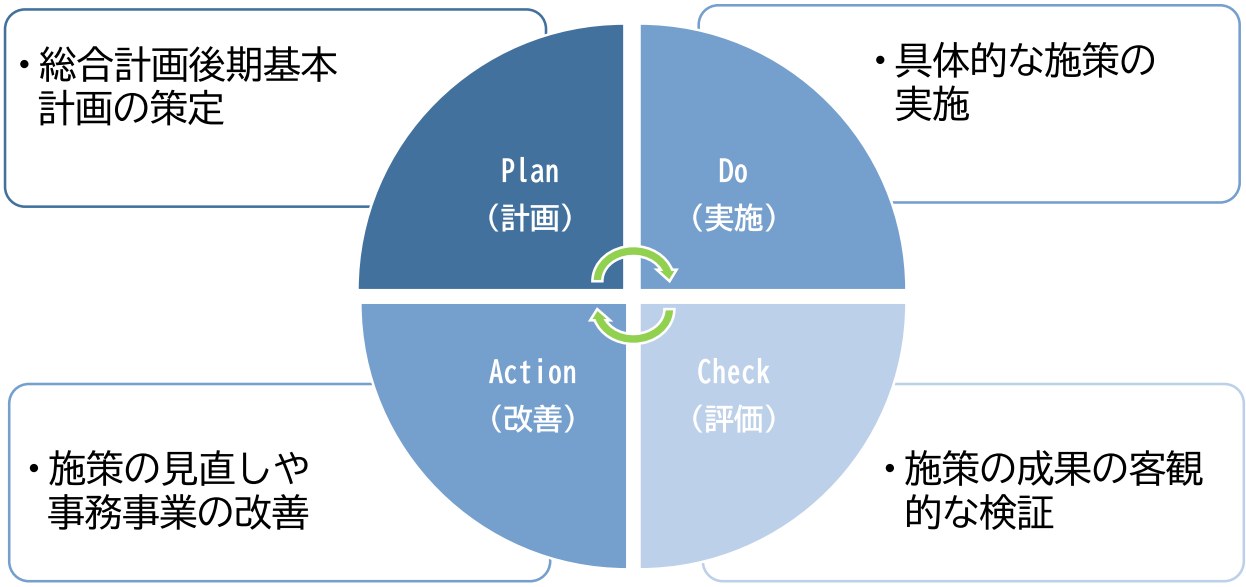
基本目標	施　　策
基本目標　３ 誰もが住みたくなる、より良い生活環境のまちづくり	施策 17　道路・交通網の充実
	施策 18　住環境の整備
	施策 19　生活環境の整備
	施策 20　上下水道の整備
	施策 21　地域交通の利便性の確保
基本目標　４ 環境にやさしく、安全・安心なまちづくり	施策 22　循環型社会の形成
	施策 23　自然環境の保全
	施策 24　景観の保全・形成
	施策 25　防災対策の推進
	施策 26　消防・救急対策の充実
	施策 27　交通安全・防犯の充実
基本目標　５ 癒しと文化を提供する観光産業づくり	施策 28　観光資源の開発と活用
	施策 29　観光拠点整備と魅力向上
	施策 30　多様な観光資源と活用した誘客と受入態勢の整備
	施策 31　箱根ジオパークの推進
	施策 32　伝統産業や観光行事の振興
基本目標　６ 行政の効率的経営と官民協働体制の強化	施策 33　協働のまちづくりの推進
	施策 34　計画的な行財政運営
	施策 35　ＳＤＧｓの推進
	施策 36　コロナ対策の推進

2　総合計画の進行管理・評価

（1）進行管理の考え方

施策ごとに設定した目標となる指標の毎年度の達成状況の把握とともに、施策の定性的なデータも含めた総合的な検証を行い、その結果を箱根町総合計画審議会に報告し、その意見を聞いて翌年度からの施策の推進に活かします。

また、この総合的な検証結果と審議会からの意見、町の対応方策等はわかりやすく町民等へ公表します。



（2）評価の方法

実施計画の進捗状況を把握するために、毎年度、各課等に対し事業の成果と進捗状況を調査します。その後、施策ごとに設定した目標指標の実績と施策の展開の定性的なデータをもとに、部長級職員により施策を評価します。

この結果は、総合計画策定本部会議で評価結果の確認後、総合計画審議会に報告し意見を伺ったうえで公表し、次年度の予算、実施計画のローリングに活用します。

〔令和５年度施策別評価者一覧〕

基本目標		施策		施策担当課	施策評価者
1	皆が支えあう、誰もが元気なまちづくり	1	健康づくりの推進	保険健康課、生涯学習課	福祉部長
		2	子育て支援の充実	子育て支援課、学校教育課、生涯学習課	福祉部長
		3	地域福祉の充実	福祉課	福祉部長
		4	高齢者福祉の充実	福祉課、保険健康課	福祉部長
		5	障がい者福祉の充実	福祉課	福祉部長
		6	社会保障の充実	福祉課、保険健康課	福祉部長
		7	ワーク・ライフ・バランスの実現	町民課、総務防災課、子育て支援課、保険健康課、生涯学習課	福祉部長
2	未来を拓く人材が育ち、町民相互に高めあうまちづくり	8	学校教育の充実	学校教育課	教育次長
		9	生涯学習の推進	生涯学習課	教育次長
		10	文化・芸術活動の推進	生涯学習課	教育次長
		11	家庭教育の充実	生涯学習課	教育次長
		12	青少年の健全育成	生涯学習課	教育次長
		13	文化財の保護と活用	生涯学習課	教育次長
		14	スポーツ活動の推進	生涯学習課	教育次長
		15	男女共同参画・人権尊重の推進	町民課、福祉課	総務部長
		16	多文化交流の実現	企画課、観光課、学校教育課、議会事務局	企画観光部長
3	誰もが住みたくなる、より良い生活環境のまちづくり	17	道路・交通網の充実	都市整備課、観光課	環境整備部長
		18	住環境の整備	企画課、観光課、町民課、福祉課、都市整備課	企画観光部長
		19	生活環境の整備	環境課	環境整備部長
		20	上下水道の整備	上下水道温泉課	環境整備部長
		21	地域交通の利便性の確保	都市整備課	環境整備部長
4	環境にやさしく安全・安心なまちづくり	22	循環型社会の形成	環境課、財務課	環境整備部長
		23	自然環境の保全	企画課、観光課、財務課、環境課	企画観光部長
		24	景観の保全・形成	都市整備課	環境整備部長
		25	防災対策の推進	総務防災課、都市整備課、上下水道温泉課	総務部長
		26	消防・救急対策の充実	消防本部	消防長
		27	交通安全・防犯の充実	町民課	総務部長
5	癒しと文化を提供する観光産業づくり	28	観光資源の開発と活用	観光課、企画課、総務防災課、上下水道温泉課	企画観光部長
		29	観光拠点整備と魅力向上	観光課	企画観光部長
		30	多様な観光資源を活用した誘客と受入態勢の整備	観光課、財務課、学校教育課	企画観光部長
		31	箱根ジオパークの推進	企画課、観光課	企画観光部長
		32	伝統産業や観光行事の振興	観光課	企画観光部長
6	行政の効率的経営と官民協働体制の強化	33	協働のまちづくりの推進	町民課、企画課、観光課、都市整備課	総務部長
		34	計画的な行財政運営	企画課、総務防災課、町民課、財務課、税務課、環境課、議会事務局	総務部長
		35	ＳＤＧｓの推進	企画課、観光課、環境課	企画観光部長
		36	コロナ対策の推進	保険健康課、観光課、総務防災課、子育て支援課、学校教育課、消防本部	福祉部長

3　施策別の評価結果（まとめ）

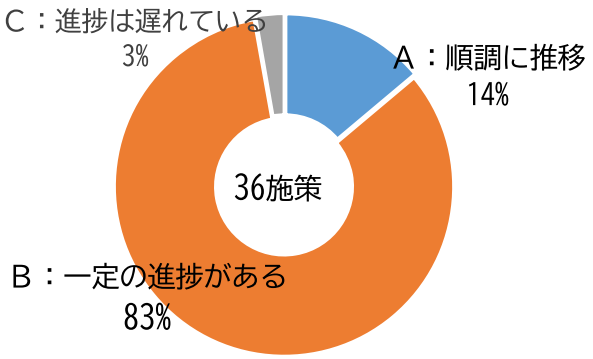
（１）施策の進捗状況

36 施策の令和５年度における進捗状況を評価した結果、「Ａ：順調に推移した施策」は５件（14%）、「Ｂ：一定の進捗があった施策」が 30 件（83%）となりました。

（図表１）基本目標別の施策の進捗状況

施策の進捗区分	基本目標						区分合計	割合
	1	2	3	4	5	6		
A 順調に推移（目標達成又は進捗している）	0（±0）	0（-4）	3（±0）	0（±0）	1（+1）	1（±0）	5（-3）	13.9%
B 一定の進捗がある（目標達成に向け一定の進捗がある）	7（+1）	8（+3）	2（±0）	6（±0）	4（-1）	3（±0）	30（+2）	83.3%
C 進捗が遅れている（目標達成が遅れる可能性がある）	0（±0）	1（+1）	0（±0）	0（±0）	0（+4）	0（±0）	1（+1）	2.8%
D 進捗が大幅に遅れている（目標達成が難しい可能性がある）	0（±0）	0（±0）	0（±0）	0（±0）	0（±0）	0（±0）	0（±0）	0.0%
合　　計	7	9	5	6	5	4	36	100.0%

（図表２）施策の進捗区分別の内訳



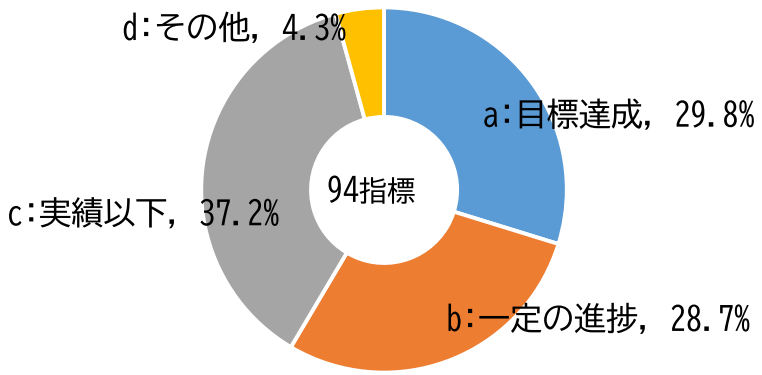
（２）成果指標の達成状況

・36 の施策に位置付けた成果指標は、94 項目あり、そのうち令和５年度で「a 目標値に達している指標」は、28 項目（30%）、「b 目標値に達していないものの計画策定時の実績値から一定の進捗が図れた指標」は、27 項目（29%）、「c 計画策定時の実績値を下回った指標」は、35 項目（37%）となりました。

（図表３）基本目標別の施策の成果指標の達成状況

成果指標の達成状況	基本目標						区分合計	割合
	1	2	3	4	5	6		
a 目標達成（目標値に達している指標）	9 (+1)	5 (−1)	3 (±0)	6 (±0)	4 (+4)	1 (±0)	28 (+4)	29.8%
b 一定の進捗（目標値に達していないものの計画策定時の実績値から一定程度進捗が図れている指標）	6 (+1)	5 (+1)	7 (+1)	3 (±0)	3 (−4)	3 (±0)	27 (−1)	28.7%
c 実績以下（計画策定時の実績値を下回った指標）	7 (−2)	14 (±0)	2 (−2)	6 (+1)	5 (±0)	1 (−4)	35 (−7)	37.2%
d その他（達成状況の判断のつかないもの）	0	0	0	0	0	4 (+4)	4 (+4)	4.3%
合　　計	22	24	12	15	12	9	94	100.0%

（図表４）成果指標の達成区分別の内訳



●成果指標の進捗状況一覧

施策番号	目標とする指標	目標値						単位	R5指標の達成状況
		R1（実績）	R2（実績）	R3（実績）	R4（実績）	R5（実績）	R8（目標）		
1	特定健康診査の受診率（受診者数÷対象者数）	31.3	30.7	35.7	34.0	34.1	34.0	%	a:目標達成
1	がん検診の受診率	25.0	23.5	25.1	24.9	26.1	33.0	%	b:一定進捗
1	温水プールの年間利用者数	13,032	9,525	14,834	14,817	16,024	27,000	人	b:一定進捗
2	認定こども園・保育所待機児童数	0	0	0	0	0	0	人	a:目標達成
2	放課後児童クラブ待機児童数	0	0	0	0	0	0	人	a:目標達成
2	乳幼児健康診査受診率	94.4	87.9	92.2	101.6	100.6	100	%	a:目標達成
2	子育て支援講座参加者数	6	0	23	27	16	30	人	b:一定進捗
2	放課後子ども教室参加児童数	28	22	28	27	55	30	人	a:目標達成
3	ボランティア団体数	10	10	10	10	9	12	団体	c:実績以下
3	住民交流会（サロン）設置地域数及び団体数	5 11	5 11	5 11	5 11	5 11	5 12	地域 団体	b:一定進捗
4	ひとり暮らし老人等緊急通報システム事業の設置世帯数	35	35	33	31	30	50	世帯	c:実績以下
4	長寿健康診査の受診率（受診者数÷対象者数）	36.6	38.1	32.7	36.0	34.8	40.0	%	c:実績以下
4	配食サービス事業の年間の延べ配食数	5,996	5,393	4,903	4,875	3,827	6,300	食	c:実績以下
4	老人クラブの会員数	593	493	436	395	369	565	人	c:実績以下
5	在宅障がい児の機能訓練会等への参加者数（年間延べ人数）	218	132	178	205	152	230	人	c:実績以下
5	訪問系サービス利用者数（人／月）	10	13	13	8	10	13	人	b:一定進捗
5	施設入所者数	17	16	15	13	12	15	人	a:目標達成
6	国民健康保険料の収納率	80.9	81.5	85.2	86.9	86.4	83.0	%	a:目標達成
6	高齢者の健康相談件数	166	505	781	55	30	309	件	c:実績以下
7	認定こども園・保育所待機児童数（再掲）	0	0	0	0	0	0	人	a:目標達成
7	子育て支援講座参加者数（再掲）	6	0	23	27	16	30	人	b:一定進捗
7	男女共同参画講演会満足度（アンケート）	-	-	-	100	100	80.0	%	a:目標達成
8	町内小・中学校児童・生徒の地域行事への参加率	75.8	コロナにより未実施	65.0	65.5	70.9	80.0	%	c:実績以下
8	町内小・中学校児童・生徒の読書量が1日30分以上の割合	62.6	コロナにより未実施	32.5	35.3	29.7	70.0	%	c:実績以下
8	それぞれの子どもが持っている自尊感情の度合い	65.0	67.0	68.3	68.4	74.6	70.0	%	a:目標達成
9	全公民館の年間利用者数	25,120	14,469	20,029	24,649	24,170	15,000	人	a:目標達成
9	町民一人当たりの図書貸出冊数	1.89	1.62	2.04	1.94	1.90	2	冊	b:一定進捗
9	自治学習出張講座の利用件数	3	2	2	3	2	5	件	c:実績以下
9	生涯学習フェスティバル登録行事数（文化系行事）	3	5	1	2	2	5	回	c:実績以下
10	町民文化祭の参加人数	527	428	471	475	540	550	人	b:一定進捗
11	家庭教育講座参加者数	77	0	0	57	74	80	人	c:実績以下
11	幼保小中学校での家庭教育に関する取組数	34	0	0	0	4	12	件	c:実績以下
11	広報等での家庭教育啓発記事数	6	6	6	6	6	6	件	a:目標達成

施策番号	目標とする指標	目標値						単位	R5指標の達成状況
		R1（実績）	R2（実績）	R3（実績）	R4（実績）	R5（実績）	R8（目標）		
12	青少年関係事業への児童・生徒の参加率	20.0	0.0	0.0	23.3	16.0	20.0	%	c:実績以下
13	箱根関所入館者数	280,017	116,900	127,024	198,174	226,172	400,000	人	c:実績以下
13	郷土資料館利用者数	6,992	3,193	4,359	4,276	5,136	10,000	人	c:実績以下
13	文化財ボランティア数（延人数）	54	0	0	8	8	100	人	c:実績以下
13	郷土資料館所蔵資料の利用点数	48	27	50	139	85	100	点	b:一定進捗
13	箱根関所学校利用プログラム利用件数	96	43	51	67	87	150	件	c:実績以下
14	箱根路森林浴ウォーク町民参加者数	63	0	0	24	28	150	人	c:実績以下
14	箱根町総合体育館の稼働率	40.5	37.1	26.3	34.0	38.6	50.0	%	c:実績以下
14	スポーツ教室・大会等開催回数	3	0	0	1	3	5	回	b:一定進捗
15	男女共同参画講演会満足度（アンケート）（再掲）	-	-	-	100	100	80.0	%	a:目標達成
15	審議会等における女性委員の割合	20.5	22.1	22.9	20.5	23.9	30.0	%	b:一定進捗
16	ホストタウン相手国との交流回数	1	0	2	1	0	1	回	c:実績以下
16	姉妹都市・友好都市との訪問団派遣・受入回数	0	0	0	1	2	1	回	a:目標達成
17	町道16路線の整備エリアの整備率	3,106	3,380	3,764	4,448	5,117	6,400	m	b:一定進捗
		48.5	52.8	58.8	69.5	80.1	100	%	
17	橋りょう保全改修数	5	6	6	6	6	9	橋	b:一定進捗
		55.6	66.7	66.7	66.7	66.7	100	%	
18	空き家バンク登録件数（累計）	54	58	61	73	82	100	件	b:一定進捗
18	お試し移住・体験者数（年間）	3	4	5	5	7	20	件	b:一定進捗
19	花いっぱい運動参加団体数	23	23	26	28	28	25	団体	a:目標達成
19	美化清掃参加団体数	30	29	32	28	32	35	団体	b:一定進捗
19	不法投棄パトロール回数	25	23	31	33	31	30	回	a:目標達成
19	有害野生鳥獣（猪）捕獲数（３か年平均）	73	71	73	59	44	70	頭	c:実績以下
20	水道事業における有収水量率	84.9	84.1	83.9	84.1	84.0	85.9	%	c:実績以下
20	第１号公共下水道整備率	89.8	90.4	90.5	90.5	90.5	98.6	%	b:一定進捗
20	第２号公共下水道整備率	78.7	78.9	78.9	78.9	78.9	88.6	%	b:一定進捗
21	パークアンドサイクルの年間利用件数	4,466	3,708	3,237	4,874	5,917	4,500	件	a:目標達成
22	ごみの資源化率	5.8	6.7	5.9	5.4	5.5	12.0	%	c:実績以下
22	ごみの焼却処理量	13,956	10,828	11,118	12,199	12,434	13,100	トン	a:目標達成
23	資源保全基金の年間寄付金額	4,799	2,683	2,062	4,150	4,666	6,000	千円	c:実績以下
23	豊かな森林づくり（水源かん養）の実施面積（実施町有地の延面積）	145	176	212	249	279	499	ha	b:一定進捗
23	間伐材搬出促進事業に係る搬出実施面積（累計）	86	93	99	106	112	104	ha	a:目標達成
24	景観まちづくり協力店の認定件数（累計）	15	15	15	15	15	30	件	b:一定進捗
25	神奈川県西部地震の被害想定に基づく、避難者及び帰宅困難者のための食料備蓄率	100	100	100	100	100	100	%	a:目標達成

施策番号	目標とする指標	目標値						単位	R5指標の達成状況
		R1（実績）	R2（実績）	R3（実績）	R4（実績）	R5（実績）	R8（目標）		
25	防災講演、出前出張講座等の依頼数に対する講演会等の実施回数	2	0	20	22	2	5	回	b:一定進捗
25	木造住宅耐震診断費に対する年間助成件数	2	0	1	2	1	5	件	c:実績以下
26	応急手当の普及啓発受講者数	602	7	121	408	816	750	人	a:目標達成
26	消防団員数	327	325	309	306	317	370	人	c:実績以下
27	町立小学校及び認定こども園・幼稚園・保育所での交通安全教室開催回数	7	7	7	7	7	7	回	a:目標達成
27	町内高齢者（65歳以上）へのドライビングスクールの参加者数	15	0	0	0	5	15	人	c:実績以下
27	消費生活に関する相談件数	44	53	31	41	40	50	件	c:実績以下
27	交通安全施設の重点点検	0	1	2	2	2	2	回	a:目標達成
28	観光協会ホームページのアクセス数	296	219	265	297	343	300	万回	a:目標達成
29	森のふれあい館の入館者数	14,208	11,428	14,014	15,178	13,559	18,000	人	c:実績以下
29	箱根ジオミュージアムの入館者数	56,780	68,735	81,724	123,648	153,763	153,000	人	a:目標達成
29	箱根湿生花園の入館者数	78,369	52,823	59,751	65,925	55,620	92,000	人	c:実績以下
30	年間入込客数	1,896	1,257	1,350	1,736	1,951	2,000	万人	b:一定進捗
30	観光産業融資利子補給事業の利用件数	4	0	0	0	0	10	件	c:実績以下
30	外国人宿泊観光客数	576,183	40,038	4,028	41,564	343,826	400,000	人	c:実績以下
30	箱根DMO公認観光ガイド	-	0	0	48	71	60	人	a:目標達成
31	箱根ジオパークサポーター登録者数	36	40	48	58	64	100	人	b:一定進捗
31	箱根ジオミュージアム入館者アンケートにおける箱根ジオパークの認知度	22.5	コロナにより未実施	コロナにより未実施	コロナにより未実施	20.2	80.0	%	c:実績以下
32	畑宿寄木会館来館者数	9,947	4,549	7,422	9,695	10,955	13,000	人	b:一定進捗
32	寄木細工専用ホームページアクセス数	-	0	0	93,166	124,305	100,000	回	a:目標達成
33	活力あるまちづくり新規補助件数	1	1	0	4	1	3	団体	b:一定進捗
33	町政モニター延べ回答者数	31	127	164	110	100	240	人	b:一定進捗
34	行財政改革アクションプランの進捗率	33.0	29.0	37.0	37.0	31.0	100	%	c:実績以下
34	町税徴収率（３か年平均）	94.9	93.9	93.8	93.8	95.0	95.2	%	b:一定進捗
35	町民のSDGs認知度の向上	40.0	未実施	未実施	未実施	未実施	80.0	%	d:その他
35	箱根町SDGs推進計画（仮称）の策定	-	-	-	策定中	策定済	策定済	-	a:目標達成
36	新型コロナウイルス感染者数	-	24	315	1,493	-	0	人	d:その他
36	クラスター発生数	-	-	-	-	-	0	件	d:その他
36	避難所における新型コロナウイルス感染症新規感染者数	-	-	-	-	-	0	人	d:その他

（凡例）
a:目標達成（目標値に達している指標）
b:一定の進捗（目標値に達していないものの計画策定時の実績値から一定程度進捗が図れている指標）
c:実績以下（計画策定時の実績値を下回った指標）
d:その他（達成状況の判断のつかないもの）

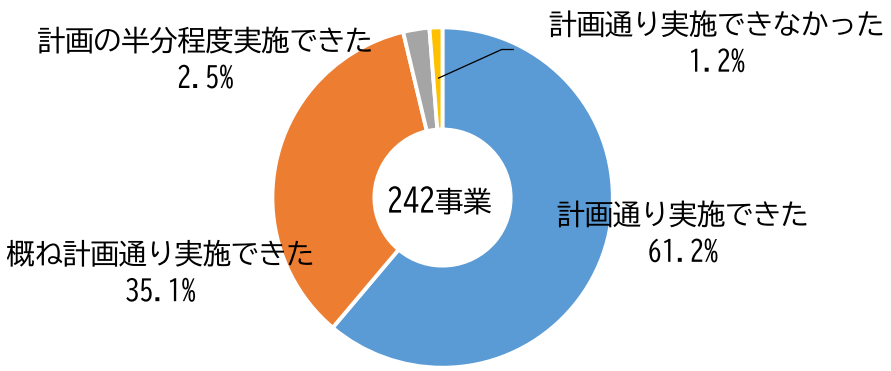
（３）事業の進捗状況

36 の施策の展開に資する事業として令和５年度に位置付けた 243 事業のうち、「計画通り実施できた」ものが 148 事業（61%）、「概ね計画通り実施できた」ものが 85 事業（35%）となりました。一方、「計画の半分程度実施できた」ものは６事業（２%）あり、「計画通り実施できなかった」ものは３事業（１%）となりました。

（図表５）基本目標別の事業の進捗状況

事業の進捗区分	基本目標						区分合計	
	1	2	3	4	5	6		割合
計画通り実施できた	33	22	23	27	30	13	148	61.2%
概ね計画通り実施できた	25	24	11	12	7	6	85	35.1%
計画の半分程度実施できた	2	0	3	1	0	0	6	2.5%
計画通り実施できなかった	0	0	1	2	0	0	3	1.2%
合　　計	60	46	38	42	37	19	242	100.0%

（図表６）施策の進捗区分別の内訳



4　施策別の評価シート

（1）施策別の評価シートの見かた

施策別評価シートは、施策評価のツールとして、36 の施策ごとに、施策の取組方針や成果指標に対して、施策の展開に資する事務事業の実施により、どのような成果が得られたか等について施策担当課が作成し、その結果をもとに施策責任者が施策の達成状況について評価したものです。

施策別評価シートと記載内容の見かたは、次のとおりです。

第６次総合計画　施策別評価シート（令和５年度）

基本目標１ 皆が支えあう、誰もが元気なまちづくり

施策３ 地域福祉の充実

総合計画上の位置付け
重点施策の有無を示しています

今後の取組方針
前期基本計画で定めた施策の取組方針を示しています。

施策の展開
施策の展開項目と施策担当課、施策責任者を示しています。

1　施策の概要

重点施策	分野１ 防災力の強化〔施策の展開 1-3-4が該当〕 分野３ 健康生活の推進〔施策の展開 1-3-3, 1-3-6, 1-3-7が該当〕 分野５ 持続可能なまちづくり〔施策の展開 1-3-3が該当〕
今後の取組方針	◇ 町民自らが福祉に取組む地域福祉のまちづくりを目指し、地域による見守り体制の構築に努めます。 ◇ 複雑化・複合化した支援ニーズに対応する包括的な支援体制を構築し、重層的支援を行えるよう努めます。 ◇ 住み慣れた地域で安全・安心な生活が持続できるよう、ともに生きる地域福祉体制の構築を図り、共生社会を目指します。

施策の展開	施策担当課	施策責任者
1-3-1　福祉意識の向上 1-3-2　地域で取り組む認知症対策の推進 1-3-3　見守り活動・福祉活動への理解促進 ◎ 1-3-4　安全対策の充実 ◎ 1-3-5　健康づくり・介護予防の充実 1-3-6　地域交流・異世代交流の推進 ◎ 1-3-7　ボランティア活動の推進 ◎	福　祉　課	福祉部長

目標指標
施策の具体的な目標の数値化と達成度を測る手段として設定した指標を示しています。

その他指標
目標とする指標以外の定量的な成果(実績)を示しています。

その他定性的な成果
数値では把握できない定性的な成果を示しています。

指標等の成果分析
指標等の成果の分析結果を示しています。

2　目標指標やその他成果などの状況と成果の分析

目標指標 1　ボランティア団体数

元年度(基準)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(実績)	7年度(実績)	8年度(目標)
10	10	10	10	9			12

目標指標 2　住民交流会（サロン）設置地域数（単位：団体）

元年度(基準)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(実績)	7年度(実績)	8年度(目標)
5	5	5	5	5			5

目標指標 2　住民交流会（サロン）設置団体数（単位：団体）

元年度(基準)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(実績)	7年度(実績)	8年度(目標)
11	11	11	11	11			12

その他 1　民生委員・児童委員の充足率（年度末現員数／定員数*100）（単位：%）

元年度(基準)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(実績)	7年度(実績)	8年度(目標)
97.7	97.7	97.7	100.0	100.0			

その他定性的な成果（取組みを進めたことで発現した効果などについて記載）

・ボランティア団体等における地域での積極的な活動により、地域福祉体制におけるボランティアやサロンの必要性について、理解が広がりつつあります。

指標等の成果分析（指標の目標値達成を阻む外的要因等を含めて記載）

・目標とする指標のうち、ボランティア団体数は、減少しているものの、住民交流会は全地域に設置されています。
・民生委員・児童委員の充足率については、令和4年度に引き続き100%となっていますが、高齢化等に伴い、各地域において後任の推薦が難しくなっていることが今後の課題です。

3　施策を構成する実施計画事業の評価

No.	事務事業名	事業の進捗度	今後の方向性
1	認知症見守り支援事業	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
2	生活支援体制整備事業（介護保険特別会計）	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
3	介護予防普及啓発事業（介護保険特別会計）	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
4	保健福祉サービス調整機構運営事業	概ね計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
5	箱根町社会福祉協議会運営補助事業	概ね計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
6	地域支え合い推進事業	概ね計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
7	特別支援給付金給付事業	概ね計画通り実施できた	廃止
8	緊急支援給付金給付事業	概ね計画通り実施できた	廃止

4　施策の進捗状況

区　　分	選択区分	進捗状況区分を選択した理由
A ： 順調に推移 （目標達成又は進捗している） B ： 一定の進捗がある （目標達成に向け一定の進捗がある） C ： 一定の進捗がある （目標達成が遅れる可能性がある） D ： 進捗は大幅に遅れている （目標達成が難しい可能性がある）	B 前年度：B	・住民交流会（サロン）は、今後、活動を維持させていくためには新たな担い手の確保やリーダーの育成などが課題となりますので、箱根町社会福祉協議会とさらなる連携を図っていきます。 ・民生委員・児童委員は、各地域で後任の推薦が難しくなっています。令和６年度には一斉改選が行われますので、自治会と連携し、民生委員・児童委員の確保向けた対策の取組みに繋げていきます。

※指標等の成果を中心に施策を構成する実施計画事業の評価等から総合的に評価しています。

5　今後の方向性

区　　分	選択区分	「今後の方向性」及び「事業構成の妥当性」を選択した理由
① ： 現状のまま継続する （効果的な事業構成である） ② ： 一部見直し等の余地がある （概ね効果的な事業構成である） ③ ： 見直し等の余地は大きい （あまり効果的な事業構成ではない） ④ ： 抜本的見直し等が必要 （事業構成に問題がある）	②	・住民交流会（サロン）は、今後、活動を維持させていくためには新たな担い手の確保やリーダーの育成などが課題となりますので、箱根町社会福祉協議会とさらなる連携を図っていきます。 ・民生委員・児童委員は、各地域で後任の推薦が難しくなっています。令和６年度には一斉改選が行われますので、自治会と連携し、民生委員・児童委員の確保向けた対策の取組みに繋げていきます。

※これまでの評価結果を踏まえて、施策の今後の方向性として事業の構成や手法などが妥当か評価しています。

事務事業名
事務事業の名称を示しています。

事業の進捗度
今後の方向性
事業の進捗度や
今後の方向性を
方向性を示しています。

※事業の進捗度
- 計画通り実施できた
- 概ね計画通り実施できた
- 計画の半分程度実施できた
- 計画通り実施できなかった

※今後の方向性
- 計画通り実施（予定）
- 計画を変更し実施（予定）
- 廃止
- 休止

施策の達成状況
指標等の成果を中心に施策を構成する事務事業の評価等から総合的に評価した、施策の達成状況結果を示しています。

今後の方向性
施策の成果等とともに上記の構成事業を踏まえ、実施計画のローリングに向けて、事業の見直し等を行う必要があるか等を検討した結果をもとに今後の方向性を示しています。

〔施策の進捗状況区分〕

記号	区　　分	内　　容
A	順調に推移した （目標達成又は進捗している）	施策に設定した成果指標が目標値に達している又は目標値に向かって進捗しており、施策の展開に資する事務事業が順調に推移した施策
B	一定の進捗がある （目標達成に向け一定の進捗がある）	施策に設定した成果指標の多くが計画策定時の実績値から目標値に向かって一定の進捗があり、施策の展開に資する事務事業が概ね順調に推移した施策
C	進捗が遅れている （目標達成が遅れる可能性がある）	施策に設定した成果指標のうち、計画策定時の実績値を下回る指標が多い施策や、施策の展開に資する事務事業のうち複数の事業が遅れた施策
D	進捗が大幅に遅れている （目標達成が難しい可能性がある）	施策に設定した成果指標のうち、計画策定時の実績値を大幅に下回る指標が多い施策や、施策の展開に資する事務事業のうち複数の事業が大幅に遅れた施策

〔今後の方向性の区分〕

記号	区　　分	内　　容
①	現状のまま継続する （効果的な事業構成である）	効果的な事業構成であり、現状のまま継続すれば目標年次（R8）に成果指標や定性的な成果が見込まれる施策
②	一部見直し等の余地がある （概ね効果的な事業構成である）	概ね効果的な事業構成であるものの、目標年次（R8）に成果指標や定性的な成果を得るためには、事業の一部で見直しが必要な施策
③	見直し等の余地は大きい （あまり効果的な事業構成ではない）	あまり効果的な事業構成ではないため、目標年次（R8）に成果指標や定性的な成果を得るためには、事業の多くで見直しが必要な施策
④	抜本的見直し等が必要 （事業構成に問題がある）	事業構成に問題があるため、目標年次（R8）に成果指標や定性的な成果を得ることが困難であり、構成事業の抜本的な見直しが必要な施策

（２）施策評価結果一覧・施策別評価シート

施策		評価結果		施策別評価ｼｰﾄのﾍﾟｰｼﾞ
		施策の進捗状況	今後の方向性	
1	健康づくりの推進	B	②	16
2	子育て支援の充実	B	②	18
3	地域福祉の充実	B	②	20
4	高齢者福祉の充実	B	②	22
5	障がい者福祉の充実	B	②	24
6	社会保障の充実	B	②	26
7	ワーク・ライフ・バランスの実現	B	②	28
8	学校教育の充実	B	①	30
9	生涯学習の推進	B	②	32
10	文化・芸術活動の推進	B	①	34
11	家庭教育の充実	B	①	36
12	青少年の健全育成	B	①	38
13	文化財の保護と活用	C	②	40
14	スポーツ活動の推進	B	①	42
15	男女共同参画・人権尊重の推進	B	①	44
16	多文化交流の実現	B	②	46
17	道路・交通網の充実	A	①	48
18	住環境の整備	B	②	50
19	生活環境の整備	A	①	52
20	上下水道の整備	B	②	54
21	地域交通の利便性の確保	A	①	56
22	循環型社会の形成	B	①	58
23	自然環境の保全	B	②	60
24	景観の保全・形成	B	②	62
25	防災対策の推進	B	①	64
26	消防・救急対策の充実	B	①	66
27	交通安全・防犯の充実	B	②	68
28	観光資源の開発と活用	B	②	70
29	観光拠点整備と魅力向上	B	②	72
30	多様な観光資源を活用した誘客と受入態勢の整備	A	①	74
31	箱根ジオパークの推進	B	②	76
32	伝統産業や観光行事の振興	B	②	78
33	協働のまちづくりの推進	B	①	80
34	計画的な行財政運営	B	①	82
35	ＳＤＧｓの推進	B	①	84
36	コロナ対策の推進	A	①	86

第６次総合計画　施策別評価シート（令和５年度）

基本目標１　皆が支えあう、誰もが元気なまちづくり

施策１　健康づくりの推進

１　施策の概要

重点施策	分野３　健康生活の推進〔施策の展開　1-1-1, 1-1-2, 1-1-7が該当〕
今後の取組方針	◇ 町民一人ひとりの健康づくりを支援するため、健康診査の受診勧奨及び周知徹底を図り、特定保健指導についても積極的な支援を図っていきます。また、人間ドックの補助金制度についても実施できるよう努めます。 ◇ 町内における一次医療機関の充実とかかりつけ医の推進を図るとともに、救急医療や災害時医療体制の整備・充実を推進します。

施策の展開	施策の展開	施策担当課	施策責任者
	1-1-1　健康づくり・食育の推進 ◎ 1-1-2　健康づくり・食育の支援 ◎ 1-1-3　がん検診・成人歯科検診の受診促進 1-1-4　感染症対策の推進 1-1-5　特定健康診査、特定保健指導の促進 1-1-6　健康づくり・食育関係団体との協働 1-1-7　未病センターの充実 ◎ 1-1-8　地域医療の充実 1-1-9　救急医療・災害時医療体制の整備・充実	保険健康課 生涯学習課	福祉部長

２　目標指標やその他成果などの状況と成果の分析

目標指標

1　特定健康診査の受診率（受診者数÷対象者数）（単位：％）

元年度(基準)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(実績)	7年度(実績)	8年度(目標)
31.3	30.7	35.7	34.0	**34.1**			34.0

2　がん検診の受診率（受信者数÷対象者数）（単位：％）

元年度(基準)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(実績)	7年度(実績)	8年度(目標)
25.0	23.5	25.1	24.9	**26.1**			33.0

3　温水プールの年間利用者数（単位：人）

元年度(基準)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(実績)	7年度(実績)	8年度(目標)
13,032	9,525	14,834	14,817	**16,024**			27,000

その他

1　健康づくり関係団体との共催イベント数（単位：件）

元年度(基準)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(実績)	7年度(実績)	8年度(目標)
49	8	29	31	**37**			

2　食育サポートメイト養成数（食育サポートメイト養成講座の修了者数）（単位：人）

元年度(基準)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(実績)	7年度(実績)	8年度(目標)
2	0	1	1	**0**			

その他定性的な成果（取組みを進めたことで発現した効果などについて記載）

・さくら館温水プールの活用や各種健康づくり団体の活動により健康づくりの場を提供することができています。
・年１回の受診により、自身の健康状態を把握してもらうことができていますが、目標値との乖離が大きいため、受診率の向上対策として、がん検診については、町の検診が主な受診機会であると思われる国保被保険者20～74歳を対象とした受診勧奨を委託するとともに、集団検診時の子宮・乳がん検診の担当医師に女性を配置し、受診率向上に取り組みました。

指標等の成果分析（指標の目標値達成を阻む外的要因等を含めて記載）
・特定健診及び、がん検診に関しては県内でも比較的高い受診率を達成しているものの、未だ目標値に到達していません。 ・検診項目によっては取扱医療機関が限られることに加え、令和4年末で町内医療機関が1減となったことから、令和4年度において受診率が低下しましたが、集団検診においては、休日実施数の増加、子宮・乳がん検診の担当医師に女性を配置する等、実施体制を整備し、令和5年度は受診率が上昇しています。今後も引き続き、受診機会の拡充および効果的な受診勧奨が重要です。 ・さくら館温水プールの利用状況に関しては、新型コロナウイルス感染症の影響により利用者数が減少しましたが、令和5年度は利用者が増加しています。しかし、依然として、コロナ禍前までの利用者数までは回復していないため、引き続き利用者の呼び戻しや新たな利用者の掘り起しが課題となっています。

3　施策を構成する実施計画事業の評価

No.	事務事業名	事業の進捗度	今後の方向性
1	健康づくり推進事業	概ね計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
2	総合保健福祉センター整備事業	概ね計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
3	総合保健福祉センター利用促進事業	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
4	特定健康診査等事業（国民健康保険特別会計）	概ね計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
5	生活習慣病予防推進事業	概ね計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
6	女性特有のがん検診推進事業	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
7	子宮頸がんワクチン接種事業	計画通り実施できた	廃止
8	風しん対策事業	計画通り実施できた	廃止
9	地域医療体制推進事業	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
10	地震等災害医療対策事業	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
11	休日急患救急医療推進事業	概ね計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
12	帯状疱疹ワクチン接種事業	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）

4　施策の進捗状況

区　　分	選択区分	進捗状況区分を選択した理由
A ： 順調に推移 （目標達成又は進捗している） B ： 一定の進捗がある （目標達成に向け一定の進捗がある） C ： 一定の進捗がある （目標達成が遅れる可能性がある） D ： 進捗は大幅に遅れている （目標達成が難しい可能性がある）	B 前年度：B	・特定健康診査及びがん検診の受診率については、未受診者などを対象に勧奨通知等による受診勧奨を行うとともに、検診時に女性医師の配置を増やすなど、受診しやすい環境を整えてきておりますが、今後も、更なる受診率の向上につながるような工夫を引き続き進めていきます。 ・医療体制の確保については、医師の高齢化等の問題を考慮し、将来を見据えた効果的な施策について町内の医師と共に、調査研究をしていきます。 ・さくら館温水プールは、利用しやすい環境を創出していくとともに、地域との連携や民間活力の導入など、調査研究をしていきます。

※指標等の成果を中心に施策を構成する実施計画事業の評価等から総合的に評価しています。

5　今後の方向性

区　　分	選択区分	「今後の方向性」及び「事業構成の妥当性」を選択した理由
① ： 現状のまま継続する （効果的な事業構成である） ② ： 一部見直し等の余地がある （概ね効果的な事業構成である） ③ ： 見直し等の余地は大きい （あまり効果的な事業構成ではない） ④ ： 抜本的見直し等が必要 （事業構成に問題がある）	②	・特定健康診査及びがん検診の受診率については、未受診者などを対象に勧奨通知等による受診勧奨を行うとともに、検診時に女性医師の配置を増やすなど、受診しやすい環境を整えてきておりますが、今後も、更なる受診率の向上につながるような工夫を引き続き進めていきます。 ・医療体制の確保については、医師の高齢化等の問題を考慮し、将来を見据えた効果的な施策について町内の医師と共に、調査研究をしていきます。 ・さくら館温水プールは、利用しやすい環境を創出していくとともに、地域との連携や民間活力の導入など、調査研究をしていきます。

※これまでの評価結果を踏まえて、施策の今後の方向性として事業の構成や手法などが妥当か評価しています。

第６次総合計画　施策別評価シート（令和５年度）

基本目標１ 皆が支えあう、誰もが元気なまちづくり

施策２ 子育て支援の充実

１　施策の概要

重点施策	分野２ 若者定住の促進〔施策の展開 1-2-3, 1-2-9が該当〕		
今後の取組方針	◇ 「箱根町第２次子ども・子育て支援事業計画」に基づき、総合的に各種施策を推進し、子育て支援制度の周知と利用促進を図ります。 ◇ 子育ての課題に応じた施策に総合的に取組むことで、子どもの最善の利益の確保や少子化対策を推進していきます。		
施策の展開	施　策　の　展　開	施策担当課	施策責任者
	1-2-1　子育て相談・支援体制の充実 1-2-2　母子等の健康の確保及び増進 1-2-3　地域における子育ての支援 ◎ 1-2-4　保育サービスと放課後児童対策の充実 1-2-5　質の高い教育・保育の推進 1-2-6　子どもの人権擁護の推進 1-2-7　ひとり親家庭等への支援 1-2-8　子どもの貧困対策の推進 1-2-9　子育てしやすい住環境づくり ◎ 1-2-10　子育て世代への負担軽減	子育て支援課 学校教育課 生涯学習課	福祉部長

２　目標指標やその他成果などの状況と成果の分析

目標指標

1　認定こども園・保育所待機児童数（単位：人）

元年度(基準)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(実績)	7年度(実績)	8年度(目標)
0	0	0	0	**0**			0

2　放課後児童クラブ待機児童数（単位：人）

元年度(基準)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(実績)	7年度(実績)	8年度(目標)
0	0	0	0	**0**			0

3　乳幼児健康診査受診率（単位：%）

元年度(基準)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(実績)	7年度(実績)	8年度(目標)
94.4	87.9	92.2	101.6	**100.6**			100

4　子育て支援講座参加者数（単位：人）

元年度(基準)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(実績)	7年度(実績)	8年度(目標)
6	0	23	27	**16**			30

5　放課後子ども教室参加児童数（単位：人）

元年度(基準)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(実績)	7年度(実績)	8年度(目標)
28	22	28	27	**55**			30

その他

1　シェアコンシェルジュ登録人数（単位：人）

元年度(基準)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(実績)	7年度(実績)	8年度(目標)
0	0	0	9	**4**			

その他定性的な成果（取組みを進めたことで発現した効果などについて記載）

・認定こども園、保育所へ保育を必要とする児を待機なく受入れできたことで、男女ともに仕事と家庭等バランスを取りながら働くことができる環境の整備ができました。
・ 放課後児童クラブの運営により、働きながら子育てができる環境を提供し、小学生の健全な育成に繋げることができています。
・「子育てシェアタウン推進事業」では、子育て世帯の交流と相互の助け合いの機会を創出することで安心して子育てができる環境づくりを進めることができました。
・令和5年4月から小児医療費の助成対象を中学生から高校生までに拡大し、子育て世帯の更なる負担軽減を図ることができました。

指標等の成果分析（指標の目標値達成を阻む外的要因等を含めて記載）

・保育を希望し始める年齢が低年齢化しているため、0～2歳児の待機を出さないように保育士の確保等に努め待機児童ゼロを継続しています。
・放課後児童クラブは、令和2年10月から公設民営とし、運営を外部委託したことから、質の向上と安定的な運営を図りました。令和4年4月からは運営内容を拡充したことで子どもの健全育成と子育て家庭の更なる支援を図ることができました。
・乳幼児健康診査の受診率は、対象者の一時帰国や転出等で受診率の変動があるが、引き続き、集団健診を毎月行い受診しやすい体制を継続しながら、未受診者へは受診勧奨を行い受診率の向上につなげていきます。
・子育て支援講座については、気軽に参加できる場を提供していくため、開催場所や開催方法を検討し、参加者数の増を図ります。
・子育てシェアタウンの担い手となるシェアコンシェルジュの発掘・育成やイベントの開催、アプリの普及を継続して行い、町全体で子育てをする意識醸成が徐々に高まっており、引き続き安心して子育てを続けられる環境構築を図ります。

3　施策を構成する実施計画事業の評価

No.	事務事業名	事業の進捗度	今後の方向性
1	子育て支援センター等運営事業	概ね計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
2	箱根っこわくわくふれあい事業	概ね計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
3	子育て世代包括支援事業	概ね計画通り実施できた	計画変更し実施（予定）
4	乳幼児保育等利用費補助事業	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
5	子育てシェアタウン推進事業	概ね計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
6	小児医療費助成事業	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
7	母子保健推進事業	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
8	放課後子ども教室運営事業	概ね計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
9	認定こども園整備事業	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
10	箱根保育教育推進事業	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
11	子育て家庭応援事業	計画通り実施できた	計画変更し実施（予定）
12	放課後児童健全育成事業	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
13	こども宅食サービス事業	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
14	子育て世帯生活支援特別給付金給付事業	計画通り実施できた	廃止
15	子育て世帯応援給付金給付事業	計画通り実施できた	廃止
16	子ども・子育て支援事業計画策定事業	計画の半分程度実施できた	計画通り実施（予定）

4　施策の進捗状況

区　　分	選択区分	進捗状況区分を選択した理由
A ： 順調に推移 （目標達成又は進捗している） B ： 一定の進捗がある （目標達成に向け一定の進捗がある） C ： 一定の進捗がある （目標達成が遅れる可能性がある） D ： 進捗は大幅に遅れている （目標達成が難しい可能性がある）	B 前年度：B	・保育を必要とする児童を、認定こども園や保育園へ待機なく受入れすることができたことで、男女ともに仕事と家庭等バランスを取りながら働くことができる環境の整備ができています。 ・ 放課後児童クラブの運営により、働きながら子育てができる環境を提供し、小学生の健全な育成に繋げることができました。 ・「子育てシェアタウン推進事業」により、子育て世帯の交流と相互の助け合いの機会を創出することで安心して子育てができる環境づくりを進めることができました。 ・令和5年4月から小児医療費の助成対象を中学生から高校生までに拡大し、子育て世帯の更なる負担軽減を図ることができました。

※指標等の成果を中心に施策を構成する実施計画事業の評価等から総合的に評価しています。

5　今後の方向性

区　　分	選択区分	「今後の方向性」及び「事業構成の妥当性」を選択した理由
① ： 現状のまま継続する （効果的な事業構成である） ② ： 一部見直し等の余地がある （概ね効果的な事業構成である） ③ ： 見直し等の余地は大きい （あまり効果的な事業構成ではない） ④ ： 抜本的見直し等が必要 （事業構成に問題がある）	②	・保育希望開始が低年齢化の傾向にあるため、0～2歳児の待機を出さないように保育士の確保等に努め待機児童ゼロを継続していきます。 ・放課後児童クラブは、今後もニーズの把握に努め、充実した支援を行っていきます。 ・乳幼児健康診査は、引き続き集団健診を毎月行い、受診しやすい体制を継続しながら、未受診者へは受診勧奨を行い受診率の向上につなげていきます。 ・子育て支援講座については、気軽に参加できる場を提供していくため、開催場所や開催方法を検討し、参加者数の増をを図るとともに、子育てシェアタウン推進事業により、子育ての担い手となるシェアコンシェルジュの発掘や育成やイベントの開催、アプリの普及を継続して行い、町全体で子育てをする意識醸成を図りながら、安心して子育てを続けられる環境構築につなげていきます。

※これまでの評価結果を踏まえて、施策の今後の方向性として事業の構成や手法などが妥当か評価しています。

第６次総合計画　施策別評価シート（令和５年度）

基本目標１　皆が支えあう、誰もが元気なまちづくり

施策３　地域福祉の充実

1　施策の概要

重点施策	分野１　防災力の強化〔施策の展開　1-3-4が該当〕 分野３　健康生活の推進〔施策の展開　1-3-3, 1-3-6, 1-3-7が該当〕 分野５　持続可能なまちづくり〔施策の展開　1-3-3が該当〕
今後の取組方針	◇ 町民自らが福祉に取組む地域福祉のまちづくりを目指し、地域による見守り体制の構築に努めます。 ◇ 複雑化・複合化した支援ニーズに対応する包括的な支援体制を構築し、重層的支援を行えるよう努めます。 ◇ 住み慣れた地域で安全・安心な生活が持続できるよう、ともに生きる地域福祉体制の構築を図り、共生社会を目指します。

施策の展開	施　策　の　展　開	施策担当課	施策責任者
	1-3-1　福祉意識の向上 1-3-2　地域で取り組む認知症対策の推進 1-3-3　見守り活動・福祉活動への理解促進　◎ 1-3-4　安全対策の充実　◎ 1-3-5　健康づくり・介護予防の充実 1-3-6　地域交流・異世代交流の推進　◎ 1-3-7　ボランティア活動の推進　◎ 1-3-8　情報提供・相談体制の充実 1-3-9　各種サービスの充実 1-3-10　社会福祉協議会への支援	福　祉　課	福祉部長

2　目標指標やその他成果などの状況と成果の分析

目標指標 1　ボランティア団体数

元年度(基準)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(実績)	7年度(実績)	8年度(目標)
10	10	10	10	9			12

目標指標 2　住民交流会（サロン）設置地域数（単位：団体）

元年度(基準)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(実績)	7年度(実績)	8年度(目標)
5	5	5	5	5			5

目標指標 2　住民交流会（サロン）設置団体数（単位：団体）

元年度(基準)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(実績)	7年度(実績)	8年度(目標)
11	11	11	11	11			12

その他 1　民生委員・児童委員の充足率（年度末現員数／定員数*100）（単位：%）

元年度(基準)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(実績)	7年度(実績)	8年度(目標)
97.7	97.7	97.7	100.0	100.0			

その他定性的な成果（取組みを進めたことで発現した効果などについて記載）

・ボランティア団体等における地域での積極的な活動により、地域福祉体制におけるボランティアやサロンの必要性について、理解が広がりつつあります。

指標等の成果分析（指標の目標値達成を阻む外的要因等を含めて記載）
・目標とする指標のうち、ボランティア団体数は、減少しているものの、住民交流会は全地域に設置されています。 ・民生委員・児童委員の充足率については、令和4年度に引き続き100%となっていますが、高齢化等に伴い、各地域において後任の推薦が難しくなっていることが今後の課題です。

3　施策を構成する実施計画事業の評価

No.	事務事業名	事業の進捗度	今後の方向性
1	認知症見守り支援事業	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
2	生活支援体制整備事業（介護保険特別会計）	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
3	介護予防普及啓発事業（介護保険特別会計）	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
4	保健福祉サービス調整機構運営事業	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
5	箱根町社会福祉協議会運営補助事業	概ね計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
6	地域支え合い推進事業	概ね計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
7	特別支援給付金給付事業	概ね計画通り実施できた	廃止
8	緊急支援給付金給付事業	概ね計画通り実施できた	廃止

4　施策の進捗状況

区　　分	選択区分	進捗状況区分を選択した理由
A ： 順調に推移 （目標達成又は進捗している） B ： 一定の進捗がある （目標達成に向け一定の進捗がある） C ： 一定の進捗がある （目標達成が遅れる可能性がある） D ： 進捗は大幅に遅れている （目標達成が難しい可能性がある）	B 前年度：B	・住民交流会（サロン）は、今後、活動を維持させていくためには新たな担い手の確保やリーダーの育成などが課題となりますので、箱根町社会福祉協議会とさらなる連携を図っていきます。 ・民生委員・児童委員は、各地域で後任の推薦が難しくなっています。令和６年度には一斉改選が行われますので、自治会と連携し、民生委員・児童委員の確保向けた対策の取組みに繋げていきます。

※指標等の成果を中心に施策を構成する実施計画事業の評価等から総合的に評価しています。

5　今後の方向性

区　　分	選択区分	「今後の方向性」及び「事業構成の妥当性」を選択した理由
① ： 現状のまま継続する （効果的な事業構成である） ② ： 一部見直し等の余地がある （概ね効果的な事業構成である） ③ ： 見直し等の余地は大きい （あまり効果的な事業構成ではない） ④ ： 抜本的見直し等が必要 （事業構成に問題がある）	②	・住民交流会（サロン）は、今後、活動を維持させていくためには新たな担い手の確保やリーダーの育成などが課題となりますので、箱根町社会福祉協議会とさらなる連携を図っていきます。 ・民生委員・児童委員は、各地域で後任の推薦が難しくなっています。令和６年度には一斉改選が行われますので、自治会と連携し、民生委員・児童委員の確保向けた対策の取組みに繋げていきます。

※これまでの評価結果を踏まえて、施策の今後の方向性として事業の構成や手法などが妥当か評価しています。

第６次総合計画　施策別評価シート（令和５年度）

基本目標１　皆が支えあう、誰もが元気なまちづくり

施策４　高齢者福祉の充実

1　施策の概要

重点施策	該当なし
今後の取組方針	◇ 高齢者が住み慣れた地域で尊厳を保持し、自立生活の支援の目的のもとで、いつまでも暮らし続けられるよう、地域共生社会の実現と地域包括ケアシステムの深化を目指します。 ◇ 老人クラブでの活動、外出支援策、介護予防体操などを通じて、高齢者の社会参加などの取組みを促進します。 ◇ 令和３（2021）年３月に更新した「第８期箱根町高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」に基づき、保健・医療・福祉の連携を図りながら、健康づくりや介護サービスの円滑な実施に努めます。 ◇ 継続的に長寿健康診査を受診してもらえるよう効果的な受診勧奨の実施に努めます。

施策の展開	施策の展開	施策担当課	施策責任者
	1-4-1　地域包括ケアシステムの構築 1-4-2　地域支援事業の充実 1-4-3　在宅福祉サービスの充実 1-4-4　地域包括支援センターの機能強化 1-4-5　高齢者の生きがい・やりがいづくりの推進 1-4-6　長寿健康診査受診率の向上 1-4-7　高齢者の健康増進対策 1-4-8　権利擁護の推進 1-4-9　高齢者サポート施策の実施 1-4-10　保険と介護予防の一体化事業の推進	福祉課 保険健康課	福祉部長

2　目標指標やその他成果などの状況と成果の分析

目標指標

1　ひとり暮らし老人緊急通報システム事業の設置世帯数（単位：世帯）

元年度(基準)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(実績)	7年度(実績)	8年度(目標)
35	35	33	31	30			50

2　長寿健康診査の受診率（単位：%）

元年度(基準)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(実績)	7年度(実績)	8年度(目標)
36.6	38.1	32.7	36.0	34.8			40

3　配食サービス事業の年間延べ配食数（単位：食）

元年度(基準)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(実績)	7年度(実績)	8年度(目標)
5,996	5,393	4,903	4,875	3,827			6,300

4　老人クラブの会員数（単位：人）

元年度(基準)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(実績)	7年度(実績)	8年度(目標)
593	493	436	395	369			565

その他定性的な成果（取組みを進めたことで発現した効果などについて記載）

・高齢者の安心・安全な暮らしを支える見守りや高齢者の生きがいややりがいにつながる活動を推進することができました。また、介護保険サービスや認知症等のについて理解を深め、実際に介護する立場になった際に必要な知識や介護技術、美容を通しての介護予防や健康寿命を延ばす為等の介護教室を年10回開催することができました。

指標等の成果分析（指標の目標値達成を阻む外的要因等を含めて記載）
・高齢者は増加していますが、老人クラブの会員数は依然として減少傾向にあります。理由としては、ある程度の年齢になっても、就業を希望する高齢者が多いことから、余暇活動となる老人クラブの活動まで時間が取れないことが考えられます。今後は、高齢者の生きがい・やりがいづくりを行うなど、加入促進に向けて積極的に周知していく必要があります。

3　施策を構成する実施計画事業の評価

No.	事務事業名	事業の進捗度	今後の方向性
1	地域包括支援センター運営事業（介護保険特別会計）	概ね計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
2	成年後見制度利用支援事業（介護保険特別会計）	概ね計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
3	老人生きがい対策事業	概ね計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
4	高齢者サポート事業	概ね計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
5	箱根町シルバー人材センター運営補助事業	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
6	認知症施策推進事業（介護保険特別会計）	概ね計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
7	在宅医療介護連携推進事業（介護保険特別会計）	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
8	介護サービス利用者支援事業	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
9	家族介護教室開催事業	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
10	地域自立生活支援事業（介護保険特別会計）	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
11	後期高齢者保健事業	概ね計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
12	保健と介護予防の一体化事業	計画の半分程度実施できた	計画通り実施（予定）
13	老人福祉センターやまなみ荘整備事業	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
14	配食サービス事業	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
15	はり・きゅう・マッサージサービス事業	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
16	敬老祝金支給事業	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
17	高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画策定事業	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）

4　施策の進捗状況

区　　分	選択区分	進捗状況区分を選択した理由
A ： 順調に推移 （目標達成又は進捗している） B ： 一定の進捗がある （目標達成に向け一定の進捗がある） C ： 一定の進捗がある （目標達成が遅れる可能性がある） D ： 進捗は大幅に遅れている （目標達成が難しい可能性がある）	B 前年度：B	・緊急通報システムの設置数については、若干の減少傾向にありますが、高齢者の安心・安全な暮らしを支える見守りや、高齢者の生きがいややりがいにつながる活動を推進することがでています。 ・配食サービス事業は、高齢者の見守りも兼ねており、その役目を果たしています。配食数は、デイサービスと併用される方の増加や、利用者の施設入所などの影響などから、減少傾向にあります。 ・就業を希望する高齢者の増加や、余暇活動となる老人クラブの活動まで時間が取れないことなどにより、老人クラブについてはクラブ数及び会員数ともに、減少傾向にあります。

※指標等の成果を中心に施策を構成する実施計画事業の評価等から総合的に評価しています。

5　今後の方向性

区　　分	選択区分	「今後の方向性」及び「事業構成の妥当性」を選択した理由
① ： 現状のまま継続する （効果的な事業構成である） ② ： 一部見直し等の余地がある （概ね効果的な事業構成である） ③ ： 見直し等の余地は大きい （あまり効果的な事業構成ではない） ④ ： 抜本的見直し等が必要 （事業構成に問題がある）	②	・ひとり暮らし老人や高齢者世帯に対する緊急通報システム事業は、高齢者の緊急事態の不安を解消するために、今後も引き続き実施していきます。 ・長寿健康診査は、引き続き受診率向上の取組みを図っていきます。 ・老人クラブについては、高齢者が増加傾向にあるにも関わらず、老人クラブの新規加入者より退会者の方が多く、全体の人数が減少しています。生きがい対策事業を有効に活用し、引き続き加入促進に向けて積極的に周知を行いながら、今後のあり方を検討していきます。

※これまでの評価結果を踏まえて、施策の今後の方向性として事業の構成や手法などが妥当か評価しています。

第６次総合計画　施策別評価シート（令和５年度）

基本目標１　皆が支えあう、誰もが元気なまちづくり

施策５　障がい者福祉の充実

1　施策の概要

重点施策	該当なし
今後の取組方針	◇ 障がいのある方もない方も住み慣れた地域でその人らしく自立し、安心して暮らしいきいきと社会参加できるまちを目指します。 ◇ 障がいのある方の地域生活への支援、社会参加の促進、人にやさしいまちづくりの推進を図り、ライフステージに応じた切れ目のない包括的な支援の充実を図ります。

施策の展開	施　策　の　展　開	施策担当課	施策責任者
	1-5-1　サービスの充実 1-5-2　権利擁護のための施策の充実 1-5-3　差別の解消 1-5-4　地域生活支援の促進 1-5-5　発達障がい者等に対する支援	福　祉　課	福祉部長

2　目標指標やその他成果などの状況と成果の分析

目標指標

1　在宅障がい児の機能訓練会等への参加者数（年間延べ人数）（単位：人）

元年度(基準)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(実績)	7年度(実績)	8年度(目標)
218	132	178	205	152			230

2　訪問系サービス利用者数（人／月）（単位：人）

元年度(基準)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(実績)	7年度(実績)	8年度(目標)
10	13	13	8	10			13

3　施設入所者数（単位：人）

元年度(基準)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(実績)	7年度(実績)	8年度(目標)
17	16	15	13	12			15

その他定性的な成果（取組みを進めたことで発現した効果などについて記載）

・関係機関と連携を図りながら機能訓練会への参加を呼びかけ、参加していただくことにより、専門的な支援が必要なお子さんには障がい福祉サービスにつなげることができました。
・機能訓練会は、小学校入学とともに終了となりますが、理学療法士の訓練を希望される方には、学校の理解と協力を得ながら訓練を継続することができました。

指標等の成果分析（指標の目標値達成を阻む外的要因等を含めて記載）

・機能訓練会への参加人数は、昨年度よりも減少したものの訓練会への参加をきっかけに障がい福祉サービスの利用にもつながっています。
・訪問系のサービスに関しては、新規に利用する方もいますが年齢により介護保険サービスに移行する方や転出等から昨年度からは増員したものの減少傾向にあります。
・施設入所者の地域生活への移行に向けた支援の充実を図ることとしていますが、他の施設へ入所等で減少傾向にあります。

3　施策を構成する実施計画事業の評価

No.	事務事業名	事業の進捗度	今後の方向性
1	在宅重度障がい者等支援事業	概ね計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
2	心身障がい者福祉等推進事業	概ね計画通り実施できた	計画変更し実施（予定）
3	地域活動支援センター事業	概ね計画通り実施できた	計画変更し実施（予定）

4　施策の進捗状況

区　　分	選択区分	進捗状況区分を選択した理由
A ： 順調に推移 （目標達成又は進捗している） B ： 一定の進捗がある （目標達成に向け一定の進捗がある） C ： 一定の進捗がある （目標達成が遅れる可能性がある） D ： 進捗は大幅に遅れている （目標達成が難しい可能性がある）	B 前年度：B	・関係機関と連携を図りながら機能訓練会への参加を呼びかけ、専門的な支援が必要なお子さんには障がい福祉サービスにつなげることができました。小学校入学とともに機能訓練会は終了となりますが、理学療法士の訓練を希望される方には、学校の理解と協力を得ながら訓練を継続することができています。

※指標等の成果を中心に施策を構成する実施計画事業の評価等から総合的に評価しています。

5　今後の方向性

区　　分	選択区分	「今後の方向性」及び「事業構成の妥当性」を選択した理由
① ： 現状のまま継続する （効果的な事業構成である） ② ： 一部見直し等の余地がある （概ね効果的な事業構成である） ③ ： 見直し等の余地は大きい （あまり効果的な事業構成ではない） ④ ： 抜本的見直し等が必要 （事業構成に問題がある）	②	・在宅重度障がい者等支援事業は、重度障がい者の社会参加や通院などの日常生活の利便性に寄与しているため、引き続き事業の推進を図ります。 ・心身障がい者福祉等推進事業は、児童に対しての早期療育が提供できる体制を維持し、療育の必要な児童が適切な訓練等を受けられるように関係機関と連携を図り参加を促していきます。

※これまでの評価結果を踏まえて、施策の今後の方向性として事業の構成や手法などが妥当か評価しています。

第６次総合計画　施策別評価シート（令和５年度）

基本目標１　皆が支えあう、誰もが元気なまちづくり

施策６　社会保障の充実

1　施策の概要

重点施策	該当なし
今後の取組方針	◇ 適正な保険料の決定と収納率の向上、保険給付の適正化に努め、国民健康保険・介護財政の安定化を図ります。 ◇ 一層の高齢社会に備えるため、安定した基盤の構築を進めます。

施策の展開	施策の展開	施策担当課	施策責任者
	1-6-1　医療費の適正化 1-6-2　保険料率の見直し 1-6-3　収納率の向上 1-6-4　介護保険の適正運営 1-6-5　介護従事者の確保と資質の向上	福祉課 保険健康課	福祉部長

2　目標指標やその他成果などの状況と成果の分析

目標指標

1　国民健康保険料の収納率（単位：%）

元年度(基準)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(実績)	7年度(実績)	8年度(目標)
80.9	81.5	85.2	86.9	86.4			83.0

2　高齢者の健康相談件数（単位：件）

元年度(基準)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(実績)	7年度(実績)	8年度(目標)
166	505	781	55	30			309

その他定性的な成果（取組みを進めたことで発現した効果などについて記載）

・介護保険サービスの必要量の確保が図られ、高齢者が住み慣れた地域で安心して介護保険サービス等を利用する環境を整えることができました。
・高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画を推進し、高齢者のニーズにあった福祉施策や介護保険サービスを取り入れ、高齢者が暮らしやすい地域包括ケアシステムの構築を目指していきます。

指標等の成果分析（指標の目標値達成を阻む外的要因等を含めて記載）

・国民健康保険料の収納率については、口座振替の推奨やコンビニ交付の周知に加え、新規未納者を増やさないよう注力した結果、現年度分については前年度と同水準の収納率が維持できました。一方、物価高騰の影響等により滞納整理が難しい状況もあり、全体の収納率は前年を下回りました。今後は短期証の廃止により相談機会を設ける手段が減ることから、収納率向上に向けて特別療養費等をどのように運用していくのかが課題です。

3　施策を構成する実施計画事業の評価

No.	事務事業名	事業の進捗度	今後の方向性
1	国民健康保険特別会計繰出金	概ね計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
2	後期高齢者医療特別会計繰出金	概ね計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
3	介護保険特別会計繰出金	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
4	介護従事者等支援事業	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）

4　施策の進捗状況

区　　分	選択区分	進捗状況区分を選択した理由
A ： 順調に推移 （目標達成又は進捗している） B ： 一定の進捗がある （目標達成に向け一定の進捗がある） C ： 一定の進捗がある （目標達成が遅れる可能性がある） D ： 進捗は大幅に遅れている （目標達成が難しい可能性がある）	B 前年度：B	・国民健康保険料、後期高齢者医療保険料及び介護保険料の収納対策は、口座振替の勧奨、コンビニエンスストアの収納の周知、夜間催告等により、徴収率は増加傾向を維持できています。 ・国民健康保険、後期高齢者医療及び介護保険特別会計は、適正な保険料の算定及び収納率の向上を図る取組みなどにより、制度の安定的運営が図れています。 ・高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画を推進し、高齢者のニーズにあった福祉施策や介護保険サービスを取り入れ、高齢者が暮らしやすい地域包括ケアシステムの構築が進められています。

※指標等の成果を中心に施策を構成する実施計画事業の評価等から総合的に評価しています。

5　今後の方向性

区　　分	選択区分	「今後の方向性」及び「事業構成の妥当性」を選択した理由
① ： 現状のまま継続する （効果的な事業構成である） ② ： 一部見直し等の余地がある （概ね効果的な事業構成である） ③ ： 見直し等の余地は大きい （あまり効果的な事業構成ではない） ④ ： 抜本的見直し等が必要 （事業構成に問題がある）	②	・国民健康保険特別会計、後期高齢者医療特別会計及び介護保険特別会計は、引き続き適正な保険料の算定及び収納率の向上を図る取組みなどにより、安定的な運営を行っていくとともに、収納率向上のため、３保険料ともコンビニエンス収納や夜間催告などを継続して実施していきます。 ・高齢者からの相談は、介護サービスや権利擁護、生活相談など多岐にわたるので、様々な対応についての検討が必要になってきます。 ・介護サービスについては、本町の特性から、施設サービス事業所への入所が増加傾向にありますが、在宅での介護サービスをどのように充実していくか、検討を図る必要があります。

※これまでの評価結果を踏まえて、施策の今後の方向性として事業の構成や手法などが妥当か評価しています。

第６次総合計画　施策別評価シート（令和５年度）

基本目標１　皆が支えあう、誰もが元気なまちづくり

施策７　ワーク・ライフ・バランスの実現

1　施策の概要

重点施策	該当なし		
今後の取組方針	◇ ワーク・ライフ・バランスの実現に向け、男女ともに家庭や地域活動に参画し、生きがいをもって生活していくために、長時間労働の是正や多様な働き方のできる就業環境づくりを推進していきます。		
施策の展開	施　策　の　展　開	施策担当課	施策責任者
	1-7-1　情報提供及び普及啓発 1-7-2　育児休暇取得の推進 1-7-3　健診受診率の向上 1-7-4　スポーツイベント、教室の開催 1-7-5　家族等で共に子育てする意識の醸成 1-7-6　保育サービス等の充実	町　民　課 総務防災課 子育て支援課 保険健康課 生涯学習課	福祉部長

2　目標指標やその他成果などの状況と成果の分析

目標指標

1　認定こども園・保育所待機児童数（再掲）（単位：人）

元年度(基準)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(実績)	7年度(実績)	8年度(目標)
0	0	0	0	0			0

2　子育て支援講座参加者数（再掲）（単位：人）

元年度(基準)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(実績)	7年度(実績)	8年度(目標)
6	0	23	27	16			30

3　男女共同参画講演会満足度（アンケート）（単位：%）

元年度(基準)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(実績)	7年度(実績)	8年度(目標)
-	-	-	100	100			80

その他定性的な成果（取組みを進めたことで発現した効果などについて記載）

・男女共同参画講演会を通じて、今まで女性が抱える課題を中心に議論されがちであったが、本講演会で特に中高年の男性に焦点が当たったことで、これまで男女共同参画を他人事として捉えていた方にも、自分事として捉えるきっかけとなりました。
・認定こども園、保育所へ保育を必要とする児を待機なく受入れできたことで、男女ともに仕事と家庭等バランスを取りながら働くことができる環境の整備ができました。
・子育て支援講座では、子育てについての手法などを紹介することによって育児力の向上を図ることができました。
・20～30歳代の若年および子育て世代の女性が受診しやすいよう、「若い世代のがん検診」として乳がん検診（超音波検査）・子宮頸がん検診を託児付で実施しました。
・就労している方がより受診しやすいよう、集団健（検）診の休日実施日を増やしました。

指標等の成果分析（指標の目標値達成を阻む外的要因等を含めて記載）

・男女共同参画講演会のテーマとして、取り上げられることが少なかった中高年の男性に焦点を当てたことで、男女ともに新たな視点が得ることができ、高評価に繋がりました。
・保育を希望し始める年齢が低年齢化しているため、0～2歳児の待機を出さないように保育士の確保等に努め待機児童ゼロを継続しています。
・子育て支援講座については、気軽に参加できる場を提供していくため、開催場所や開催方法を検討し、参加者数の増を図ります。
・託児付の集団健（検）診については、現在は「若い世代のがん検診」として実施している半日のみであるが、今年度は予約開始後早期に定員に達したが、その後も予約希望の連絡が多かったことから、より子育て世代が受診しやすいよう、予約枠数の増や託児付の実施日の追加等について検討していきます。

3　施策を構成する実施計画事業の評価

No.	事務事業名	事業の進捗度	今後の方向性
1	該当事業なし		

4　施策の進捗状況

区　　分	選択区分	進捗状況区分を選択した理由
A ： 順調に推移 （目標達成又は進捗している） B ： 一定の進捗がある （目標達成に向け一定の進捗がある） C ： 一定の進捗がある （目標達成が遅れる可能性がある） D ： 進捗は大幅に遅れている （目標達成が難しい可能性がある）	B 前年度：B	・男女共同参画講演会を通じて、これまで男女共同参画を他人事として捉えていた方にも、自分事として捉えるきっかけとなった。 ・子育て支援講座は、受講していただくことで、子育て中の父母が力を合わせて育てていく育児力の向上を図ることができました。また、子育てイベントを開催することにより、親子の交流機会を創出することができています。

※指標等の成果を中心に施策を構成する実施計画事業の評価等から総合的に評価しています。

5　今後の方向性

区　　分	選択区分	「今後の方向性」及び「事業構成の妥当性」を選択した理由
① ： 現状のまま継続する （効果的な事業構成である） ② ： 一部見直し等の余地がある （概ね効果的な事業構成である） ③ ： 見直し等の余地は大きい （あまり効果的な事業構成ではない） ④ ： 抜本的見直し等が必要 （事業構成に問題がある）	②	・男女共同参画講演会については、男女ともに新たな視点を得ることができるよう、講演会の内容を充実していきます。 ・子育て支援講座については、気軽に参加できる場を提供していくため、開催場所や開催方法を検討し、参加者数の増を図ります。

※これまでの評価結果を踏まえて、施策の今後の方向性として事業の構成や手法などが妥当か評価しています。

第６次総合計画　施策別評価シート（令和５年度）

基本目標２ 未来を拓く人材が育ち、町民相互に高めあうまちづくり

施策８ 学校教育の充実

1　施策の概要

重点施策	分野２ 若者定住の促進〔施策の展開 2-8-1が該当〕
今後の取組方針	◇ 先人から文化・伝統・歴史を受け継ぎ、未来に大きな理想と明るい希望を持って、健康で豊かな生活を目指し、箱根を愛し、貢献できる人を育む「箱根教育」をさらに深化・推進し、各園・学校が共通して「箱根教育」に取組むとともに、各園・学校の特色を活かした教育にも取組み、「園・小・中一貫教育（分離型）」を推進します。

施策の展開	施策の展開	施策担当課	施策責任者
	2-8-1 園・小・中学校一貫教育（分離型）の推進 ◎ 2-8-2 箱根を知り、箱根を語れる子どもの育成～箱育～ 2-8-3 確かな学力を身に付けた子どもの育成～知育～ 2-8-4 心豊かでより良い人間関係を築ける子どもの育成～徳育～ 2-8-5 健康で意欲的に挑戦できる子どもの育成～体育～ 2-8-6 地域の特色を活かした学校づくり 2-8-7 特別支援教育の充実 2-8-8 教育環境の整備 2-8-9 通学支援制度等の維持 2-8-10 学校給食費の一律無償化 2-8-11 学習機会の提供	学校教育課	教育次長

2　目標指標やその他成果などの状況と成果の分析

目標指標

1　町内小・中学校児童・生徒の地域行事への参加率（単位：%）

元年度(基準)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(実績)	7年度(実績)	8年度(目標)
75.8	コロナにより未実施	65.0	65.5	**70.9**			80.0

2　町内小・中学校児童・生徒の読書量が1日30分以上の割合（単位：%）

元年度(基準)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(実績)	7年度(実績)	8年度(目標)
62.6	コロナにより未実施	32.5	35.3	**29.7**			70.0

3　それぞれの子どもが持っている自尊感情（自分が大切な存在であると感じること）の度合い（単位：%）

元年度(基準)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(実績)	7年度(実績)	8年度(目標)
65.0	67.0	68.3	68.4	**74.6**			70.0

その他

1　英語検定受験料の補助人数（単位：人）

元年度(基準)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(実績)	7年度(実績)	8年度(目標)
79	101	109	96	**70**			

その他定性的な成果（取組みを進めたことで発現した効果などについて記載）

・各園・小・中学校の校長等で組織する「園・小・中一貫教育推進会議」を始めとした各種プロジェクトで研究・協議しながら、園・小・中一貫教育（分離型）に取り組んだことで、各学校・園の教職員が一貫教育に対する共通理解を深めることができました。
・令和５年度から第４期教育振興基本計画を策定し、箱根教育の４つの柱の１つである「知育」の取り組みとして子ども新聞を各小・中学校のすべての児童・生徒に配付しました。

指標等の成果分析（指標の目標値達成を阻む外的要因等を含めて記載）

・児童・生徒の読書量は、各学校で読書週間、朝読書、図書ボランティアによる読み聞かせなどに取り組んできましたが、目標値との乖離が大きい状況であり、児童・生徒が読書週間を身に付けるためには、学校だけではなく、家庭の協力も必要です。
・子どもの自尊感情は、心の教育である「箱根ハートフルプログラム」に幼児期から中学校卒業までの12年間の発達段階に応じて取り組んできたことで、目標値に近づくことができました。

3　施策を構成する実施計画事業の評価

No.	事務事業名	事業の進捗度	今後の方向性
1	箱根教育推進事業	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
2	ＩＣＴ活用教育推進事業	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
3	生きた英語教育事業	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
4	英語検定取得促進事業（教育総務費）	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
5	箱根土曜塾運営事業	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
6	教育相談センター事業	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
7	子どものための図書推進事業	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
8	スクールマネージメント事業	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
9	学校給食無償化事業	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
10	小学校校舎等整備事業	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
11	中学校校舎等整備事業	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
12	幼稚園園舎等整備事業	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
13	高等学校等通学費補助事業	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
14	小学校給食施設等整備事業	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
15	学校施設長寿命化事業	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
16	箱根幼稚園昼食費補助事業	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）

4　施策の進捗状況

区　　分	選択区分	進捗状況区分を選択した理由
Ａ：順調に推移 （目標達成又は進捗している） Ｂ：一定の進捗がある （目標達成に向け一定の進捗がある） Ｃ：一定の進捗がある （目標達成が遅れる可能性がある） Ｄ：進捗は大幅に遅れている （目標達成が難しい可能性がある）	Ｂ 前年度：Ａ	・各種事業を計画どおり実施したことにより、箱根町教育振興基本計画に掲げた内容を推進することができました。 施策の推進にあたっては、「園・小・中一貫教育推進会議」を始めとした各種プロジェクトを通じて、各園・学校の教職員とともに取り組んでいます。 ・進捗の良くない目標指数もありますが、新たにNIEを導入するなど、指数の改善につながる取り組みを進めています。

※指標等の成果を中心に施策を構成する実施計画事業の評価等から総合的に評価しています。

5　今後の方向性

区　　分	選択区分	「今後の方向性」及び「事業構成の妥当性」を選択した理由
①：現状のまま継続する （効果的な事業構成である） ②：一部見直し等の余地がある （概ね効果的な事業構成である） ③：見直し等の余地は大きい （あまり効果的な事業構成ではない） ④：抜本的見直し等が必要 （事業構成に問題がある）	①	・社会環境の変化や児童・生徒の状況にあわせて見直すべきところには手を加えつつ、箱根町教育振興基本計画に掲げた４つの柱（箱育（地域教育）・知育（学力）・徳育（心の教育）・体育（体力つくり））に沿った箱根教育を進めていきます。 ・それぞれの園・学校は、地域や関係団体等と連携をしながら特色ある取り組みを展開し、教育の充実に努めていきます。

※これまでの評価結果を踏まえて、施策の今後の方向性として事業の構成や手法などが妥当か評価しています。

第６次総合計画　施策別評価シート（令和５年度）

基本目標２ 未来を拓く人材が育ち、町民相互に高めあうまちづくり

施策９ 生涯学習の推進

1　施策の概要

重点施策	該当なし		
今後の取組方針	◇ 箱根教育の合言葉である「箱根を愛し、かしこく、やさしく、たくましく」を具現化するため、生涯学習の目標を「箱根を知り、箱根を語れる人づくり、輪づくり」とし、生涯学習の推進を図ります。		
施策の展開	施　策　の　展　開	施策担当課	施策責任者
	2-9-1　箱根教育における生涯学習の推進 2-9-2　生涯学習機会の充実 2-9-3　生涯学習における情報の提供及び活動の支援 2-9-4　生涯学習施設の維持管理 2-9-5　図書サービスの向上	生涯学習課	教育次長

2　目標指標やその他成果などの状況と成果の分析

目標指標

1　全公民館の年間利用者数（単位：人）

元年度(基準)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(実績)	7年度(実績)	8年度(目標)
25,120	14,469	20,029	24,649	**24,170**			15,000

2　町民一人当たりの図書貸出冊数（単位：冊）

元年度(基準)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(実績)	7年度(実績)	8年度(目標)
1.89	1.62	2.04	1.94	**1.90**			2.00

3　自治学習出張講座の利用件数（単位：件）

元年度(基準)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(実績)	7年度(実績)	8年度(目標)
3	2	2	3	**2**			5

4　生涯学習フェスティバル登録行事数（単位：回）

元年度(基準)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(実績)	7年度(実績)	8年度(目標)
3	5	1	2	**2**			5

その他定性的な成果（取組みを進めたことで発現した効果などについて記載）

・公民館利用者数は、コロナ禍による利用者の大幅な減少傾向からは脱し、公民館定期利用団体による活動や各種イベント等も平時の状況にほぼ戻っています。
・箱根を”より広く”　”より深く”学んでいただくための場であるHAKONE大学については、「近代箱根と実業家」をテーマに、渋沢栄一など、箱根の近代化に情熱を燃やし、本町の発展に大きく貢献した実業家に焦点を当てて、箱根ならではの特色のある講義を展開し、好評を得ました。
・図書貸出冊数は前年度に引き続き減少していますが、図書館システム更新で加わった新機能「読書アルバム」（借りた本の題名をシールに印刷）を活用し、利用促進を図っています。

指標等の成果分析（指標の目標値達成を阻む外的要因等を含めて記載）

・公民館利用者数が、平時の状況に戻りつつある中、文化団体連絡協議会や公民館定期利用団体との連携、町民のニーズを的確に捉えた講座の運営等により、更なる利用者増に努めていきます。
・社会教育センター図書室と移動図書館の両方で貸出冊数が減少した要因は、新刊書の選定・発注・受入が定期的に実施できなかったことと、移動図書館に積載する本の入替作業が滞ったことであると考えられます。利用者の期待に応えられるような書棚づくりに注力していく必要があります。

3　施策を構成する実施計画事業の評価

No.	事務事業名	事業の進捗度	今後の方向性
1	公民館学習・文化事業	概ね計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
2	英語検定取得促進事業（社会教育費）	概ね計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
3	公民館整備事業	概ね計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
4	移動図書館運営事業	概ね計画通り実施できた	計画変更し実施（予定）
5	ブックスタート運動推進事業	概ね計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
6	公民館図書整備事業	概ね計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
7	公民館図書システム運営事業	概ね計画通り実施できた	計画通り実施（予定）

4　施策の進捗状況

区　　分	選択区分	進捗状況区分を選択した理由
A ： 順調に推移 （目標達成又は進捗している） B ： 一定の進捗がある （目標達成に向け一定の進捗がある） C ： 一定の進捗がある （目標達成が遅れる可能性がある） D ： 進捗は大幅に遅れている （目標達成が難しい可能性がある）	B 前年度：A	・新型コロナウイルス感染症の影響で落ち込んだ公民館の利用者数や図書の貸出冊数の目標指標は回復していますが、その他の目標指標は横ばいが続いています。 事務事業全体としては、概ね計画通り実施できており、目標指数の達成に向けて事業執行の精度を高めていきます。

※指標等の成果を中心に施策を構成する実施計画事業の評価等から総合的に評価しています。

5　今後の方向性

区　　分	選択区分	「今後の方向性」及び「事業構成の妥当性」を選択した理由
① ： 現状のまま継続する （効果的な事業構成である） ② ： 一部見直し等の余地がある （概ね効果的な事業構成である） ③ ： 見直し等の余地は大きい （あまり効果的な事業構成ではない） ④ ： 抜本的見直し等が必要 （事業構成に問題がある）	②	・人口減少や少子高齢化といった構造的課題に加え、個々人のライフスタイルやコロナ禍による行動態様の変化は、町民の生涯学習活動の実践やその支援に大きな影響を与えています。 これらの課題を考慮しながら、社会環境やニーズの変化にあった学習機会が確保できるよう工夫をしていく必要があります。

※これまでの評価結果を踏まえて、施策の今後の方向性として事業の構成や手法などが妥当か評価しています。

第６次総合計画　施策別評価シート（令和５年度）

基本目標２ 未来を拓く人材が育ち、町民相互に高めあうまちづくり

施策10 文化・芸術活動の推進

1　施策の概要

重点施策	分野３ 健康生活の推進〔施策の展開 2-10-1が該当〕		
今後の取組方針	◇ 地域に根ざした文化・芸術活動を育成・支援します。 ◇ 優れた芸術作品に触れることで、文化・芸術活動に関心を高められるような機会の提供に努めます。 ◇ 文化・芸術活動を通じて多世代交流ができる機会の創設などを研究します。		
施策の展開	施　策　の　展　開	施策担当課	施策責任者
	2-10-1　地域に根ざした文化・芸術活動の支援 ◎ 2-10-2　文化・芸術活動の支援及び鑑賞機会の充実 2-10-3　文化・芸術を通じた多世代間交流の促進	生涯学習課	教育次長

2　目標指標やその他成果などの状況と成果の分析

目標指標 1　町民文化祭の参加人数（単位：人）

元年度(基準)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(実績)	7年度(実績)	8年度(目標)
527	428	471	475	**540**			550

その他定性的な成果（取組みを進めたことで発現した効果などについて記載）

・町民文化祭については、文化団体連絡協議会や公民館で活動する定期利用団体のほか、一般町民や私立を含む町内小・中学校からの出展により、展示作品は充実していました。
・町民文化祭に合わせ、寄贈のあった町内在住の女流書道家の作品をギャラリーに展示し、優れた芸術作品を間近で鑑賞する機会の創設を図りました。

指標等の成果分析（指標の目標値達成を阻む外的要因等を含めて記載）

・町民文化祭については、目標値を下回ったものの、前年度の来館者数を僅かながら上回る盛況な状況であり、町民一人ひとりの日頃の活動の成果を発表し、またそれを鑑賞してもらう場を提供することで、町民の文化・芸術に対する意識の高揚と生涯学習の振興に寄与することができました。
・定期利用団体は、会員の高齢化等により、団体数が減少傾向にあることから、団体の存続や会員数の確保を図るためのプチ講座や体験教室の開催等を行い、持続可能な公民館利用の促進に引続き努めていきます。

3　施策を構成する実施計画事業の評価

No.	事務事業名	事業の進捗度	今後の方向性
1	生涯学習フェスティバル開催事業	概ね計画通り実施できた	計画通り実施（予定）

4　施策の進捗状況

区　分	選択区分	進捗状況区分を選択した理由
A ： 順調に推移 （目標達成又は進捗している） B ： 一定の進捗がある （目標達成に向け一定の進捗がある） C ： 一定の進捗がある （目標達成が遅れる可能性がある） D ： 進捗は大幅に遅れている （目標達成が難しい可能性がある）	B 前年度：A	・10月・11月を「生涯学習推進月間」と定め、集中的に文化・芸術・スポーツに関連した各種事業を開催しています。
・コロナ禍で減少した町民文化祭の参加人数も回復しつつあり、目標指数の達成に近づいています。引き続き町民の文化・芸術活動の支援を行っていきます。

※指標等の成果を中心に施策を構成する実施計画事業の評価等から総合的に評価しています。

5　今後の方向性

区　　分	選択区分	「今後の方向性」及び「事業構成の妥当性」を選択した理由
①：現状のまま継続する （効果的な事業構成である） ②：一部見直し等の余地がある （概ね効果的な事業構成である） ③：見直し等の余地は大きい （あまり効果的な事業構成ではない） ④：抜本的見直し等が必要 （事業構成に問題がある）	①	・人口減少や少子高齢化により文化・芸術活動に関わる町民の減少という課題がありますが、町では日ごろの活動の成果を発表する場や鑑賞する機会を設け、町民の生涯学習活動の充実と交流機会の創設を行っていきます。

※これまでの評価結果を踏まえて、施策の今後の方向性として事業の構成や手法などが妥当か評価しています。

第６次総合計画　施策別評価シート（令和５年度）

基本目標２ 未来を拓く人材が育ち、町民相互に高めあうまちづくり

施策11 家庭教育の充実

1　施策の概要

重点施策	該当なし		
今後の取組方針	◇ 子どもの成長期に大きな影響を及ぼす「家庭教育」について、新しい生活様式に即し啓発の実施や研修機会を提供します。 ◇ 新しい生活様式に即した関係団体等との連携、親子でのふれあいの機会の提供など、家庭教育の充実を図ります。		
施策の展開	施　策　の　展　開	施策担当課	施策責任者
	2-11-1　箱根教育における家庭教育の推進 2-11-2　講演会・研修会の実施 2-11-3　関連機関・協力団体との連携	生涯学習課	教育次長

2　目標指標やその他成果などの状況と成果の分析

目標指標

1 家庭教育講座参加者数（単位：人）

元年度(基準)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(実績)	7年度(実績)	8年度(目標)
77	0	0	57	74			80

2 幼保小中学校での家庭教育に関する取組数（単位：件）

元年度(基準)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(実績)	7年度(実績)	8年度(目標)
34	0	0	0	4			12

3 広報等での家庭教育啓発記事数単位：件）

元年度(基準)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(実績)	7年度(実績)	8年度(目標)
6	6	6	6	6			6

その他定性的な成果（取組みを進めたことで発現した効果などについて記載）

・体験活動を通じて家族間のコミュニケーションの一環として活用してもらうことで終わるのではなく、地域や学校に応じた課題を探し、その解決に向けた内容となる講座としました。
・啓発記事については、前年と同様、「広報はこね」に家庭教育に関するコラムを掲載することで、その取組みを啓発することができました。

指標等の成果分析（指標の目標値達成を阻む外的要因等を含めて記載）

・年度当初の校長園長会において、教育委員会から家庭教育講座の目的等について説明を行ったことから、従来行われていた趣味の講座や親子体験型の講座内容から目的に沿った講座が開催されました。今後も目的等を説明し、家庭での困りごとや子どもたちを取り巻く社会環境、児童・生徒に身に付けさせたいことなど、身近な問題解決につながる内容で講座を行うなどして、引き続き家庭教育の充実を図っていきます。

3　施策を構成する実施計画事業の評価

No.	事務事業名	事業の進捗度	今後の方向性
1	家庭教育推進事業	概ね計画通り実施できた	計画通り実施（予定）

4　施策の進捗状況

区　　分	選択区分	進捗状況区分を選択した理由
A ： 順調に推移 （目標達成又は進捗している） B ： 一定の進捗がある （目標達成に向け一定の進捗がある） C ： 一定の進捗がある （目標達成が遅れる可能性がある） D ： 進捗は大幅に遅れている （目標達成が難しい可能性がある）	B 前年度：B	講座の内容を、従来行われていた趣味の講座や親子体験的なものから、家庭での困りごとや子どもたちを取り巻く社会環境、児童・生徒に身に付けさせたいことなど、本来の目的に沿ったものに改めました。 引き続き、身近な問題解決につながる内容の講座を開催し、家庭教育の充実を図っていきます。

※指標等の成果を中心に施策を構成する実施計画事業の評価等から総合的に評価しています。

5　今後の方向性

区　　分	選択区分	「今後の方向性」及び「事業構成の妥当性」を選択した理由
① ： 現状のまま継続する （効果的な事業構成である） ② ： 一部見直し等の余地がある （概ね効果的な事業構成である） ③ ： 見直し等の余地は大きい （あまり効果的な事業構成ではない） ④ ： 抜本的見直し等が必要 （事業構成に問題がある）	①	本施策の本来の目的である「家庭の教育力の向上」を目指せるよう、啓発や講座の開催などの取組みを実施していきます。 家庭教育講座では、各小・中学校ＰＴＡと連携しながら、家庭における子育てに関する悩みや困りごと等をテーマに保護者が互いに解決策を考えていく内容とします。

※これまでの評価結果を踏まえて、施策の今後の方向性として事業の構成や手法などが妥当か評価しています。

第６次総合計画　施策別評価シート（令和５年度）

基本目標２ 未来を拓く人材が育ち、町民相互に高めあうまちづくり

施策12 青少年の健全育成

1　施策の概要

重点施策	該当なし		
今後の取組方針	◇ 町の未来を拓く人材である青少年の健全な育成に取組むとともに、全町的な環境づくりを推進します。 ◇ 地域を担う人材の育成を図るため、全町的な多世代交流の機会提供に努めます。		
施策の展開	施　策　の　展　開	施策担当課	施策責任者
	2-12-1　青少年の健全育成事業の推進 2-12-2　青少年の意欲と協調性の育成 2-12-3　健全育成の環境づくり 2-12-4　人材の育成	生涯学習課	教育次長

2　目標指標やその他成果などの状況と成果の分析

目標指標 1　青少年関係事業への児童・生徒の参加率（単位：%）

元年度(基準)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(実績)	7年度(実績)	8年度(目標)
20.0	0.0	0.0	23.3	**16.0**			20.0

その他定性的な成果（取組みを進めたことで発現した効果などについて記載）

・青少年関係事業に関わる指導者等が、参加対象となる児童・生徒が参加してみたいという行事を企画・運営することにより、青少年の健全育成に寄与することができました。

指標等の成果分析（指標の目標値達成を阻む外的要因等を含めて記載）

・新型コロナウイルス感染症による行事の中止や団体活動の縮小等に伴い、児童・生徒のほか保護者についても行事離れが進んでおり、子ども会育成団体連絡協議会では、地域の子ども会が解散や休会となる事案が発生しています。また、青少年指導員連絡協議会では、令和5年度に新たな行事を実施したが、コロナ禍前の行事開催数には至っていません。今後は子ども会の存続に向けた協議を行うほか、青少年指導員の活動の活性化を図り、青少年関係事業への児童・生徒の参加率向上を図っていきます。

3　施策を構成する実施計画事業の評価

No.	事務事業名	事業の進捗度	今後の方向性
1	該当事業なし		

4　施策の進捗状況

区　　分	選択区分	進捗状況区分を選択した理由
A ： 順調に推移 （目標達成又は進捗している） B ： 一定の進捗がある （目標達成に向け一定の進捗がある） C ： 一定の進捗がある （目標達成が遅れる可能性がある） D ： 進捗は大幅に遅れている （目標達成が難しい可能性がある）	B 前年度：A	少子化という構造的な課題を抱えつつ、青少年指導員や子ども会等を中心に各種事業を実施しています。 家庭でのライフスタイルが多様化していくなかで、関係団体・関係者の尽力により、一定の進捗・効果を得ています。

※指標等の成果を中心に施策を構成する実施計画事業の評価等から総合的に評価しています。

5　今後の方向性

区　　分	選択区分	「今後の方向性」及び「事業構成の妥当性」を選択した理由
① ： 現状のまま継続する （効果的な事業構成である） ② ： 一部見直し等の余地がある （概ね効果的な事業構成である） ③ ： 見直し等の余地は大きい （あまり効果的な事業構成ではない） ④ ： 抜本的見直し等が必要 （事業構成に問題がある）	①	人口減少や社会の個人化により、青少年を指導・育成していく大人の減少が課題となっています。 地域や世代を越えた指導・育成を模索する動きが地域コミュニティで見られますので、引き続き関係団体・関係者への支援を行っていきます。

※これまでの評価結果を踏まえて、施策の今後の方向性として事業の構成や手法などが妥当か評価しています。

第６次総合計画　施策別評価シート（令和５年度）

基本目標２ 未来を拓く人材が育ち、町民相互に高めあうまちづくり

施策13 文化財の保護と活用

1　施策の概要

重点施策	該当なし
今後の取組方針	◇ 箱根の歴史・文化遺産や貴重な天然記念物を未来に伝えていくため、現況を的確に把握し、適切な保護対策を実施してその継承を図ります。特に箱根旧街道や箱根関所については、計画的に維持管理や整備、改修等を実施します。 ◇ 町内の文化遺産や自然遺産についての理解を深め、文化財保護意識の醸成を図るため、インターネットや郷土資料館・箱根関所資料館の展示、印刷物等を活用した情報発信や、探訪会や体験学習などの文化財を活用したイベントの開催を積極的に進めるとともに、文化財ボランティアの育成を図ります。 ◇ 箱根の歴史や文化を学ぶことができる学習施設の機能充実などの環境整備を図ります。

施策の展開	施策の展開	施策担当課	施策責任者
	2-13-1　文化・自然遺産の保護・継承と活用 2-13-2　文化財ボランティアの育成 2-13-3　箱根の歴史や文化を学ぶ学習施設の機能充実と整備 2-13-4　日本遺産の保全・整備	生涯学習課	教育次長

2　目標指標やその他成果などの状況と成果の分析

目標指標

1 箱根関所入館者数（単位：人）

元年度(基準)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(実績)	7年度(実績)	8年度(目標)
280,017	116,900	127,024	198,174	**226,172**			400,000

2 郷土資料館入館者数（単位：人）

元年度(基準)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(実績)	7年度(実績)	8年度(目標)
6,992	3,193	4,359	4,276	**5,136**			10,000

3 文化財ボランティア数（延活動人数）（単位：人）

元年度(基準)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(実績)	7年度(実績)	8年度(目標)
54	0	0	8	**8**			100

4 郷土資料館所蔵資料の利用点数（単位：点）

元年度(基準)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(実績)	7年度(実績)	8年度(目標)
48	27	50	139	**85**			100

5 箱根関所学校利用プログラム利用件数（単位：件）

元年度(基準)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(実績)	7年度(実績)	8年度(目標)
96	43	51	67	**87**			150

その他定性的な成果（取組みを進めたことで発現した効果などについて記載）

・文化財保護の分野では令和4年に策定した史跡箱根旧街道整備基本計画に沿って、畑宿千鳥橋上地区の保存整備に向けた基本設計に着手するとともに、町が管理する史跡や天然記念物の適正な維持管理のための事業を実施した。また、箱根探訪会やワンコインシリーズの発行など、町の文化・自然に関する情報発信を積極的に行いました。
・郷土資料館では、箱根の歴史や文化への理解を深めていただくため、展示や各種学習事業を実施した。展示活動では夏季企画展「身近な石造物展」や秋季企画展「関東大震災と箱根」に加え冬季企画展として「箱根駅伝100回記念　箱根山を駆ける」を開催したほか、体験学習として、町内小学校や町民等を対象に「わらじ作りと箱根旧街道石畳の歩行」や「お正月飾り作り」などを実施しました。

・箱根関所では、誘客対策としてホームページやX（旧Twitter）などのSNSの活用や町内外に所在する宿泊事業者等にパンフレット配布すること、旅行代理店を訪問するなど、関所の魅力を知ってもらうための情報発信を行いました。また、関所内では、土日祝日にはイベントを計画、開催することで集客に努めました。特にガイドツアーについては土曜日に開催、固定化を図ることで、それを目的に来所する観覧者が増えたことを実感しています。
学校団体への誘客対策として箱根関所利用促進資料「関所deできますプログラム」を首都圏域等の県内全小学校へ郵送したことにより、来所校数はコロナ禍前の平成30年度の実績まで回復しました。

指標等の成果分析（指標の目標値達成を阻む外的要因等を含めて記載）

・新型コロナウィルス感染症の５類移行や、関東大震災100年、箱根駅伝100回といった時宜にかなった展示開催などにより、昨年度に比して入館者数の増となりました。また学習事業も予定通り開催でき、コロナ前の状況に戻りつつあります。しかし、目標値にはまだ達していないことから、引き続き常設展や企画展、探訪会等をさらに充実して実施し、郷土の歴史や文化、自然についての知識を深め、郷土史を学ぶ機会を提供するよう努めていきます。
・文化財ボランティアについては、参加者はまだ少ない状況であることから、より幅広い声掛けや作業カリキュラムの構築など、より参加しやすい魅力的な内容や体制の見直しを図り、次年度以降の参加者増につなげていきたいと考えています。
・箱根関所では現状、年間観覧者数の目標値をコロナ禍前の平成30年度としているものですが、まだまだその数値の達成には至っていません。円安に伴い外国人観光客の入館数は増えたものの、日本人観光客、特に家族旅行を含むグループ（団体）の観覧者数は低調に終わったことから、そこにターゲットを絞り、誘客対策を講じる必要があります。

3　施策を構成する実施計画事業の評価

No.	事務事業名	事業の進捗度	今後の方向性
1	郷土資料館展示開催等教育普及事業	概ね計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
2	史跡整備事業	概ね計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
3	箱根旧街道保護対策事業	概ね計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
4	近代化遺産調査・活用事業	概ね計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
5	文化遺産情報発信事業	概ね計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
6	箱根探訪推進事業	概ね計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
7	郷土資料館整備事業	概ね計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
8	箱根関所整備事業	概ね計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
9	箱根関所歴史文化推進事業	概ね計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
10	箱根関所誘客宣伝事業	概ね計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
11	文化財保存管理事業	概ね計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
12	箱根関所復元再整備事業	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）

4　施策の進捗状況

区　　分	選択区分	進捗状況区分を選択した理由
A ： 順調に推移 （目標達成又は進捗している） B ： 一定の進捗がある （目標達成に向け一定の進捗がある） C ： 一定の進捗がある （目標達成が遅れる可能性がある） D ： 進捗は大幅に遅れている （目標達成が難しい可能性がある）	C 前年度：B	新型コロナウイルス感染症の流行により親睦目的の団体旅行が激減しました。個人旅行、外国人観光客は多く見られますが、親睦団体旅行は、コロナ禍による行動態様の変化により回復には時間を要します。 杉並木をはじめとする文化財保護の取り組みは概ね計画通り実施できており、引き続き大切な文化財の保護・活用を図っていきます。

※指標等の成果を中心に施策を構成する実施計画事業の評価等から総合的に評価しています。

5　今後の方向性

区　　分	選択区分	「今後の方向性」及び「事業構成の妥当性」を選択した理由
① ： 現状のまま継続する （効果的な事業構成である） ② ： 一部見直し等の余地がある （概ね効果的な事業構成である） ③ ： 見直し等の余地は大きい （あまり効果的な事業構成ではない） ④ ： 抜本的見直し等が必要 （事業構成に問題がある）	②	親睦団体旅行の早期回復は期待できないことから、個人旅行、教育旅行、外国人観光客の取り込みを図るよう、展示内容の充実やイベントの開催、誘客活動の強化を進めていきます。 文化財は、保護と同時に観光振興の資源としての活用が求められています。文化財ボランティアの育成を進め、活用の視点に立った検討や整備に努めます。

※これまでの評価結果を踏まえて、施策の今後の方向性として事業の構成や手法などが妥当か評価しています。

第６次総合計画　施策別評価シート（令和５年度）

基本目標２ 未来を拓く人材が育ち、町民相互に高めあうまちづくり

施策14 スポーツ活動の推進

1　施策の概要

重点施策	該当なし		
今後の取組方針	◇ 町民がスポーツやレクリエーション活動に親しみ、生涯を通じて心身ともに健康に暮らすことができるようにします。 ◇ スポーツイベントを通じ、全町的な多世代交流の促進に努めます。		
施策の展開	施　策　の　展　開	施策担当課	施策責任者
	2-14-1　地域スポーツ活動の推進 2-14-2　ニュースポーツの普及及び運動をとおした健康づくりの推進 2-14-3　スポーツ施設の機能と運営の充実 2-14-4　スポーツ・レクリエーション推進体制の充実及びイベントの開催	生涯学習課	教育次長

2　目標指標やその他成果などの状況と成果の分析

目標指標

1　箱根路森林浴ウォーク町民参加者数（単位：人）

元年度(基準)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(実績)	7年度(実績)	8年度(目標)
63	0	0	24	28			150

2　箱根町総合体育館の稼働率（単位：%）

元年度(基準)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(実績)	7年度(実績)	8年度(目標)
40.5	37.1	26.3	34.0	38.6			50.0

3　スポーツ教室・大会等開催回数（単位：回）

元年度(基準)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(実績)	7年度(実績)	8年度(目標)
3	0	0	1	3			5

その他定性的な成果（取組みを進めたことで発現した効果などについて記載）

・総合体育館については、町主催大会（ニュースポーツ大会・ソフトバレーボール大会）のほか、体育協会主催行事（はこねスポーツまつり）や箱根町子ども会育成団体連絡協議会主催行事（レクリエーション大会）を実施することにより、稼働率の向上を図りました。また、専用使用申込み開始日を現行の1年前から6か月前に変更する規則改正を行うとともに、繁忙期となる夏休み期間中の7月及び8月については、受付期間を設け抽選により利用団体を決定する運用を取り入れ、稼働率向上の一助に寄与することができました。

指標等の成果分析（指標の目標値達成を阻む外的要因等を含めて記載）

・森林浴ウォークについては4大会ぶりの開催となったが、参加人数を400人限定（申込者は382人）としたことや、コースが芦ノ湖一周コース（21km）のみであったことから、町民の参加者が少なかったと考えられる。今後は町民参加者数の向上という観点から、複数のコース設定や親子参加型の企画等を検討します。
・総合体育館の稼働率向上については、引き続き指定管理者と協議するとともに、施設の老朽化が課題となっていることから、中長期の修繕計画を作成します。
・スポーツ教室等の開催等については、新たなニュースポーツを導入するとともに普及活動の一環として大会や教室を開催することを検討します。

3　施策を構成する実施計画事業の評価

No.	事務事業名	事業の進捗度	今後の方向性
1	総合体育館整備事業	概ね計画通り実施できた	計画変更し実施（予定）
2	地域スポーツ施設等整備事業	概ね計画通り実施できた	計画変更し実施（予定）
3	箱根町文化・スポーツ財団運営補助事業	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
4	生涯スポーツ推進事業	概ね計画通り実施できた	計画変更し実施（予定）

4　施策の進捗状況

区　　分	選択区分	進捗状況区分を選択した理由
A ： 順調に推移 （目標達成又は進捗している） B ： 一定の進捗がある （目標達成に向け一定の進捗がある） C ： 一定の進捗がある （目標達成が遅れる可能性がある） D ： 進捗は大幅に遅れている （目標達成が難しい可能性がある）	B 前年度：B	・実施計画事業は概ね計画通り実施できているものの、目標指標の進捗の伸びは控え目です。実施計画事業と目標指標との関連性が低いため、目標指数の改善には違うアプローチが必要です。 ・スポーツ教室・大会等は、関係団体が開催するものもありますので、種目や競技人口のバランスを踏まえながら全町的に取り組んでいきます。

※指標等の成果を中心に施策を構成する実施計画事業の評価等から総合的に評価しています。

5　今後の方向性

区　　分	選択区分	「今後の方向性」及び「事業構成の妥当性」を選択した理由
① ： 現状のまま継続する （効果的な事業構成である） ② ： 一部見直し等の余地がある （概ね効果的な事業構成である） ③ ： 見直し等の余地は大きい （あまり効果的な事業構成ではない） ④ ： 抜本的見直し等が必要 （事業構成に問題がある）	①	・総合体育館をはじめとするスポーツ施設は老朽化が進んでいるため、利用状況や財政負担を考慮しながら計画的な整備を進め、安全で利便性の高い利用環境を確保します。 ・町民の心身の健康を保つとともに、世代間交流や地域コミュニティの活性化が図られるよう、健民祭や各種スポーツ大会などへの参加機会の確保に努めます。

※これまでの評価結果を踏まえて、施策の今後の方向性として事業の構成や手法などが妥当か評価しています。

第６次総合計画　施策別評価シート（令和５年度）

基本目標２ 未来を拓く人材が育ち、町民相互に高めあうまちづくり

施策15 男女共同参画・人権尊重の推進

1　施策の概要

重点施策	該当なし
今後の取組方針	◇「はこね男女共同参画推進プラン（第２次）」に基づく総合的な施策の推進と町民一人ひとりが男女共同参画に関する正しい知識を深め、男女がともに自分らしい選択ができるような意識や環境づくりを進めます。 ◇ 審議会等における女性の割合増加に取組みます。 ◇ いかなる暴力も重大な人権侵害であることを発信するなど人権尊重の意識づくりに取組みます。

施策の展開	施策担当課	施策責任者
2-15-1　男女共同参画の推進 2-15-2　女性の自立支援と活躍推進 2-15-3　男女がともに安心して暮らせる環境づくり 2-15-4　人権意識啓発	町民課 福祉課	総務部長

2　目標指標やその他成果などの状況と成果の分析

目標指標

1　男女共同参画講演会満足度（アンケート）（再掲）（単位：％）

元年度(基準)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(実績)	7年度(実績)	8年度(目標)
-	-	-	100	100			80

2　審議会等における女性委員の割合（単位：％）

元年度(基準)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(実績)	7年度(実績)	8年度(目標)
20.5	22.1	22.9	20.5	23.9			30.0

その他定性的な成果（取組みを進めたことで発現した効果などについて記載）

・「男性学の視点から誰もが生きやすい社会を考える」をテーマに男女共同参画講演会を実施し、新たな気付きを得たという意見が多数ありました。

指標等の成果分析（指標の目標値達成を阻む外的要因等を含めて記載）

・審議会等の推薦を依頼する団体自体に女性が少ない等の理由から、目標値には到達していないため、引き続き各課への意識付けやあらゆる分野における男女共同参画の啓発が必要です。

3　施策を構成する実施計画事業の評価

No.	事務事業名	事業の進捗度	今後の方向性
1	男女共同参画推進事業	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
2	人権意識啓発事業	概ね計画通り実施できた	計画通り実施（予定）

4　施策の進捗状況

区　　分	選択区分	進捗状況区分を選択した理由
A ： 順調に推移 （目標達成又は進捗している） B ： 一定の進捗がある （目標達成に向け一定の進捗がある） C ： 一定の進捗がある （目標達成が遅れる可能性がある） D ： 進捗は大幅に遅れている （目標達成が難しい可能性がある）	B 前年度：B	・男女共同参画講演会については、内容について、新たな視点で実施した。 ・女性活躍セミナーを引き続き開催した。 ・多様な視点、角度からの講演会、セミナー開催により、幅広い方から共感等得られて、啓発につながっている。

※指標等の成果を中心に施策を構成する実施計画事業の評価等から総合的に評価しています。

5　今後の方向性

区　　分	選択区分	「今後の方向性」及び「事業構成の妥当性」を選択した理由
① ： 現状のまま継続する （効果的な事業構成である） ② ： 一部見直し等の余地がある （概ね効果的な事業構成である） ③ ： 見直し等の余地は大きい （あまり効果的な事業構成ではない） ④ ： 抜本的見直し等が必要 （事業構成に問題がある）	①	・審議会等における女性委員の割合を増やすことについては、選考時における配慮を引き続き促し、目標の達成を目指します。 ・講演会やセミナーについては集客に苦慮しているが、多くの方に参加いただくことにより男女共同参画や人権尊重の意識醸成につながっていくことから、開催方法や周知方法を引き続き工夫していきます。

※これまでの評価結果を踏まえて、施策の今後の方向性として事業の構成や手法などが妥当か評価しています。

第６次総合計画　施策別評価シート（令和５年度）

基本目標２ 未来を拓く人材が育ち、町民相互に高めあうまちづくり

施策16 多文化交流の実現

1　施策の概要

重点施策	該当なし		
今後の取組方針	◇ 多様な文化に触れることのできる機会を提供します。 ◇ 地域に住む人々の心に残る価値を創造し、皆がいきいきと暮らせる社会の実現を目指します。 ◇ 姉妹都市・友好都市等との交流を積極的に実施し、異文化体験をとおして双方の友好関係の向上を目指します。		
施策の展開	施策の展開	施策担当課	施策責任者
	2-16-1　国際的な文化交流・ホストタウン構想の推進 2-16-2　国際交流の促進 2-16-3　姉妹都市・友好都市との交流	企画課 観光課 学校教育課 議会事務局	企画観光部長

2　目標指標やその他成果などの状況と成果の分析

目標指標

1　ホストタウン相手国との交流回数（単位：回）

元年度(基準)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(実績)	7年度(実績)	8年度(目標)
1	0	2	1	0			1

2　姉妹都市・友好都市との訪問団派遣・受入回数（単位：回）

元年度(基準)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(実績)	7年度(実績)	8年度(目標)
0	0	0	1	2			1

その他定性的な成果（取組みを進めたことで発現した効果などについて記載）

・ジャスパー側の調整がつかなかったため海外の姉妹都市の交流は実施できませんでした。
・3年ぶりに洞爺湖町との中学生相互交流を再開しました。
・ホストタウン交流については、窓口となる星槎大学と交流機会について調整したが、令和５年度は相手国留学生がいなかったため、交流ができませんでした。

指標等の成果分析（指標の目標値達成を阻む外的要因等を含めて記載）

・ジャスパー側の調整がつかなかったため海外の姉妹都市の交流は実施できませんでした。
・ホストタウン交流については、窓口となる星槎大学と交流機会について調整したが、令和５年度は相手国留学生がいなかったため、交流ができませんでした。

3　施策を構成する実施計画事業の評価

No.	事務事業名	事業の進捗度	今後の方向性
1	姉妹都市親善交流事業（教育費）	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
2	姉妹都市親善交流事業（観光費）	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
3	姉妹都市親善交流事業（議会費）	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）

4　施策の進捗状況

区　　分	選択区分	進捗状況区分を選択した理由
Ａ：順調に推移 （目標達成又は進捗している） Ｂ：一定の進捗がある （目標達成に向け一定の進捗がある） Ｃ：一定の進捗がある （目標達成が遅れる可能性がある） Ｄ：進捗は大幅に遅れている （目標達成が難しい可能性がある）	Ｂ 前年度：Ｂ	・国外の姉妹都市（ジャスパー等）やホストタウン（ブータン等）との交流を模索し調整を図りましたが、実施には至りませんでした。 ・一方、国内の姉妹都市（洞爺湖町）については、コロナ禍で中止していた「中学生相互交流」が３年ぶりに復活したほか、両町の職員が相互訪問し、「特産品の販売・観光のＰＲ」を実施しました。また、両町の議会議員も相互交流（R4：受入れ／R5：訪問）するなど、幅広い世代・分野で姉妹都市の絆を深め合えています。

※指標等の成果を中心に施策を構成する実施計画事業の評価等から総合的に評価しています。

5　今後の方向性

区　　分	選択区分	「今後の方向性」及び「事業構成の妥当性」を選択した理由
①：現状のまま継続する （効果的な事業構成である） ②：一部見直し等の余地がある （概ね効果的な事業構成である） ③：見直し等の余地は大きい （あまり効果的な事業構成ではない） ④：抜本的見直し等が必要 （事業構成に問題がある）	②	・コロナ禍により一年先送りになっている姉妹都市提携５０周年に合わせたジャスパーからの親善訪問団を受け入れる予定で準備していたが、先方の都合でさらに一年先送りとなってしまったので、改めて来年度にお迎えし、記念式典等を実施できりよう密に連絡を取り合い、準備していきます。 ・ホストタウンとしての交流については、星槎学園の協力も得ながら、あらゆる手段・機会をとらえ交流の場面を見出していきます。 ・新たに包括連携協定を結んだ熊本県玉名市・和水町についても、様々な分野で連携・交流を深めていきます。

※これまでの評価結果を踏まえて、施策の今後の方向性として事業の構成や手法などが妥当か評価しています。

第６次総合計画　施策別評価シート（令和５年度）

基本目標３ 誰もが住みたくなる、より良い生活環境のまちづくり

施策17 道路・交通網の充実

1　施策の概要

重点施策	分野１ 防災力の強化〔施策の展開 3-17-3が該当〕		
今後の取組方針	◇ 国道・県道の整備促進に向け、引き続き関係機関との調整及び要望を継続し、神奈川県と協力しながら事業の円滑な進捗を目指します。 ◇ 将来の交通需要を踏まえた道路計画を検討し、道路、橋りょう及び駐車場の長寿命化を見据えた維持・管理を行うとともに、安全・快適な道路空間の形成に取組みます。		
施策の展開	施　策　の　展　開	施策担当課	施策責任者
	3-17-1　国道・県道の整備、充実 3-17-2　林道の通行規制緩和の要望 3-17-3　適切な道路の維持管理 ◎ 3-17-4　道路後退用地の整備 3-17-5　橋りょうの長寿命化 3-17-6　駐車場の整備 3-17-7　安全・安心で快適な道路空間の形成	都市整備課 観　光　課	環境整備部長

2　目標指標やその他成果などの状況と成果の分析

目標指標

1 町道１６路線の整備エリアの整備率（単位：m）

元年度(基準)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(実績)	7年度(実績)	8年度(目標)
3,106	3,380	3,764	4,448	**5,177**			6,400

1 町道１６路線の整備エリアの整備率（単位：%）

元年度(基準)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(実績)	7年度(実績)	8年度(目標)
48.5	52.8	58.8	69.5	**80.1**			100.0

2 橋りょう保全改修率（単位：m）

元年度(基準)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(実績)	7年度(実績)	8年度(目標)
5	6	6	6	**6**			9

2 橋りょう保全改修率（単位：%）

元年度(基準)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(実績)	7年度(実績)	8年度(目標)
55.6	66.7	66.7	66.7	**66.7**			100.0

その他定性的な成果（取組みを進めたことで発現した効果などについて記載）

・町道整備を推進したことにより、通行者の安心・安全が確保されました。
・道路パトロールを定期的に実施することにより、状況把握や簡易補修を迅速に実施することが可能となりました。
・建物の建築に伴う道路後退について道路用地を取得し、住み良いまちづくりの推進に努めました。
・橋りょう点検を計画的に実施し、その点検結果を基に橋りょう長寿命化計画を策定し、計画的な長寿命化を図りました。
・宮ノ下駐車場の長寿命化を図るため、改良工事にかかる設計委託やアスベスト分析調査を実施し、工事に向けた準備を進めました。

指標等の成果分析（指標の目標値達成を阻む外的要因等を含めて記載）

・道路施設の整備を計画的に推進するにあたっては、特定財源を予定通り確保する必要があるため、予定通りの交付を受けることができるように関係機関等との調整を図っていきます。

3　施策を構成する実施計画事業の評価

No.	事務事業名	事業の進捗度	今後の方向性
1	町道湯71号線道路整備事業	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
2	町道宮185号線道路整備事業	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
3	町道仙3号線道路整備事業	計画通り実施できた	廃止
4	町道仙96号線道路整備事業	計画通り実施できた	廃止
5	町道湯２号線道路改良整備事業	計画の半分程度実施できた	計画通り実施（予定）
6	町道箱１号線道路改良整備事業	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
7	橋りょう長寿命化改修事業	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
8	林道整備事業	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
9	道路後退用地整備事業	概ね計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
10	道路施設保守点検事業	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
11	宮ノ下駐車場整備事業	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
12	町道箱114号線道路整備事業	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
13	町道温1号線道路整備事業	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
14	町道宮12号線道路整備事業	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
15	町道仙12号線道路整備事業	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
16	町道箱113号線道路整備事業	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）

4　施策の進捗状況

区　　分	選択区分	進捗状況区分を選択した理由
A ： 順調に推移 （目標達成又は進捗している） B ： 一定の進捗がある （目標達成に向け一定の進捗がある） C ： 一定の進捗がある （目標達成が遅れる可能性がある） D ： 進捗は大幅に遅れている （目標達成が難しい可能性がある）	A 前年度：A	・目標指標としている「町道16路線の整備エリア率」は、予定していた特定財源の減額等により事業の一部計画変更が生じたものの、順調に推移しています。 ・関連施策については、指標に掲げる町道整備・橋りょう保全を始め、道路後退による道路用地取得等鋭意とりくまれています。また、宮ノ下駐車場については、改良工事にかかる設計委託やアスベスト分析調査を実施し、長寿命化に向け準備を進めています。

※指標等の成果を中心に施策を構成する実施計画事業の評価等から総合的に評価しています。

5　今後の方向性

区　　分	選択区分	「今後の方向性」及び「事業構成の妥当性」を選択した理由
① ： 現状のまま継続する （効果的な事業構成である） ② ： 一部見直し等の余地がある （概ね効果的な事業構成である） ③ ： 見直し等の余地は大きい （あまり効果的な事業構成ではない） ④ ： 抜本的見直し等が必要 （事業構成に問題がある）	①	・２つの目標指標については、目標達成に向けて今後とも計画的に取り組みます。 ・国、県道の整備充実等については、積極的に県等との調整の機会を設けます。（特に沿道の草木の伐採や交差点等の歩道整備、交通渋滞対策等） ・町道や橋りょうの維持管理については、路線の重要度、老朽度、地域性等を踏まえ、補修・整備計画に沿って計画的に推進するとともに、整備に係る特定財源確保のため、関係機関と調整を図ります。きます。

※これまでの評価結果を踏まえて、施策の今後の方向性として事業の構成や手法などが妥当か評価しています。

第６次総合計画　施策別評価シート（令和５年度）

基本目標３ 誰もが住みたくなる、より良い生活環境のまちづくり

施策18 住環境の整備

1　施策の概要

重点施策	分野２ 若者定住の促進〔施策の展開 3-18-1が該当〕 分野４ ブランド力の強化〔施策の展開 3-18-3が該当〕		
今後の取組方針	◇ 空き家等の情報を的確に収集し、所有者に対して空き家バンクへの登録を促し、利活用の促進を図ります。 ◇ 住環境の整備をすすめ、人口減少の抑制に向けて移住・定住を促進します。 ◇ 地籍調査事業を進めます。		
施策の展開	施　策　の　展　開	施策担当課	施策責任者
	3-18-1　空き家バンク制度の促進 ◎ 3-18-2　企業・事業者への相談・支援 3-18-3　お試し居住制度の充実 ◎ 3-18-4　空き家等の適切な管理の促進 3-18-5　町営住宅の適切な維持管理 3-18-6　安心して利用できる公園の整備 3-18-7　観光街路灯維持管理における補助 3-18-8　土地の有効活用の促進 3-18-9　河川・水路の環境整備	企　画　課 観　光　課 町　民　課 福　祉　課 都市整備課	企画観光部長

2　目標指標やその他成果などの状況と成果の分析

目標指標

1　空き家バンク登録件数（累計）（単位：件）

元年度(基準)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(実績)	7年度(実績)	8年度(目標)
54	58	61	73	82			100

2　お試し居住・体験者からの移住件数（単位：件）

元年度(基準)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(実績)	7年度(実績)	8年度(目標)
3	4	5	5	7			20

その他定性的な成果（取組みを進めたことで発現した効果などについて記載）

・令和４年度から空き家バンクを町内民間団体に委託し、官民連携で事業を実施しており、登件数は大幅に伸びなかったものの、相談があった空き家に対しては、きめ細かい対応により、地道に登録、成約の件数を増やすことができました。
・お試し居住については、制度が定着し、引き続き、募集件数を大きく上回る応募が来ているだけでなく、実際に参加された方からも好評を得ています。

指標等の成果分析（指標の目標値達成を阻む外的要因等を含めて記載）

・お試し居住に関しては、体験した参加者の多くが箱根移住を検討したいという意向があるものの、提供できる空き家が少なく、移住につなげられていない課題がいまだ解消されておらず、移住促進と並行して空き家の掘り起こしがさらに必要となっています。
・空き家バンク登録については、老朽化した空き家相談が多く、大規模な改修が必要なものが多いため、所有者との相談に時間を要しています。

3　施策を構成する実施計画事業の評価

No.	事務事業名	事業の進捗度	今後の方向性
1	住みたいまち箱根推進事業	概ね計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
2	町営住宅整備事業	概ね計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
3	公園整備事業	概ね計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
4	観光街路灯整備補助金交付事業	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
5	ＬＥＤ街灯整備事業（観光費）	計画通り実施できた	廃止
6	ＬＥＤ街灯整備事業（総務費）	計画通り実施できた	廃止
7	ＬＥＤ街灯整備事業（土木費）	計画通り実施できた	廃止
8	地籍調査事業	概ね計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
9	都市計画区域の整備、開発及び保全の方針策定事業	計画通り実施できた	廃止

4　施策の進捗状況

区　　分	選択区分	進捗状況区分を選択した理由
Ａ：順調に推移 （目標達成又は進捗している） Ｂ：一定の進捗がある （目標達成に向け一定の進捗がある） Ｃ：一定の進捗がある （目標達成が遅れる可能性がある） Ｄ：進捗は大幅に遅れている （目標達成が難しい可能性がある）	Ｂ 前年度：Ｂ	・空き家バンク制度及びお試し居住制度を活用した移住の促進施策については、一定の成果が目標指標の推移からも見て取れます。 ・町営住宅整備及び公園整備については、維持補修等を図り、居住者及び利用者の利便性等の向上が図られています。 ・LED街路灯整備については、概ね順調に持続し５年度中途で器機のリース期間が満了となり、当該事業は完成（廃止）しました。

※指標等の成果を中心に施策を構成する実施計画事業の評価等から総合的に評価しています。

5　今後の方向性

区　　分	選択区分	「今後の方向性」及び「事業構成の妥当性」を選択した理由
①：現状のまま継続する （効果的な事業構成である） ②：一部見直し等の余地がある （概ね効果的な事業構成である） ③：見直し等の余地は大きい （あまり効果的な事業構成ではない） ④：抜本的見直し等が必要 （事業構成に問題がある）	②	・移住のさらなる促進のため、空き家の掘り起こし、並びに移住希望者のフォローを継続して実施していく必要があります。 ・老朽化している町営住宅や公園の施設整備については、財政状況を勘案しつつ、計画的に実施していく必要があります。 ・街路灯については、施設の老朽化や電気料の高騰など状況に即した補助内容に見直していく必要があります。 ・移り住みたい、住み続けたいと思ってもらえる住環境の整備に向けて、各種関連施策を継続して取り組んでいきます。

※これまでの評価結果を踏まえて、施策の今後の方向性として事業の構成や手法などが妥当か評価しています。

第６次総合計画　施策別評価シート（令和５年度）

基本目標３ 誰もが住みたくなる、より良い生活環境のまちづくり

施策19 生活環境の整備

1　施策の概要

重点施策	分野５ 持続可能なまちづくり〔施策の展開 3-19-1が該当〕		
今後の取組方針	◇ 美しいまちを将来の世代へ引き継ぐための取組みを引き続き進めます。 ◇ 動物の保護管理の徹底、有害野生鳥獣対策を引き続き進めます。		
施策の展開	施　策　の　展　開	施策担当課	施策責任者
	3-19-1　環境保全の推進 ◎ 3-19-2　浄化槽対策 3-19-3　環境美化の促進及び美観の保護 3-19-4　動物の保護管理の徹底 3-19-5　有害野生鳥獣の対策	環　境　課	環境整備部長

2　目標指標やその他成果などの状況と成果の分析

目標指標

1 花いっぱい運動参加団体数（単位：団体）

元年度(基準)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(実績)	7年度(実績)	8年度(目標)
23	23	26	28	28			25

2 美化清掃参加団体数（単位：団体）

元年度(基準)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(実績)	7年度(実績)	8年度(目標)
30	29	32	28	32			35

3 不法投棄パトロール回数（単位：回）

元年度(基準)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(実績)	7年度(実績)	8年度(目標)
25	23	31	33	31			30

4 有害野生鳥獣（猪）捕獲数（３か年平均）（単位：頭）

元年度(基準)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(実績)	7年度(実績)	8年度(目標)
73	71	73	59	44			70

その他定性的な成果（取組みを進めたことで発現した効果などについて記載）

・花いっぱい運動については、毎年4回花いっぱい参加団体に花苗を配付し、主要道路沿線を中心に季節ごとの花を植えることで、1年をとおして町内の環境美化を図ることができました。
・有害野生鳥獣対策において、近年ニホンジカの増加により生態系等に大きな影響を及ぼしていることから、ニホンジカの捕獲の強化を図りました。
・不法投棄パトロールや自治会等による美化清掃を継続的に実施したことで、町内がゴミの少ない状況を保持し、より良い生活環境をつくることができました。

指標等の成果分析（指標の目標値達成を阻む外的要因等を含めて記載）

・花いっぱい運動参加団体数、不法投棄パトロール回数は、目標数を達成することができています。
・令和４年度以降は豚熱（家畜伝染病）によると思われる猪の出没の減少が見られたことから、有害野生鳥獣（猪）捕獲数は減少しました。
・不法投棄パトロール回数について、夏季は植物が繁茂しており、不法投棄の発見及びパトロール活動に支障をきたしています。

3　施策を構成する実施計画事業の評価

No.	事務事業名	事業の進捗度	今後の方向性
1	散乱ごみ・不法投棄対策事業	概ね計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
2	花いっぱい事業	概ね計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
3	合併処理浄化槽設置整備費補助事業	計画通り実施できなかった	計画通り実施（予定）
4	有害鳥獣対策事業	概ね計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
5	スズメバチ対策事業	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）

4　施策の進捗状況

区　　分	選択区分	進捗状況区分を選択した理由
A ： 順調に推移 （目標達成又は進捗している） B ： 一定の進捗がある （目標達成に向け一定の進捗がある） C ： 一定の進捗がある （目標達成が遅れる可能性がある） D ： 進捗は大幅に遅れている （目標達成が難しい可能性がある）	A 前年度：A	・「花いっぱい運動参加団体数」及び「不法投棄パトロール数」は目標を達成しており、「美化清掃参加団体数」は目標の達成に向け着実に団体数は増加しており、環境美化の促進、美観保護に積極的に取り組みり良い生活環境を作ることができた。 ・います。 ・「有害野生鳥獣（猪）捕獲数」は豚熱（家畜伝染病）によると思われる猪の出没の減少により目標を下回っているが、有害野生鳥獣被害防止に向け、関係機関、団体等との協力体制の適正に対応しています。 ・スズメバチ駆除に係る補助金を交付しました。

※指標等の成果を中心に施策を構成する実施計画事業の評価等から総合的に評価しています。

5　今後の方向性

区　　分	選択区分	「今後の方向性」及び「事業構成の妥当性」を選択した理由
① ： 現状のまま継続する （効果的な事業構成である） ② ： 一部見直し等の余地がある （概ね効果的な事業構成である） ③ ： 見直し等の余地は大きい （あまり効果的な事業構成ではない） ④ ： 抜本的見直し等が必要 （事業構成に問題がある）	①	・環境美化の促進、美観保護、有害野生鳥獣対策は、関連団体・機関と連携し、目標達成に向け取り組みます。なお、有害野生鳥獣対策においては目標指標である猪のみではなく生態系等に大きな影響を及ぼしてニホンジカの捕獲の強化も図ってまいります。 ・浄化槽対策は、公共下水道区域外の合併浄化槽の普及に努めるとともに、浄化槽の適正管理を促進してまいります。

※これまでの評価結果を踏まえて、施策の今後の方向性として事業の構成や手法などが妥当か評価しています。

第６次総合計画　施策別評価シート（令和５年度）

基本目標３　誰もが住みたくなる、より良い生活環境のまちづくり

施策20　上下水道の整備

1　施策の概要

重点施策	該当なし		
今後の取組方針	◇ 上水道については、恒常的な安定供給と事業の健全化を目指し、箱根町水道ビジョンや箱根町水道アセットマネジメント計画によって検証した内容を踏まえて、施設・設備の維持更新を計画的に進めます。 ◇ 下水道については、事業の推進を継続していくとともに、安定経営のため施設の適正な維持管理を行いながら、箱根町下水道ストックマネジメント計画に基づく計画的な更新を進めます。		
施策の展開	施　策　の　展　開	施策担当課	施策責任者
	3-20-1　安全・安心・安定的な水道水の供給 3-20-2　未給水地区への対応 3-20-3　上水道事業の健全化 3-20-4　水資源の保全 3-20-5　下水道の整備 3-20-6　下水道使用料の適正化	上下水道温泉課	環境整備部長

2　目標指標やその他成果などの状況と成果の分析

目標指標

1　水道事業における有収水量率（単位：%）

元年度(基準)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(実績)	7年度(実績)	8年度(目標)
84.9	84.1	83.9	84.1	**84.0**			85.9

2　第１号公共下水道整備率（単位：%）

元年度(基準)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(実績)	7年度(実績)	8年度(目標)
89.8	90.4	90.5	90.5	**90.5**			98.6

3　第２号公共下水道整備率（単位：%）

元年度(基準)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(実績)	7年度(実績)	8年度(目標)
78.7	78.9	78.9	78.9	**78.9**			88.6

その他定性的な成果（取組みを進めたことで発現した効果などについて記載）

・（水道）コロナウイルスの蔓延により観光客数が減少、それにより総配水量も減となり、従来の老朽化した配管更新工事も抑制傾向となっていたため、配水本管からの漏水は現状のままであったことから見かけ上の有収水量率は低下しました。令和4年度以降は集客も回復傾向で、配水量も伸びてきており、有収率の向上が望めるようになる見込みです。
・（下水道）未普及地区の管路施設整備工事や、老朽化した処理場・ポンプ場設備の改築更新工事を行いました。また、３号公共下水道共用開始に向けた事業計画変更委託や管渠実施設計委託を行いました。

指標等の成果分析（指標の目標値達成を阻む外的要因等を含めて記載）

・（水道）水道の改良工事としては、ここ数年コロナ禍において純損失となり、経営上事業を抑制する状況となっていました。町の集客が戻る傾向であるので、従前よりの計画に則った改良工事等推進する方向にシフトする途中段階といえます。
・（下水道）建設から40年近く経過している設備の改築更新は、ストックマネジメント計画に沿い執行していますが、新規整備は、国交付金の削減による財政的な面から先送りをしている状況です。

3　施策を構成する実施計画事業の評価

No.	事務事業名	事業の進捗度	今後の方向性
1	一般建設改良事業（水道事業会計）	概ね計画通り実施できた	計画変更し実施（予定）
2	送配水管整備事業（水道事業会計）	概ね計画通り実施できた	計画変更し実施（予定）
3	水道統合整備事業（水道事業会計）	概ね計画通り実施できた	計画変更し実施（予定）
4	管路施設建設改良事業（公共下水道事業会計）	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
5	処理場建設改良事業（公共下水道事業会計）	計画の半分程度実施できた	計画変更し実施（予定）
6	ポンプ場建設改良事業（公共下水道事業会計）	計画の半分程度実施できた	計画変更し実施（予定）
7	第３号公共下水道事業（公共下水道事業会計）	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
8	公共下水道事業会計補助金	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）

4　施策の進捗状況

区　　分	選択区分	進捗状況区分を選択した理由
A ： 順調に推移 （目標達成又は進捗している） B ： 一定の進捗がある （目標達成に向け一定の進捗がある） C ： 一定の進捗がある （目標達成が遅れる可能性がある） D ： 進捗は大幅に遅れている （目標達成が難しい可能性がある）	B 前年度：B	・水道有収水量率は、前年度と比較しして僅かな減はあるものの、継続的な配水管の改良工事施工により、目標指標に向け取り組んでいます。 ・第１号・第２号公共下水道の整備率は、前年度と同数であるが、総体的には増加しています。 ・第３号公共下水道については、箱根小田原幹線工事が一部工区の工期が延伸しているものの概ね計画どおりに進んでいます。 ・浄水センターは、国交付金の削減により一部工事の先送りをしているが、概ねストックマネジメント計画等に基づき施設の維持・更新工事を実施しています。

※指標等の成果を中心に施策を構成する実施計画事業の評価等から総合的に評価しています。

5　今後の方向性

区　　分	選択区分	「今後の方向性」及び「事業構成の妥当性」を選択した理由
① ： 現状のまま継続する （効果的な事業構成である） ② ： 一部見直し等の余地がある （概ね効果的な事業構成である） ③ ： 見直し等の余地は大きい （あまり効果的な事業構成ではない） ④ ： 抜本的見直し等が必要 （事業構成に問題がある）	②	・水道事業は、計画に基づき、効果的な配水管改良工事を継続実施し、有収水量率の向上に努めるとともに、「水道ビジョン」に則り、安定した事業運営を図り、安全・安心・安定的な供給に努めます。 ・下水道事業は、ストックマネジメント計画により、着実に老朽化した施設の改築更新に努めるとともに、この改築更新に必要な財源となる国交付金の確保のため、関係機関と調整を図ります。 ・第３号公共下水道については、湯本地区の目標年次の供用開始に向け事業推進に努めます。

※これまでの評価結果を踏まえて、施策の今後の方向性として事業の構成や手法などが妥当か評価しています。

第６次総合計画　施策別評価シート（令和５年度）

基本目標３ 誰もが住みたくなる、より良い生活環境のまちづくり

施策21 地域交通の利便性の確保

1　施策の概要

重点施策	該当なし		
今後の取組方針	◇ 公共交通機関の利便性と駅など主な交通拠点の機能の充実を図り、町民の生活と観光客の移動手段の確保に努めます。		
施策の展開	施策の展開	施策担当課	施策責任者
	3-21-1　利用しやすい公共交通サービスの提供 3-21-2　駅など主な交通拠点の機能充実 3-21-3　自然環境への負荷軽減	都市整備課	環境整備部長

2　目標指標やその他成果などの状況と成果の分析

目標指標 1：パークアンドサイクルの年間利用件数（単位：件）

元年度(基準)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(実績)	7年度(実績)	8年度(目標)
4,466	3,708	3,237	4,874	**5,917**			4,500

その他定性的な成果（取組みを進めたことで発現した効果などについて記載）

・仙石原交差点の改良について、県により対象地の測量や町有地の一部買収が行われました。今後、測量調査に基づき、土地所有者との用地買収や建物補償に関する協議が開始されることとなっています。
・仙石原交差点周辺まちづくりについては、今までの事業成果により、ワークショップ参加者による主体的なまちづくりが開始され、地域住民向けの交流イベントが開始される等、まちづくりの自走化に向けた取組みが進捗しました。
・公園等におけるマルシェイベントの開催が定着しつつある等、地域内に居住する若い世代にもまちづくりの輪を広げることができました。

指標等の成果分析（指標の目標値達成を阻む外的要因等を含めて記載）

・パーク＆サイクルについては、芦ノ湖畔を訪れる観光客の移動手段として定着し、目標利用件数を達成しています。
・自転車のメンテナンスや保険加入等の手続きを各貸出拠点施設で個別に行っており、統一が図られていない等の懸念事項があります。

3　施策を構成する実施計画事業の評価

No.	事務事業名	事業の進捗度	今後の方向性
1	仙石原交差点周辺まちづくり事業（再掲）	概ね計画通り実施できた	計画通り実施（予定）

4　施策の進捗状況

区　　分	選択区分	進捗状況区分を選択した理由
A ： 順調に推移 （目標達成又は進捗している） B ： 一定の進捗がある （目標達成に向け一定の進捗がある） C ： 一定の進捗がある （目標達成が遅れる可能性がある） D ： 進捗は大幅に遅れている （目標達成が難しい可能性がある）	A 前年度：A	・目標指標としている「パークアンドサイクルの年間利用件数」については、芦ノ湖畔訪れる観光客の移動手段として定着し、目標利用件数を達成しています。 ・仙石原交差点の改良については、県により対象地の測量や町有地の一部買収が行われ、今後、測量調査に基づき、土地所有者との用地買収や建物補償に関する協議が開始されます。 ・仙石原交差点周辺まちづくりについては、公園等におけるマルシェの開催や、まち歩きツアーを開催することで、地域内に居住する若い世代にもまちづくりの輪を広げることができています。

※指標等の成果を中心に施策を構成する実施計画事業の評価等から総合的に評価しています。

5　今後の方向性

区　　分	選択区分	「今後の方向性」及び「事業構成の妥当性」を選択した理由
① ： 現状のまま継続する （効果的な事業構成である） ② ： 一部見直し等の余地がある （概ね効果的な事業構成である） ③ ： 見直し等の余地は大きい （あまり効果的な事業構成ではない） ④ ： 抜本的見直し等が必要 （事業構成に問題がある）	①	・目標指標としている「パークアンドサイクル」の促進については、目標指標は達成しているものの、運営上の課題解決について検討します。 ・仙石原交差点周辺におけるまちづくりは、プラットフォームを通じて、まちづくり推進のための体制整備を行うとともに、プラットフォームで決定したまちづくりテーマやその取組事項に沿って、それぞれの役割と分担により具体的な展開を図ります。

※これまでの評価結果を踏まえて、施策の今後の方向性として事業の構成や手法などが妥当か評価しています。

第６次総合計画　施策別評価シート（令和５年度）

基本目標４　環境にやさしく、安全・安心なまちづくり

施策22　循環型社会の形成

1　施策の概要

重点施策	分野５　持続可能なまちづくり〔施策の展開 4-22-1が該当〕		
今後の取組方針	◇ 廃棄物の発生抑制や資源の循環的利用を推進するため、４Ｒ（発生回避、発生抑制・再使用・再生利用）を進めます。 ◇ 箱根町環境基本計画に基づき脱炭素社会の形成を進めるとともに、ごみ処理施設・し尿処理施設の効率的活用を図ります。		
施策の展開	施　策　の　展　開	施策担当課	施策責任者
	4-22-1　循環型社会の構築 ◎ 4-22-2　カーボンニュートラル（脱炭素社会）の推進 4-22-3　ごみ処理施設・し尿処理施設の効率的活用	環　境　課	環境整備部長

2　目標指標やその他成果などの状況と成果の分析

目標指標

1　ごみの資源化率（単位：%）

元年度(基準)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(実績)	7年度(実績)	8年度(目標)
5.8	6.7	5.9	5.4	**5.5**			12.0

2　ごみの焼却処理量（単位：トン）

元年度(基準)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(実績)	7年度(実績)	8年度(目標)
13,956	10,828	11,118	12,199	**12,434**			13,100

その他定性的な成果（取組みを進めたことで発現した効果などについて記載）

・ごみ減量化・再利用推進事業では業務用生ごみ処理機の購入補助を実施したことから、当該施設の厨芥類の削減が見込まれます。

指標等の成果分析（指標の目標値達成を阻む外的要因等を含めて記載）

・ごみの資源化率は、事業系ごみについて、環境センターを介さずに独自で資源化したものを実績に反映できないため、数字が伸び悩んでいる状況となっています。
・ごみの焼却処理量は、新型コロナウイルス感染症の影響で令和２年度から観光客数が減少したことにより事業系一般廃棄物の発生が減少したため、目標値を大きく満たす結果となった。令和５年度は、観光客数がコロナ禍前と比較し一定の回復が見られたものの、ごみの焼却処理量は目標値を達成しており、ごみ減量のための施策（ごみ処理手数料改定等）が定着し、その効果も現れているものと考えられます。

3　施策を構成する実施計画事業の評価

No.	事務事業名	事業の進捗度	今後の方向性
1	スマートエネルギー導入促進事業	計画通り実施できなかった	計画変更し実施（予定）
2	ごみ減量化・再利用推進事業	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
3	粗大ごみ選別業務委託事業	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
4	ごみ処理広域化推進事業	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
5	清掃第１プラント運転管理事業	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
6	清掃第１プラント施設維持管理事業	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
7	最終処分場施設維持管理事業	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）

8	清掃第２プラント運転管理事業	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
9	清掃第１プラント精密機能検査事業	計画通り実施できた	休止
10	食品ロス対策推進事業	計画通り実施できた	計画変更し実施（予定）
11	省エネ家電買換え促進事業	計画通り実施できた	廃止

4　施策の進捗状況

区　　分	選択区分	進捗状況区分を選択した理由
A ： 順調に推移 （目標達成又は進捗している） B ： 一定の進捗がある （目標達成に向け一定の進捗がある） C ： 一定の進捗がある （目標達成が遅れる可能性がある） D ： 進捗は大幅に遅れている （目標達成が難しい可能性がある）	B 前年度：B	・ごみの資源化率については町のごみの大部分を占める事業系ごみの実績が反映できないため数値的には進捗はありませんが、収集運搬事業者の報告によると事業系ごみの資源化は増加傾向が見られ、ごみ焼却処理量が減少していることから総体的なごみの資源化については一定の進捗があるものと捉えています。 ・カーボンニュートラル（脱炭素社会）の推進に向けてスマートエネルギー推進事業において脱炭素アドバイザー招聘しその方の専門知識を活用し、新規脱炭素施策を立案しました。 ・省エネ性能の高いエアコン、冷蔵庫、テレビへの買換えに要する費用の一部を補助し、電気使用量低減に伴う二酸化炭素排出量削減を図りました。

※指標等の成果を中心に施策を構成する実施計画事業の評価等から総合的に評価しています。

5　今後の方向性

区　　分	選択区分	「今後の方向性」及び「事業構成の妥当性」を選択した理由
① ： 現状のまま継続する （効果的な事業構成である） ② ： 一部見直し等の余地がある （概ね効果的な事業構成である） ③ ： 見直し等の余地は大きい （あまり効果的な事業構成ではない） ④ ： 抜本的見直し等が必要 （事業構成に問題がある）	①	・ごみの資源化率を向上するため剪定枝の資源化、食品廃棄物の削減に取り組んでまいります。 ・カーボンニュートラル（脱炭素社会）の推進に向けて再生可能エネルギー由来電力の利用を推進してまいります。 ・ごみを継続的に安定した処理を行うため、引き続きごみ処理広域化に向けた協議を関係市町で行うとともに、広域処理の前段となる足柄下郡3町における可燃ごみ共同処理を令和7年10月開始に向け施設整備等を進めてまいります。

※これまでの評価結果を踏まえて、施策の今後の方向性として事業の構成や手法などが妥当か評価しています。

第６次総合計画　施策別評価シート（令和５年度）

基本目標４　環境にやさしく、安全・安心なまちづくり

施策23　自然環境の保全

1　施策の概要

重点施策	分野５　持続可能なまちづくり〔施策の展開　4-23-3が該当〕		
今後の取組方針	◇ 箱根トラスト制度・県交付金などの活用により森林整備を含め自然環境の保全に努めます。 ◇ 箱根トラスト制度の周知を図るとともに、町民への環境保全の意識啓発を進めます。 ◇ 「箱根町地下水保全計画（第２期）」に基づき、温泉を含めた地下水保全対策を進めます。		
施策の展開	施　策　の　展　開	施策担当課	施策責任者
	4-23-1　箱根トラスト制度の充実 4-23-2　自然から学ぶことができる環境づくり 4-23-3　総合的な環境施策の推進　◎ 4-23-4　自然環境の保全 4-23-5　地下水の保全対策 4-23-6　森林の多面的機能の確保と森林整備の推進 4-23-7　仙石原湿原等におけるシカ対策の推進	企　画　課 観　光　課 財　務　課 環　境　課	企画観光部長

2　目標指標やその他成果などの状況と成果の分析

目標指標

1　資源保全基金の年間寄付金額（単位：千円）

元年度(基準)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(実績)	7年度(実績)	8年度(目標)
4,799	2,683	2,062	4,150	4,666			6,000

2　豊かな森林づくり（水源かん養）の実施面積（実施町有地の延面積）（単位：ha）

元年度(基準)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(実績)	7年度(実績)	8年度(目標)
145	176	212	249	279			499

3　間伐材搬出促進事業に係る搬出実施面積（累計）（単位：ha）

元年度(基準)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(実績)	7年度(実績)	8年度(目標)
86	93	99	106	112			104

その他定性的な成果（取組みを進めたことで発現した効果などについて記載）

・コロナの影響で令和２年度～３年度と減っていた寄付額は、小田急電鉄のシンボルマーク協力金の増などを含め前年度から回復傾向にあり、前年度を上回る450万円以上の寄付額となりました。
・町有林の整備のほか、長期施業受委託制度による森林（私有林）整備が順調に進んでいます。
・間伐材搬出促進事業は、市場における木材利用の観点及び町が目指す針広混交林にするため、必要不可欠な事業と考えます。令和5年度においても、作業の効率化を図るため、作業道を増設しました。

指標等の成果分析（指標の目標値達成を阻む外的要因等を含めて記載）

・資源保全基金については、基金を取り崩す事業が多く、基金残高が年々減ってきていることもあり、今後も引き続き、地元企業などの協力を得ることに加えて、新規協力者の開拓を図るために広報周知の方法や寄付方法の検討を進める必要があります。
・目標とする指標のうち森林関係の目標値は、年々進捗が図れています。
・森林整備に係る経費は、現状、神奈川県が実施する森林環境保全市町村補助金（100%）で実施できていますが、県が策定した大綱では令和８年度で終了となることから、財源確保が課題となっています。

3　施策を構成する実施計画事業の評価

No.	事務事業名	事業の進捗度	今後の方向性
1	箱根トラスト推進事業	概ね計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
2	仙石原湿原保全事業	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
3	豊かな森林づくり事業（総務費）	計画通り実施できた	計画変更し実施（予定）
4	豊かな森林づくり事業（農林水産業費）	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
5	間伐材搬出促進事業	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
6	森林病害虫防除対策事業	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
7	地下水保全対策事業	概ね計画通り実施できた	計画通り実施（予定）

4　施策の進捗状況

区　　分	選択区分	進捗状況区分を選択した理由
A ： 順調に推移 （目標達成又は進捗している） B ： 一定の進捗がある （目標達成に向け一定の進捗がある） C ： 一定の進捗がある （目標達成が遅れる可能性がある） D ： 進捗は大幅に遅れている （目標達成が難しい可能性がある）	B 前年度：B	・「資源保全基金の年間寄付金額」が回復傾向にあり４６０万円を超える寄付をいただけた。 ・豊かで活力ある森林を目指し継続的に実施している「豊かな森林づくり」事業において、公有林以外の私有林についても整備が順調に進んでいます。 ・豊かな森林事業と一体で進めている間伐材搬出促進事業における「間伐材の搬出実施面積（累計）」が順調に進展しています。

※指標等の成果を中心に施策を構成する実施計画事業の評価等から総合的に評価しています。

5　今後の方向性

区　　分	選択区分	「今後の方向性」及び「事業構成の妥当性」を選択した理由
① ： 現状のまま継続する （効果的な事業構成である） ② ： 一部見直し等の余地がある （概ね効果的な事業構成である） ③ ： 見直し等の余地は大きい （あまり効果的な事業構成ではない） ④ ： 抜本的見直し等が必要 （事業構成に問題がある）	②	・資源保全基金の残高が減少傾向にあるため、箱根トラスト制度の周知のほか、基金への賛同者（企業）増加やシンボルマークの利用促進を図っていきます。 ・森林整備の推進財源である県からの水源環境保全・再生市町村交付金が、現行の県計画では令和８年度で終了となることから、将来にわたって健全な森林及び地下水を保全していくため、持続可能な財源を確保していく必要があります。 ・温泉の源でもある地下水を持続的に保全していくため、要綱等の策定に向け取り組んでいきます。

※これまでの評価結果を踏まえて、施策の今後の方向性として事業の構成や手法などが妥当か評価しています。

第６次総合計画　施策別評価シート（令和５年度）

基本目標４ 環境にやさしく、安全・安心なまちづくり

施策24 景観の保全・形成

1　施策の概要

重点施策	該当なし
今後の取組方針	◇ 町民、事業者、観光客及び町が各々の役割に応じて協働し、良好な景観を守り育みながら、積極的に景観まちづくりを進めていきます。 ◇ 景観形成の目的の具現化へ向け、箱根町景観計画の各施策の推進効果を検証しその効果と実現性を考慮した質の高い独自施策を、国・神奈川県、他の自治体と協働・連携しながら展開します。

施策の展開	施策の展開	施策担当課	施策責任者
	4-24-1　箱根町景観計画の見直しと適切な進行管理 4-24-2　町民との協働による景観づくりの発展 4-24-3　町の先導的役割の遂行 4-24-4　景観法等に基づく施策の展開 4-24-5　独自施策の展開 4-24-6　国・神奈川県、関連自治体との連携	都市整備課	環境整備部長

2　目標指標やその他成果などの状況と成果の分析

目標指標 1　景観まちづくり協力店の認定件数（累計）（単位：件）

元年度(基準)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(実績)	7年度(実績)	8年度(目標)
15	15	15	15	15			30

その他定性的な成果（取組みを進めたことで発現した効果などについて記載）

・町広報・回覧での景観計画・条例の制度紹介を始め、協力店の認定や、景観フェイスブックページ・インスタグラムでの広報等により、景観計画・条例の認知に努めました。
・従来、景観条例や景観計画の中でマンセル表色系の数値により色彩基準を規定しているが、建築物の新築や塗替えの際に使用できる色彩を案内するため、わかりやすく実際の色により色彩基準を表した景観色彩パンフレットを作成しました。

指標等の成果分析（指標の目標値達成を阻む外的要因等を含めて記載）

・景観を切り口としたまちづくり（まちの姿カタチを再発見し、より親しみやすく、包容力のある表情をまちに作り出すこと）とは、地元住民の意見や働きかけが求められ、そうした取り組みを後押しするため、アドバイザー派遣制度など、更なる広報が必要と考えます。

3　施策を構成する実施計画事業の評価

No.	事務事業名	事業の進捗度	今後の方向性
1	景観まちづくり推進事業	概ね計画通り実施できた	計画通り実施（予定）

4　施策の進捗状況

区　　分	選択区分	進捗状況区分を選択した理由
A ： 順調に推移 （目標達成又は進捗している） B ： 一定の進捗がある （目標達成に向け一定の進捗がある） C ： 一定の進捗がある （目標達成が遅れる可能性がある） D ： 進捗は大幅に遅れている （目標達成が難しい可能性がある）	B 前年度：B	・目標指標としている「景観まちづくり協力認定店の認定件数」は、ここ数年は、伸び悩んでいます。 ・景観色彩パンフレットを作成し、景観条例や景観計画を適正に機能させるための施策を講じました。 ・SNS等を積極的に活用し、町民等のさらなる景観意識の啓発や情報提供を行いました。

※指標等の成果を中心に施策を構成する実施計画事業の評価等から総合的に評価しています。

5　今後の方向性

区　　分	選択区分	「今後の方向性」及び「事業構成の妥当性」を選択した理由
① ： 現状のまま継続する （効果的な事業構成である） ② ： 一部見直し等の余地がある （概ね効果的な事業構成である） ③ ： 見直し等の余地は大きい （あまり効果的な事業構成ではない） ④ ： 抜本的見直し等が必要 （事業構成に問題がある）	②	・「景観まちづくり協力認定店の認定」は、目標値達成に向け、今後とも積極的に働きかけます。 ・箱根町景観計画を町内を取り巻く環境の変化に応じていくための見直しについて検討してまいります。

※これまでの評価結果を踏まえて、施策の今後の方向性として事業の構成や手法などが妥当か評価しています。

第６次総合計画　施策別評価シート（令和５年度）

基本目標４　環境にやさしく、安全・安心なまちづくり

施策25　防災対策の推進

1　施策の概要

重点施策	分野１　防災力の強化〔施策の展開 4-25-3, 4-25-4, 4-25-5が該当〕		
今後の取組方針	◇ 地震、風水害、火山災害、雪害などに対し行政主体の防災・減災対策を推進していくとともに、ＳＮＳ、アプリ等の時代に即した情報発信の多様化や自主防災活動の促進、防災意識の啓発、民間施設との連携等を通じて自助・共助による防災活動を推進し、安全・安心なまちづくりを目指します。 ◇ 地震による建築物の倒壊等から町民等の生命、生活の安全安心を守るほか、災害時に通行可能な空間を確保するため、建築物の耐震化の促進に努めます。		
施策の展開	施　策　の　展　開	施策担当課	施策責任者
	4-25-1　防災対策の総合的な推進 4-25-2　防災設備の充実 4-25-3　情報発信体制の充実 ◎ 4-25-4　自主防災活動の促進と防災意識の啓発 ◎ 4-25-5　火山災害対策 ◎ 4-25-6　武力攻撃事態等の対策 4-25-7　緊急輸送路沿道建築物耐震化の促進 4-25-8　要緊急安全確認大規模建築物耐震化の促進 4-25-9　木造住宅耐震化の促進	総務防災課 都市整備課 上下水道温泉課	総務部長

2　目標指標やその他成果などの状況と成果の分析

目標指標

1　神奈川県西部地震の被害想定に基づく、避難者及び帰宅困難者のための食料備蓄率（単位：%）

元年度(基準)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(実績)	7年度(実績)	8年度(目標)
100.0	100.0	100.0	100.0	100.0			100.0

2　防災講演、出前出張講座等の依頼数に対する講演会等の実施回数（単位：回）

元年度(基準)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(実績)	7年度(実績)	8年度(目標)
2	0	20	22	2			5

3　木造住宅耐震診断費に対する年間助成件数（単位：件）

元年度(基準)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(実績)	7年度(実績)	8年度(目標)
2	0	1	2	1			5

その他定性的な成果（取組みを進めたことで発現した効果などについて記載）

・地震に強いまちづくりを推進するため、町民自ら所有し居住する木造住宅や緊急輸送道路（国道1号、国道138号、県道75号線）で道路閉塞を起こす可能性が高い旧耐震基準による一定の高さの建築物について、耐震診断及び耐震改修に要する費用の補助を行い、耐震化を促進しました。
・緊急輸送道路沿道建築物耐震化補助事業において、国や県の補助金を活用しながら、耐震改修費の平米当たりの面積限度額を増額することで、建築物所有者の耐震改修費の自己負担の軽減を図りました。
・耐震化への順序として、先ずは居住する家屋の実情を理解してもらう必要があることから、耐震相談会への参加を促すため、広報はこねやホームページによる周知、対象物件の所有者へのダイレクトメールを送付したうえで、町内各地域で無料耐震相談会を実施し耐震化への誘導を図りました。

指標等の成果分析（指標の目標値達成を阻む外的要因等を含めて記載）

・耐震化を促進するためには、一般診断・耐震改修に係る対象物件所有者の経済的負担を軽減すること及び町民意識の向上が大きな課題となっています。

3　施策を構成する実施計画事業の評価

No.	事務事業名	事業の進捗度	今後の方向性
1	地震等災害対策事業	概ね計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
2	震後建物応急判定業務整備事業	概ね計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
3	被災者生活再建支援事業	ー	計画通り実施（予定）
4	大涌谷火山対策事業	概ね計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
5	緊急輸送道路沿道建築物耐震化補助事業	概ね計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
6	要緊急安全確認大規模建築物耐震化補助事業	計画通り実施できなかった	計画変更し実施（予定）
7	木造住宅耐震化補助事業	計画の半分程度実施できた	計画通り実施（予定）
8	ブロック塀等撤去改修補助事業	概ね計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
9	防災情報機器等整備事業	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
10	災害時応急給水体制整備事業	概ね計画通り実施できた	計画変更し実施（予定）

4　施策の進捗状況

区　　分	選択区分	進捗状況区分を選択した理由
A ： 順調に推移 （目標達成又は進捗している） B ： 一定の進捗がある （目標達成に向け一定の進捗がある） C ： 一定の進捗がある （目標達成が遅れる可能性がある） D ： 進捗は大幅に遅れている （目標達成が難しい可能性がある）	B 前年度：B	・防災資機材倉庫の更新や防災行政無線の機能充実を行うなど、災害拠点の整備や情報発信体制の強化を図った。 ・緊急輸送道路沿道建築物耐震化では、耐震改修補助金の平米面積限度額を増やすなど体制の充実を図った。 ・危険木伐採等に対する補助制度を創設した。 ・火山活動の活発化に備えた体制の強化を図った。

※指標等の成果を中心に施策を構成する実施計画事業の評価等から総合的に評価しています。

5　今後の方向性

区　　分	選択区分	「今後の方向性」及び「事業構成の妥当性」を選択した理由
① ： 現状のまま継続する （効果的な事業構成である） ② ： 一部見直し等の余地がある （概ね効果的な事業構成である） ③ ： 見直し等の余地は大きい （あまり効果的な事業構成ではない） ④ ： 抜本的見直し等が必要 （事業構成に問題がある）	①	・引き続きハード、ソフトの施策展開から自主防災組織の機能強化、充実を図ります。 ・緊急輸送道路沿道建築物や木造住宅の耐震化、ブロック塀等撤去改修補助制度についてはＰＲを強化するなど、更なる事業促進に努めます。 ・火山活動の活発化に備えた体制の強化を図ります。

※これまでの評価結果を踏まえて、施策の今後の方向性として事業の構成や手法などが妥当か評価しています。

第６次総合計画　施策別評価シート（令和５年度）

基本目標４　環境にやさしく、安全・安心なまちづくり

施策26　消防・救急対策の充実

1　施策の概要

重点施策	該当なし
今後の取組方針	◇ 消防施設や装備、資機材等の充実に努めるとともに、消防職員一人ひとりの育成及び資質の向上を図ります。 ◇ 町民に対する防火意識の高揚や応急手当の普及啓発を引き続き推進します。 ◇ 消防団員の確保を促進するとともに処遇改善に努め、消防団組織の充実強化を図ります。

施策の展開	施策担当課	施策責任者
4-26-1　消防施設・装備の充実 4-26-2　消防団活動の充実 4-26-3　消防・救助体制の充実 4-26-4　火災の未然防止及び被害軽減の推進 4-26-5　救命率の向上及び救急体制の充実 4-26-6　通信指令体制の充実・強化	消防本部	消防長

2　目標指標やその他成果などの状況と成果の分析

目標指標

1　応急手当の普及啓発受講者数（単位：人）

元年度(基準)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(実績)	7年度(実績)	8年度(目標)
602	7	121	408	816			750

2　消防団員数（単位：人）

元年度(基準)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(実績)	7年度(実績)	8年度(目標)
327	325	309	306	317			370

その他定性的な成果（取組みを進めたことで発現した効果などについて記載）

・応急手当普及啓発活動を通じて救命率の向上を図るため、毎月一般公募制の救命講習を開催するとともに、受講者が希望する場所に職員が出向するなど受講する機会を増やしました。また、消防団員、宿泊施設等事業所の従業員、保育士等にも救命講習を行うなど応急手当の普及啓発に積極的に取り組みました。
・消防団員を確保するため、入団募集広報等の継続及び機能別消防団員制度の普及により入団促進を図るとともに、消防団員への福利厚生の充実と処遇改善及び被服・資機材を整備することにより、消防団組織の充実強化を図りました。

指標等の成果分析（指標の目標値達成を阻む外的要因等を含めて記載）

・令和5年度の応急手当普及講習会は、合計82回開催して受講者総数は816人となり目標値を達成しました。これはコロナ禍前の救命講習の開催状況に戻すため積極的に取り組んできた成果と考えます。応急手当普及啓発活動は救命率向上の重要な要素なので、新規受講のみならず再講習を含めて受講者の確保に努めていきます。
・令和5年度の消防団員数は、前年度と比べ11人となり増加に転じました。これは、入団促進広報の継続及び機能別消防団員制度の創設が効果的であったと考えます。消防団員を確保することは、地域の消防防災体制を維持していくために重要な課題なので、処遇改善、機能別消防団員制度の普及、女性消防団員の入団促進など、目標値の達成に向けて引き続き努めていきます。

3　施策を構成する実施計画事業の評価

No.	事務事業名	事業の進捗度	今後の方向性
1	消防職員被服等整備事業	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
2	消防車両整備事業	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
3	消防・救助業務推進事業	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
4	消防水利等整備事業	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
5	消防施設等整備事業	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
6	消防情報機器等整備事業	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
7	消防団員被服等整備事業	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
8	地震等災害対応資機材整備事業（非常備消防費）	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
9	地震等災害対応資機材整備事業（常備消防費）	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
10	救急業務高度化推進事業（常備消防費）	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
11	火災予防推進事業	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）

4　施策の進捗状況

区　　分	選択区分	進捗状況区分を選択した理由
A ： 順調に推移 （目標達成又は進捗している） B ： 一定の進捗がある （目標達成に向け一定の進捗がある） C ： 一定の進捗がある （目標達成が遅れる可能性がある） D ： 進捗は大幅に遅れている （目標達成が難しい可能性がある）	B 前年度：B	・消防職員・消防団員の被服や各種消防活動用資機材の整備、消防車両の更新、消防施設の維持・補修等を推進し、災害発生時の安全管理体制や消防力の充実・強化が図られ、災害対応力が向上しました。 ・町民をはじめ宿泊施設の従業員等に対して応急手当普及講習会を開催、また、消防団員の中から応急手当普及員を養成するとともに、救急救命士の教育や研修の受講並びに救急業務の高度化に向けた救急資器材の整備により、救急救命体制が向上しました。 ・大規模災害発生時等において地域の分団を支援する「機能別消防団員制度」を創設し、消防団組織の充実・強化を図りました。 ・幼年消防クラブの育成や町民への住宅用火災警報器の普及促進広報、宿泊施設等の各種事業所への防火指導を実施し、防火意識の向上と防火思想の普及を図りました。

※指標等の成果を中心に施策を構成する実施計画事業の評価等から総合的に評価しています。

5　今後の方向性

区　　分	選択区分	「今後の方向性」及び「事業構成の妥当性」を選択した理由
① ： 現状のまま継続する （効果的な事業構成である） ② ： 一部見直し等の余地がある （概ね効果的な事業構成である） ③ ： 見直し等の余地は大きい （あまり効果的な事業構成ではない） ④ ： 抜本的見直し等が必要 （事業構成に問題がある）	①	・複雑多様化する各種災害に迅速・的確に対応するためには、最新の知識・技術の習得及び消防施設、車両、資機材並びに装備、消防水利の充実・強化が必要なことから、消防各種事業の内容について更なる検討を行い、引き続き消防力の向上に努めていきます。 ・応急手当普及講習会の受講促進、救急救命士の資質・技術の向上並びに救急資器材の整備を図り、救急救命体制の更なる向上に努めていきます。 ・消防団員の充足率向上のため、福利厚生の充実や被服・装備などを整備するとともに箱根町消防団協力事業所表示制度の推進、更には、女性消防団員や機能別消防団員の入団促進など積極的に取り組みます。

※これまでの評価結果を踏まえて、施策の今後の方向性として事業の構成や手法などが妥当か評価しています。

第６次総合計画　施策別評価シート（令和５年度）

基本目標４　環境にやさしく、安全・安心なまちづくり

施策27　交通安全・防犯の充実

1　施策の概要

重点施策	該当なし		
今後の取組方針	◇ 警察を中心とした関係団体と連携を図り、交通安全への意識の高揚や適切な施設の整備、点検に努めます。 ◇ 警察や防犯関係団体等と協力し、犯罪のない地域づくりに努めます。 ◇ 消費者への相談体制を充実するとともに、情報提供等により消費者の意識啓発に努めます。		
施策の展開	施　策　の　展　開	施策担当課	施策責任者
	4-27-1　交通安全意識の高揚 4-27-2　道路交通環境の整備 4-27-3　二輪車の事故防止対策 4-27-4　一体となった地域防犯体制の構築 4-27-5　防犯施設の充実 4-27-6　相談体制の充実と消費生活に関わる意識啓発の推進	町民課	総務部長

2　目標指標やその他成果などの状況と成果の分析

目標指標

1　町立小学校及び認定こども園・幼稚園・保育所での交通安全教室開催回数（単位：回）

元年度(基準)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(実績)	7年度(実績)	8年度(目標)
7	7	7	7	7			7

2　町内高齢者（65歳以上）へのドライビングスクールの参加者数（単位：人）

元年度(基準)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(実績)	7年度(実績)	8年度(目標)
15	0	0	0	5			15

3　消費生活に関する相談件数（単位：件）

元年度(基準)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(実績)	7年度(実績)	8年度(目標)
44	53	31	41	40			50

4　交通安全施設の重点点検（単位：件）

元年度(基準)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(実績)	7年度(実績)	8年度(目標)
0	1	2	2	2			2

その他

5　死亡事故発生件数（単位：人）

元年度(基準)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(実績)	7年度(実績)	8年度(目標)
0	3	3	1	0			

その他定性的な成果（取組みを進めたことで発現した効果などについて記載）

・町立小学校及び認定こども園・幼稚園・保育所で交通安全教室を開催したことにより、園児や生徒の交通安全に対する知識の向上を図ることができました。
・スクールゾーンや路面標示などの交通安全施設の点検を実施することにより、施設の維持管理、登下校児童の交通安全確保の向上を図ることができました。

指標等の成果分析（指標の目標値達成を阻む外的要因等を含めて記載）

・コロナ禍で中止していた町内高齢者（65歳以上）のドライビングスクールを再開し、交通安全の普及啓発を図りました。全国的に高齢運転者による事故が増加しており、高齢者への運転講習の重要性が増していることから今後ドライビングスクールの再開と参加者増に向けた検討が必要です。
・小田原消費生活センターの相談窓口を広く住民に周知したことにより相談件数も目標とする件数に近い実績で推移しているため、今後も周知を継続していきます。

3　施策を構成する実施計画事業の評価

No.	事務事業名	事業の進捗度	今後の方向性
1	交通安全対策推進事業	概ね計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
2	くらしの安全推進事業	概ね計画通り実施できた	計画変更し実施（予定）
3	消費生活相談支援事業	概ね計画通り実施できた	計画通り実施（予定）

4　施策の進捗状況

区　　分	選択区分	進捗状況区分を選択した理由
A ： 順調に推移 （目標達成又は進捗している） B ： 一定の進捗がある （目標達成に向け一定の進捗がある） C ： 一定の進捗がある （目標達成が遅れる可能性がある） D ： 進捗は大幅に遅れている （目標達成が難しい可能性がある）	B 前年度：B	・児童、園児を対象とした交通安全教室の実施のほか、スクールゾーンや路面標示などの交通安全施設の点検を実施、警察署等へ改善を要望するなど、交通安全への意識の高揚や適切な施設の整備、点検を行った。 ・消費者相談窓口の周知や、防災行政無線を使った注意喚起等により、振り込め詐欺などの被害防止対策を図った。

※指標等の成果を中心に施策を構成する実施計画事業の評価等から総合的に評価しています。

5　今後の方向性

区　　分	選択区分	「今後の方向性」及び「事業構成の妥当性」を選択した理由
① ： 現状のまま継続する （効果的な事業構成である） ② ： 一部見直し等の余地がある （概ね効果的な事業構成である） ③ ： 見直し等の余地は大きい （あまり効果的な事業構成ではない） ④ ： 抜本的見直し等が必要 （事業構成に問題がある）	②	・町立小学校等での交通安全教室を引き続き開催し、園児や生徒の交通安全に対する知識の向上を図るほか、全国的に高齢運転者の事故が増加しているなかで、高齢者講習の実施しや、自動車急発進防止装置等に対する補助制度をＰＲするなど、安全安心なまちづくりを推進します。 ・新たな手口による振り込み詐欺や犯罪を防止する対策について、検討します。

※これまでの評価結果を踏まえて、施策の今後の方向性として事業の構成や手法などが妥当か評価しています。

第６次総合計画　施策別評価シート（令和５年度）

基本目標５ 癒しと文化を提供する観光産業づくり

施策28 観光資源の開発と活用

1　施策の概要

重点施策	分野４　ブランド力の強化〔施策の展開 5-28-1が該当〕		
今後の取組方針	◇ 周辺の自然と調和しつつ、地域の歴史や文化を活用し、保養・休養の場としてより魅力のある観光地を目指します。 ◇ 温泉事業における恒常的な安定給湯を図るため老朽化した施設の更新と町営温泉供給区域について新規加入者を獲得するためのＰＲ活動を行っていきます。 ◇ 災害等の際、観光地箱根の生命線、大切な資源である温泉が、官民の連携により安定的に供給できるよう、取組みます。		
施策の展開	施　策　の　展　開	施策担当課	施策責任者
	5-28-1　観光地のブランド化促進 ◎ 5-28-2　町営温泉の安全・安心・安定的な供給体制 5-28-3　火山活動の影響を受けた大涌谷園地の持続可能な環境整備 5-28-4　域内滞在時間延長と周遊エリアの拡大 5-28-5　箱根温泉蒸気井管理協議会との連携強化	観光課 企画課 総務防災課 上下水道温泉課	企画観光部長

2　目標指標やその他成果などの状況と成果の分析

目標指標 1　観光協会ホームページのアクセス数（単位：万回）

元年度(基準)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(実績)	7年度(実績)	8年度(目標)
296	219	265	297	343			300

その他定性的な成果（取組みを進めたことで発現した効果などについて記載）

・箱根温泉蒸気井管理協議会との連携強化については、研修等を通じて情報共有を図りました。
・老朽化した施設・管路等の更新により、温泉を安定的に供給することができました。

指標等の成果分析（指標の目標値達成を阻む外的要因等を含めて記載）

・新規加入者を獲得するため、点検車での広報及び供給者等へのＰＲ活動を行い、新規加入者を獲得することが出来ました。

3　施策を構成する実施計画事業の評価

No.	事務事業名	事業の進捗度	今後の方向性
1	箱根線整備事業（温泉特別会計）	概ね計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
2	湯之花線整備事業（温泉特別会計）	概ね計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
3	ＨＯＴ２１観光プラン策定事業	概ね計画通り実施できた	計画通り実施（予定）

4　施策の進捗状況

区　　分	選択区分	進捗状況区分を選択した理由
Ａ：順調に推移 （目標達成又は進捗している） Ｂ：一定の進捗がある （目標達成に向け一定の進捗がある） Ｃ：一定の進捗がある （目標達成が遅れる可能性がある） Ｄ：進捗は大幅に遅れている （目標達成が難しい可能性がある）	Ｂ 前年度：Ｂ	・「観光協会ホームページのアクセス数」が、目標値300万回を超えました。旬な情報や観光スポットの様子など（タビマエ情報）を国内外へ拡散するとともに、道路状況や公共交通機関の運行状況など（タビナカ情報）のリアルな発信を図り、観光客の利便性向上に努めています。 ・第２次HOT21観光プラン後期実施計画を箱根DMOをはじめとした観光関連団体や事業者等の協力を得て、策定しました。 ・観光地箱根に欠かせない温泉を安定的に供給・保全できるように、町営温泉の施設整備に努めるとともに、ＰＲ活動に努めた結果、加入者増が図られました。

※指標等の成果を中心に施策を構成する実施計画事業の評価等から総合的に評価しています。

5　今後の方向性

区　　分	選択区分	「今後の方向性」及び「事業構成の妥当性」を選択した理由
①：現状のまま継続する （効果的な事業構成である） ②：一部見直し等の余地がある （概ね効果的な事業構成である） ③：見直し等の余地は大きい （あまり効果的な事業構成ではない） ④：抜本的見直し等が必要 （事業構成に問題がある）	②	・箱根ＤＭＯをはじめとする観光関連団体や事業者等と連携し、観光資源に新たな付加価値を付与するなどして持続可能な箱根ブランドへ磨き上げていきます。 ・第２次HOT21観光プラン後期実施計画に基づき、従来から継続した施策のほか、SDGｓや観光ＤＸなど新たな施策も着実に実行していきます。 ・最大の観光資源とも言える温泉の有効活用を図るとともに、近年増加傾向にある自然災害に強い施設及び相互支援体制の構築に官民が協働して取り組む必要があります。

※これまでの評価結果を踏まえて、施策の今後の方向性として事業の構成や手法などが妥当か評価しています。

第６次総合計画　施策別評価シート（令和５年度）

基本目標５ 癒しと文化を提供する観光産業づくり

施策29 観光拠点整備と魅力向上

1　施策の概要

重点施策	該当なし		
今後の取組方針	◇ 観光拠点の整備を引き続き図り、魅力や利便性の向上に努めます。		
施策の展開	施策の展開	施策担当課	施策責任者
	5-29-1　町立観光施設の内容充実 5-29-2　公衆トイレの改修 5-29-3　自然の癒しを感じながら散策できる観光地づくり 5-29-4　仙石原すすき草原の保全と魅力向上	観光課	企画観光部長

2　目標指標やその他成果などの状況と成果の分析

目標指標

1　森のふれあい館の入館者数（単位：人）

元年度(基準)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(実績)	7年度(実績)	8年度(目標)
14,208	11,428	14,014	15,178	13,559			18,000

2　箱根ジオミュージアムの入館者数（単位：人）

元年度(基準)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(実績)	7年度(実績)	8年度(目標)
56,780	68,735	81,724	123,648	153,763			153,000

3　箱根湿生花園の入館者数（単位：人）

元年度(基準)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(実績)	7年度(実績)	8年度(目標)
78,369	52,823	59,751	65,925	55,620			92,000

その他定性的な成果（取組みを進めたことで発現した効果などについて記載）

・箱根湿生花園では、開園期間中に4つの企画展と3つのミニイベントを開催し、入館者へのサービスにつながりました。
また、長年使用してきた設備の老朽化に伴う改修及び、展示植物を解説する名札の表示板の老朽化や植物分類上の改正に対応するための更新を行いました。
・箱根ジオミュージアムでは、バスや駐車場利用者の誘客を促進するため、大涌谷くろたまご館2階の屋外に案内看板を設置しました。また、令和6年度に開館10周年を迎えることから、新規展示物の製作や、展示解説書等の記念グッズを作成し、開館10周年記念イベント開催に向けた準備を行いました。
・森のふれあい館では、空調設備改修に伴う休館期間中に館内レイアウトの変更や収蔵備品の整理など、通常の開館期間中には行えない作業に取り組みました。
また、同期間中に外部団体イベントでの出張クラフト体験を行い当館への誘客促進を図りました。

指標等の成果分析（指標の目標値達成を阻む外的要因等を含めて記載）

・箱根湿生花園では、新型コロナウイルス感染症の影響から回復しつつあり、企画展の開催や老朽化した施設の改修等を図りましたが、週末や繁忙期と悪天候が重なることが多く、7,305人の減となりました。
・箱根ジオミュージアムでは、大涌谷周辺での広報活動や外国人観光客の増加により、30,115人の増となり、令和8年度目標人数を超えて過去最高の入館者数となりました。外国人観光客の増加が期待できる一方で、天候等による交通機関の運休により入館者数が減少することが危惧されます。
・森のふれあい館では、空調機器の入替に伴い12月1日から3月19日まで休館をしてた影響により、総入館者数としては1,619名の減少となりましたが出張イベントへの出展等を行ったため、当館の周知へと繋がりました。

3　施策を構成する実施計画事業の評価

No.	事務事業名	事業の進捗度	今後の方向性
1	観光施設整備事業	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
2	箱根湿生花園特別展等開催事業	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
3	箱根湿生花園整備事業	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
4	ジオミュージアム誘客宣伝事業	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
5	森のふれあい館整備事業	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
6	森のふれあい館特別展等開催事業	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
7	やすらぎの森整備事業	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
8	森林セラピー推進事業	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
9	公衆トイレ整備事業	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
10	ハイキングコース等整備事業	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
11	仙石原すすき草原保存事業	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）

4　施策の進捗状況

区　　分	選択区分	進捗状況区分を選択した理由
A ： 順調に推移 （目標達成又は進捗している） B ： 一定の進捗がある （目標達成に向け一定の進捗がある） C ： 一定の進捗がある （目標達成が遅れる可能性がある） D ： 進捗は大幅に遅れている （目標達成が難しい可能性がある）	B 前年度：B	・「森のふれあい館」入館者は、空調設備改修に伴う休館などが、野外施設の「箱根湿生花園」入館者数は、悪天候などが、それぞれ影響し、前年を下回ってしまいました。 ・一方、「箱根ジオミュージアム」入館者は、コロナ禍からの回復、特に好調なインバウンドや大涌谷周辺での広報活動に努めた効果もあり、大幅に増え、開館以来最高の入館者数となりました。 ・観光庁が実施した「地域一体となった観光地・観光産業の再生・高付加価値化補助事業」に係る町内事業者の申請に伴う費用の一部を補助したことで、町内事業者の事業復興を後押しすることができました。

※指標等の成果を中心に施策を構成する実施計画事業の評価等から総合的に評価しています。

5　今後の方向性

区　　分	選択区分	「今後の方向性」及び「事業構成の妥当性」を選択した理由
① ： 現状のまま継続する （効果的な事業構成である） ② ： 一部見直し等の余地がある （概ね効果的な事業構成である） ③ ： 見直し等の余地は大きい （あまり効果的な事業構成ではない） ④ ： 抜本的見直し等が必要 （事業構成に問題がある）	②	・いずれの町立観光施設も、今後も魅力ある企画展等を継続的に実施し、リピーターを持続的に確保するとともに、新たな入館者や団体の獲得を図る必要があります。 ・森のふれあい館は、今後の館とやすらぎの森の一体的な利活用等について、検討していきます。 ・公衆トイレ、ハイキングコース等の維持・整備に努め、利用者の利便性向上に継続的に努めていきます。 ・秋における一番の人気スポットである「仙石原すすき草原」の景観を保全しつつ、観光資源としての両立を図っていきます。

※これまでの評価結果を踏まえて、施策の今後の方向性として事業の構成や手法などが妥当か評価しています。

第６次総合計画　施策別評価シート（令和５年度）

基本目標５ 癒しと文化を提供する観光産業づくり

施策30 多様な観光資源を活用した誘客と受入態勢の整備

1　施策の概要

重点施策	分野４ ブランド力の強化〔施策の展開 5-30-1が該当〕 分野５ 持続可能なまちづくり〔施策の展開 5-30-2が該当〕
今後の取組方針	◇ 魅力ある地域資源を活かすとともに、衛生面や感染症対策の充実など国際観光地「箱根」のさらなる振興を図っていきます。 ◇ 箱根町観光協会や箱根コンベンションビューロー 、民間事業者等と連携しながら、引き続き事業を推進します。 ◇ 誰もが気軽に観光に訪れることができるようなサービス提供ができる人材育成を図るため、観光従事者等に様々な情報を提供するとともに町観光協会公認ガイドの育成など、観光教育の実施に努めます。

施策の展開	施策の展開	施策担当課	施策責任者
	5-30-1 顧客・マーケットに対応した宣伝・広報の推進 ◎ 5-30-2 外国人観光客誘致事業の推進と外国人への情報提供の充実 ◎ 5-30-3 観光従事者等の雇用確保・拡大 5-30-4 児童・生徒を対象とした観光教育の推進 5-30-5 森林セラピストの育成・活用 5-30-6 ハローワーク等との連携 5-30-7 事業者支援の充実 5-30-8 観光関連産業の振興 5-30-9 常設型喫煙所の整備の推進	観光課 財務課 学校教育課	企画観光部長

2　目標指標やその他成果などの状況と成果の分析

目標指標

1 年間入込観光客数（単位：千人）

元年度(基準)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(実績)	7年度(実績)	8年度(目標)
18,960	12,570	13,500	17,360	**19,510**			20,000

2 観光産業融資利子補給事業の利用件数（単位：件）

元年度(基準)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(実績)	7年度(実績)	8年度(目標)
4	0	0	0	**0**			10

3 外国人宿泊観光客数（単位：人）

元年度(基準)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(実績)	7年度(実績)	8年度(目標)
576,183	40,038	4,028	41,564	**343,826**			400,000

4 箱根DMO公認観光ガイド育成（累計）（単位：人）

元年度(基準)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(実績)	7年度(実績)	8年度(目標)
-	0	0	48	**71**			60

その他

1 中小企業等設備投資促進事業の利用件数（単位：件）

元年度(基準)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(実績)	7年度(実績)	8年度(目標)
-	-	-	3	**15**			

その他定性的な成果（取組みを進めたことで発現した効果などについて記載）

・アフターコロナに向けて、町内事業所のリニューアル等の設備投資に意欲的に取り組む町内事業者を支援するため、令和4年度から中小企業等設備投資促進補助金を創設しましたが、融資のメニューへと切り替えました。

指標等の成果分析（指標の目標値達成を阻む外的要因等を含めて記載）
・事業者側の更新のタイミングや財務状況なども影響し、実績の数はあまり多くなかったため、融資のメニューに設備投資促進を新設し対応します。

3　施策を構成する実施計画事業の評価

No.	事務事業名	事業の進捗度	今後の方向性
1	誘客宣伝事業	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
2	はこね親善大使事業	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
3	箱根駅伝歓迎事業	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
4	観光情報推進事業	計画通り実施できた	計画変更し実施（予定）
5	農地実態調査事業	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
6	水産業振興事業	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
7	信用保証料補助事業	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
8	中小企業者等アドバイザー派遣事業	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
9	経営安定緊急融資事業	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
10	人材確保等支援事業	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
11	中小企業等設備投資促進事業	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
12	インバウンド観光推進事業	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
13	退職金共済制度加入奨励事業	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
14	勤労者生活資金融資事業	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
15	中小企業等感染症対策事業	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
16	ふるさと納税促進事業	概ね計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
17	新規創業促進事業	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
18	観光施設高付加価値化申請支援事業	計画通り実施できた	廃止

4　施策の進捗状況

区　　分	選択区分	進捗状況区分を選択した理由
A ： 順調に推移 （目標達成又は進捗している） B ： 一定の進捗がある （目標達成に向け一定の進捗がある） C ： 一定の進捗がある （目標達成が遅れる可能性がある） D ： 進捗は大幅に遅れている （目標達成が難しい可能性がある）	A 前年度：B	・「年間入込観光客数」が2,000万人目前まで回復しました。 ・「外国人宿泊観光客数」に現れているとおり、インバウンドの急速な回復が国内観光客の緩慢な回復の下支えになっている。 ・国際観光地にふさわしい「箱根DMO公認観光ガイド」が目標人数以上に育成することができました。 ・産業振興を図るため各種支援メニューや補助金を用意し、その利用促進を図りました。

※指標等の成果を中心に施策を構成する実施計画事業の評価等から総合的に評価しています。

5　今後の方向性

区　　分	選択区分	「今後の方向性」及び「事業構成の妥当性」を選択した理由
① ： 現状のまま継続する （効果的な事業構成である） ② ： 一部見直し等の余地がある （概ね効果的な事業構成である） ③ ： 見直し等の余地は大きい （あまり効果的な事業構成ではない） ④ ： 抜本的見直し等が必要 （事業構成に問題がある）	①	・国内外からの観光客が安心して気軽に訪れることができる持続可能な観光地を目指し、箱根DMOや箱根コンベンションビューロー、民間事業者等と連携して、人材育成から誘客・受入態勢の整備まで、第2次HOT21観光プラン後期実施計画に基づく多様な施策を推進する必要があります。 ・町内の中小事業者等への支援を継続的に実施し、事業の継続や経営の安定、人材確保等を図っていく必要があります。 ・観光DXの視点も含め時代に即した観光情報の提供方法等、サービスのあり方について検討していきます。

※これまでの評価結果を踏まえて、施策の今後の方向性として事業の構成や手法などが妥当か評価しています。

第６次総合計画　施策別評価シート（令和５年度）

基本目標５ 癒しと文化を提供する観光産業づくり

施策31 箱根ジオパークの推進

1　施策の概要

重点施策	該当なし
今後の取組方針	◇ ジオパークとして何を目指して活動していくかの検討を行い、箱根ジオパークのビジョンを策定し、関係者間で共有します。そのうえで、ビジョン実現のための具体的な取組みを行動計画に定めることにより、ジオパーク活動のさらなる充実を図ります。

施策の展開	施策の展開	施策担当課	施策責任者
	5-31-1　ジオパーク活動の充実 5-31-2　箱根ジオパーク推進協議会の財源確保 5-31-3　箱根ジオパークのビジョン策定 5-31-4　オンラインコンテンツの拡充	企画課 観光課	企画観光部長

2　目標指標やその他成果などの状況と成果の分析

目標指標 1　箱根ジオパークサポーター登録者数（累計）（単位：人）

元年度(基準)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(実績)	7年度(実績)	8年度(目標)
36	40	48	58	64			100

目標指標 2　箱根ジオミュージアム入館者アンケートにおける箱根ジオパークの認知度（単位：%）

元年度(基準)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(実績)	7年度(実績)	8年度(目標)
22.5	-	-	-	20.2			80.0

その他 1　箱根ジオミュージアム来館者数（単位：人）

元年度(基準)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(実績)	7年度(実績)	8年度(目標)
56,780	68,735	81,724	123,648	153,763			

その他定性的な成果（取組みを進めたことで発現した効果などについて記載）

・サポーター登録者数は毎年増加しています。令和5年度は講座として、箱根町内でのニホンジカ対策を学ぶ「箱根シカ塾～本気で考えよう、箱根のシカ対策～」や、箱根ジオパーク推進協議会で作成した絵本の読み聞かせイベントとして「読み聞かせボランティア入門講座～科学絵本でジオを知ろう！～」を開催した他、「仙石原湿原でのヨシ刈り」や「長尾峠の選定作業」等の地質資源の保全活動や実験イベントでのスタッフ等、箱根ジオパーク活動の運営に携わっています。

指標等の成果分析（指標の目標値達成を阻む外的要因等を含めて記載）

・サポーター登録者へは講座の案内や箱根ジオパークが発信する情報を周知する等している一方で、イベント等への参加者の固定化が見られています。
・ジオミュージアムでのアンケートにおけるジオパークの認知度は、前回調査（令和元年度）から微減となりました。令和2年度から4年度までは未実施のため、継続して調査する必要があります。なお、日本ジオパークネットワークの調査（2023）ではジオパークの認知度は56.5%で、過去の調査でも同程度の認知度だったことから、大きな変化は見込めないものと考えられます。

3　施策を構成する実施計画事業の評価

No.	事務事業名	事業の進捗度	今後の方向性
1	箱根ジオパーク推進事業	概ね計画通り実施できた	計画通り実施（予定）

4　施策の進捗状況

区　　分	選択区分	進捗状況区分を選択した理由
A ： 順調に推移 （目標達成又は進捗している） B ： 一定の進捗がある （目標達成に向け一定の進捗がある） C ： 一定の進捗がある （目標達成が遅れる可能性がある） D ： 進捗は大幅に遅れている （目標達成が難しい可能性がある）	B 前年度：B	・「箱根ジオパークサポーター登録者数」は着実に増加しています。 ・各種の講座や地質資源の保全活動など、ジオ活動の普及啓発に努めています。 ・箱根ジオパーク保全計画原案の作成や日本ジオパーク全国大会in関東の開催、オンラインジオツアーの実施やガイド養成など、ジオパーク活用の推進を図っています。

※指標等の成果を中心に施策を構成する実施計画事業の評価等から総合的に評価しています。

5　今後の方向性

区　　分	選択区分	「今後の方向性」及び「事業構成の妥当性」を選択した理由
① ： 現状のまま継続する （効果的な事業構成である） ② ： 一部見直し等の余地がある （概ね効果的な事業構成である） ③ ： 見直し等の余地は大きい （あまり効果的な事業構成ではない） ④ ： 抜本的見直し等が必要 （事業構成に問題がある）	②	・「夏休み子どもジオ講座」への町内児童の参加率が低い状況等にあることから、町内におけるジオパークの普及活動により一層努めていきます。 ・箱根ジオパークの2度目の再認定（R６年度）に向けて、これまで以上に２市３町及び県等関係団体が連携して、ジオパーク活動をより効果的に広域で推進していく必要があります。

※これまでの評価結果を踏まえて、施策の今後の方向性として事業の構成や手法などが妥当か評価しています。

第６次総合計画　施策別評価シート（令和５年度）

基本目標５ 癒しと文化を提供する観光産業づくり

施策32 伝統産業や観光行事の振興

1　施策の概要

重点施策	該当なし		
今後の取組方針	◇ 伝統文化・産業を伝承している団体等に引き続き事業や活動に対する支援を行うとともに知名度向上のためのＰＲを行い、伝統文化等の保存・ブランド力の向上・伝承を強く推進していきます。		
施策の展開	施策の展開	施策担当課	施策責任者
	5-32-1　伝統工芸のブランド力の向上及び後継者確保 5-32-2　伝統工芸品産業団体への支援 5-32-3　伝統文化の継承 5-32-4　地域観光行事の振興及び活用	観光課	企画観光部長

2　目標指標やその他成果などの状況と成果の分析

目標指標

1　畑宿寄木会館来館者数（単位：千人）

元年度(基準)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(実績)	7年度(実績)	8年度(目標)
9,947	4,549	7,422	9,695	**10,955**			13,000

2　寄木細工専用ホームページアクセス数（単位：回）

元年度(基準)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(実績)	7年度(実績)	8年度(目標)
-	0	0	93,166	**124,305**			100,000

その他定性的な成果（取組みを進めたことで発現した効果などについて記載）

・箱根寄木細工パンフレットについて、箱根寄木細工HPへのQRコードを添付するなど内容を刷新し、観光展などで配架をした結果、アクセス数が前年度と比べ増加しました。
・箱根寄木細工に関する補助金（箱根寄木細工PR補助金）を創設し、チラシも併せて作成し配架したところ、利用者から好評を得ており、箱根寄木細工の振興に大きく貢献しました。

指標等の成果分析（指標の目標値達成を阻む外的要因等を含めて記載）

・需要喚起策の効果や水際対策の大幅な緩和により、国内外の観光客が増え、前年度に比べ寄木会館の入館者が増加しました。

3　施策を構成する実施計画事業の評価

No.	事務事業名	事業の進捗度	今後の方向性
1	箱根物産振興事業	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
2	伝統文化継承事業	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
3	大名行列衣装等整備事業	概ね計画通り実施できた	計画変更し実施（予定）
4	地域観光行事特別助成事業	概ね計画通り実施できた	計画通り実施（予定）

4　施策の進捗状況

区　　分	選択区分	進捗状況区分を選択した理由
A ： 順調に推移 （目標達成又は進捗している） B ： 一定の進捗がある （目標達成に向け一定の進捗がある） C ： 一定の進捗がある （目標達成が遅れる可能性がある） D ： 進捗は大幅に遅れている （目標達成が難しい可能性がある）	B 前年度：B	・「畑宿寄木会館来館者数」が順調に回復してきているインバウンドをはじめ国内外の観光客の来館増により1万人を超えました。 ・「寄木細工専用ホームページのアクセス数」が、当該ホームページの周知に努めた結果、大幅に増加しました。 ・伝統的工芸品の団体や古典芸能の振興団体の事業等を助成し、活動を支援しました。 ・箱根大名行列やその他の地域観光行事を助成し、各地域の観光振興を図っています。

※指標等の成果を中心に施策を構成する実施計画事業の評価等から総合的に評価しています。

5　今後の方向性

区　　分	選択区分	「今後の方向性」及び「事業構成の妥当性」を選択した理由
① ： 現状のまま継続する （効果的な事業構成である） ② ： 一部見直し等の余地がある （概ね効果的な事業構成である） ③ ： 見直し等の余地は大きい （あまり効果的な事業構成ではない） ④ ： 抜本的見直し等が必要 （事業構成に問題がある）	②	・伝統文化及び産業の伝承には町の支援は不可欠であり、今後も支援策を実施していきます。併せて、関連団体等とともに人材の確保、育成について検討を進め、連携して対策を講じる必要があります。 ・新たに創設した「箱根寄木細工ＰＲ補助金」の利用促進を図り、寄木細工の新たな周知につなげていきます。 ・地域の観光行事を引き続き助成し、誘客を促進する有効な観光資源として充実が図られるよう支援していきます。

※これまでの評価結果を踏まえて、施策の今後の方向性として事業の構成や手法などが妥当か評価しています。

第６次総合計画　施策別評価シート（令和５年度）

基本目標６ 行政の効率的運営と官民協働体制の強化

施策33 協働のまちづくりの推進

1　施策の概要

重点施策	分野３ 健康生活の推進〔施策の展開 6-33-4が該当〕
今後の取組方針	◇ 情報公開制度をもとに、引き続き積極的に情報の共有化を図ります。 ◇ 計画の段階から町民の意見を取り入れ、町民と行政が官民連携し協働のまちづくりの推進に努めます。 ◇ 町と町民のパイプ役となる町自治会連絡協議会の活動の充実を図ります。 ◇ 自治会や各種団体の自主的な地域活動を支援し、地域コミュニティの育成に努めます。 ◇ 地域の資源や特性を活かしながら、官民連携によるまちづくりを推進します。 ◇ 第２次箱根町ＨＯＴ２１観光プラン実施計画に掲げている各種計画を着実に推進するため、箱根ＤＭＯとさらなる連携を図ります。

施策の展開	施策の展開	施策担当課	施策責任者
	6-33-1　まちづくりに関する広報・広聴機会の充実 6-33-2　町自治会連絡協議会の支援 6-33-3　集会所等の施設整備 6-33-4　地域コミュニティ活動の支援 ◎ 6-33-5　自主的・主体的活動の促進 6-33-6　ＨＯＴ21観光プラン推進委員会による進行管理 6-33-7　箱根ＤＭＯとの連携・協働 6-33-8　官民連携によるまちづくりの推進 6-33-9　民間事業者・大学等との連携強化	町民課 企画課 観光課 都市整備課	総務部長

2　目標指標やその他成果などの状況と成果の分析

目標指標

1　活力あるまちづくり新規補助件数（単位：団体）

元年度(基準)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(実績)	7年度(実績)	8年度(目標)
1	1	0	4	1			3

2　町政モニター延べ回答者数（単位：人）

元年度(基準)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(実績)	7年度(実績)	8年度(目標)
31	127	164	110	100			240

その他定性的な成果（取組みを進めたことで発現した効果などについて記載）

・活力あるまちづくり支援事業は、新規1件、継続１件を支援し、団体の自主的・主体的な活動を推進しました。
・仙石原交差点周辺まちづくりについては、今までの事業成果により、ワークショップ参加者による主体的なまちづくりが開始され、地域住民向けの交流イベントが開始される等、まちづくりの自走化に向けた取組みが進捗しました。
・公園等におけるマルシェイベントの開催が定着しつつある等、地域内に居住する若い世代にもまちづくりの輪を広げることができました。

指標等の成果分析（指標の目標値達成を阻む外的要因等を含めて記載）

・新規申請団体が少なく、継続申請団体についても長期的な活動維持に繋がらない団体が見受けられます。

3　施策を構成する実施計画事業の評価

No.	事務事業名	事業の進捗度	今後の方向性
1	箱根DMO支援事業	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
2	集会所等整備事業	概ね計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
3	コミュニティ助成事業	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
4	活力あるまちづくり支援事業	概ね計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
5	町政モニター事業	計画通り実施できた	計画変更し実施（予定）
6	仙石原交差点周辺まちづくり事業	概ね計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
7	包括連携推進事業	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
8	地域コミュニティ活**性化事業**	概ね計画通り実施できた	計画変更し実施（予定）

4　施策の進捗状況

区　　分	選択区分	進捗状況区分を選択した理由
A ： 順調に推移 （目標達成又は進捗している） B ： 一定の進捗がある （目標達成に向け一定の進捗がある） C ： 一定の進捗がある （目標達成が遅れる可能性がある） D ： 進捗は大幅に遅れている （目標達成が難しい可能性がある）	B 前年度：B	・箱根DMO支援事業では、ユニバーサルツーリズムHP作成やAIカメラ導入による車両に関するデータ取得と活用に関する取組等を実施した。 ・地域コミュニティの活性化に向け、町内５地域でワークショップを開催した。 ・活力あるまちづくり支援事業は、新規１件、継続１件に補助を行い、団体の自主的・主体的な活動を推進した。

※指標等の成果を中心に施策を構成する実施計画事業の評価等から総合的に評価しています。

5　今後の方向性

区　　分	選択区分	「今後の方向性」及び「事業構成の妥当性」を選択した理由
① ： 現状のまま継続する （効果的な事業構成である） ② ： 一部見直し等の余地がある （概ね効果的な事業構成である） ③ ： 見直し等の余地は大きい （あまり効果的な事業構成ではない） ④ ： 抜本的見直し等が必要 （事業構成に問題がある）	①	・「第２次箱根町HOT２１観光プラン実施計画」に掲げる施策の実施については、引き続き箱根DMOと連携し官民協働で取り組みます。 ・地域コミュニティ活性化事業で実施したワークショップの結果をもとに課題解決を進め、地域コミュニティの育成を図ります。 ・仙石原交差点周辺まちづくりついては、引き続き町民と行政との協働のまちづくりの推進に努めます。

※これまでの評価結果を踏まえて、施策の今後の方向性として事業の構成や手法などが妥当か評価しています。

第６次総合計画　施策別評価シート（令和５年度）

基本目標６ 行政の効率的運営と官民協働体制の強化

施策34 計画的な行財政運営

1　施策の概要

重点施策	該当なし
今後の取組方針	◇ 将来にわたって安定した行政サービスを提供するために、財政調整基金及び歳入の確保を行いながら、自然災害等にも迅速に対応できる、健全な財政運営を目指します。 ◇ 将来世代に負担を先送りせず、地方債の発行と償還のバランス保持などにより、過大な負担を残さないよう持続可能な財政構造への転換を図ります。

施策の展開	施策の展開	施策担当課	施策責任者
	6-34-1　財源の確保 6-34-2　民間活力の活用 6-34-3　行財政改革の推進 6-34-4　財政リスクへの備え 6-34-5　事業の精査 6-34-6　税収の確保 6-34-7　公共施設等の総合管理と適正配置 6-34-8　広域行政の推進 6-34-9　交流圏拡大による活性化 6-34-10　デジタルトランスフォーメーションの推進 6-34-11　情報漏えい対策の強化 6-34-12　町村情報システム共同化の推進	企画課 総務防災課 町民課 財務課 税務課 環境課 議会事務局	総務部長

2　目標指標やその他成果などの状況と成果の分析

目標指標

1　行財政改革アクションプランの進捗率（単位：%）

元年度(基準)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(実績)	7年度(実績)	8年度(目標)
33	29	37	37	31			100

2　町税徴収率（３か年平均）（単位：%）

元年度(基準)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(実績)	7年度(実績)	8年度(目標)
94.87	93.89	93.77	93.80	94.98			95.20

その他定性的な成果（取組みを進めたことで発現した効果などについて記載）

・財政健全化効果額の見込額には届きませんでしたが、「ふるさと納税の促進」や「育英奨学金の督促業務の拡充」など、特に財源確保の取組みに注力した結果、歳入確保では目標以上の成果を得ることができました。また、デジタル施策を中心に、サービスの質の向上を実感する声も多くいただきました。
・償却資産実態調査事業により、認知度が低く申告要否の判断も複雑な償却資産への固定資産課税に係る書面調査及び実態調査を行い、申告漏れ資産を捕捉することで公平公正な賦課となり、調定増にもつながった。また、アドバイザーの助言指導による職員のスキルアップも図られました。

指標等の成果分析（指標の目標値達成を阻む外的要因等を含めて記載）

・行財政改革アクションプランは、第２期の１年目を迎え、新たに計画期間中でも取組内容を強化するなどして推進を図りましたが、物価高騰の影響等により、期待した効果が得られにくい取組みもあり、計画どおりに進捗が図られた項目と、計画どおり進捗できず今後の取組みに改善が必要とした項目に評価が分かれる結果となりました。
・動産・不動産公売や預金・給料の差押、電話・訪問催告などにより、滞納整理を強化しました。また、徴収を取り巻く状況として、コロナが5類移行となり、その影響が緩やかに回復を見せていることや、引き続き県ＯＢ職員の雇用を行い徴収ノウハウの継承に努めたこと、県との職員交流を実施し町職員の徴収スキル向上を図ったことなどが、徴収率の向上の要因と考えられます。

3　施策を構成する実施計画事業の評価

No.	事務事業名	事業の進捗度	今後の方向性
1	地方公会計整備事業	概ね計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
2	デジタル化推進事業（総務費）	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
3	電子計算処理推進事業	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
4	償却資産実態調査事業	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
5	庁舎施設等整備事業	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
6	出張所整備事業	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）
7	湯本地区公共施設利活用事業	概ね計画通り実施できた	計画変更し実施（予定）
8	デジタル化推進事業（議会費）	計画通り実施できた	廃止

4　施策の進捗状況

区　　分	選択区分	進捗状況区分を選択した理由
A ： 順調に推移 （目標達成又は進捗している） B ： 一定の進捗がある （目標達成に向け一定の進捗がある） C ： 一定の進捗がある （目標達成が遅れる可能性がある） D ： 進捗は大幅に遅れている （目標達成が難しい可能性がある）	B 前年度：B	・行財政改革アクションプランについては、財政健全効果額の実績は5,034万円となり、見込額の6,002万円には届かなかったが、歳入の確保では目標以上の成果を得ることができ、サービスの向上についても、DXの推進等を中心に進展した。 ・中長期的な財源確保策について、コロナ禍における観光経済への影響を鑑み中止していた、「観光まちづくりの充実・維持に係る財源のあり方に関する検討会議」を再開した。

※指標等の成果を中心に施策を構成する実施計画事業の評価等から総合的に評価しています。

5　今後の方向性

区　　分	選択区分	「今後の方向性」及び「事業構成の妥当性」を選択した理由
① ： 現状のまま継続する （効果的な事業構成である） ② ： 一部見直し等の余地がある （概ね効果的な事業構成である） ③ ： 見直し等の余地は大きい （あまり効果的な事業構成ではない） ④ ： 抜本的見直し等が必要 （事業構成に問題がある）	①	・行財政改革アクションプランについては、令和5年度からの第２期計画を着実に推進していきます。 ・「観光まちづくりの充実・維持に係る財源のあり方に関する検討会議」については、専門的かつ幅広い見地から中長期的な財源確保策について検討のうえ、健全な財政運営を目指します。 ・町税等の収納について電子決済の充実を図り、徴収率の向上に努めます。

※これまでの評価結果を踏まえて、施策の今後の方向性として事業の構成や手法などが妥当か評価しています。

第６次総合計画　施策別評価シート（令和５年度）

基本目標６ 行政の効率的運営と官民協働体制の強化

施策35 ＳＤＧｓの推進

1　施策の概要

重点施策	分野５ 持続可能なまちづくり〔施策の展開 6-35-1, 6-35-2, 6-35-3が該当〕
今後の取組方針	◇ 町民への周知を実施していきます。 ◇ ＳＤＧｓの推進に向けて地域が直面する課題の洗い出しや課題解決に向け取組みます。 ◇ 箱根町ＳＤＧｓ推進計画（仮称）を策定して国内外へアピールし、多様なステークホルダーとの連携のもと、一層の観光客誘致につなげます。

施策の展開	施　策　の　展　開	施策担当課	施策責任者
	6-35-1　箱根町ＳＤＧｓ推進計画（仮称）の策定 ◎ 6-35-2　重点的取組みの推進（環境先進観光地箱根） ◎ 6-35-3　重点的取組みの推進（国際観光地箱根） ◎	企画課 観光課 環境課	企画観光部長

2　目標指標やその他成果などの状況と成果の分析

目標指標

1　町民のSDGs認知度の向上（単位：%）

元年度(基準)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(実績)	7年度(実績)	8年度(目標)
40	-	-	-	-			80

2　箱根町SDGs推進計画（仮称）の策定

元年度(基準)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(実績)	7年度(実績)	8年度(目標)
-	-	-	-	策定済			策定済

その他定性的な成果（取組みを進めたことで発現した効果などについて記載）

・町の基本方針や行政・町民・事業者・観光客の具体的な取組みを明確にした「箱根町SDGｓ推進計画」を策定し、SDGsの意識向上を図りました。
・広報等でSDGsの特集を組むほか、ホームページでもSDGｓに係る町、事業者の取組等を紹介するなど、町民のＳＤＧｓに対する認知度向上に努めました。

指標等の成果分析（指標の目標値達成を阻む外的要因等を含めて記載）

・「箱根町SDGs推進計画」の周知を進め、行政、町民、事業者が一体となった取り組みを進めるとともに、パートナーシップ制度など事業者と連携した取り組みを進めていく必要があります。

3　施策を構成する実施計画事業の評価

No.	事務事業名	事業の進捗度	今後の方向性
1	該当事業なし		

4　施策の進捗状況

区　　分	選択区分	進捗状況区分を選択した理由
Ａ：順調に推移 （目標達成又は進捗している） Ｂ：一定の進捗がある （目標達成に向け一定の進捗がある） Ｃ：一定の進捗がある （目標達成が遅れる可能性がある） Ｄ：進捗は大幅に遅れている （目標達成が難しい可能性がある）	Ｂ 前年度：Ｂ	・「箱根町SDGｓ推進計画」を策定しました。 ・広報はこねや町ホームページで、ＳＤＧｓに係る町や事業者の取組みを紹介し、町民への認知度向上に努めています。

※指標等の成果を中心に施策を構成する実施計画事業の評価等から総合的に評価しています。

5　今後の方向性

区　　分	選択区分	「今後の方向性」及び「事業構成の妥当性」を選択した理由
①：現状のまま継続する （効果的な事業構成である） ②：一部見直し等の余地がある （概ね効果的な事業構成である） ③：見直し等の余地は大きい （あまり効果的な事業構成ではない） ④：抜本的見直し等が必要 （事業構成に問題がある）	①	・「箱根町SDGｓ推進計画」へ明確に規定した、行政・町民・事業者・観光客それぞれの具体的な取組みを継続的に周知することにより、SDGｓ意識の向上・定着を図る必要があります。 ・SDGｓを通じて、環境先進観光地箱根や国際観光地箱根を国内外へ広くＰＲしていきます。

※これまでの評価結果を踏まえて、施策の今後の方向性として事業の構成や手法などが妥当か評価しています。

第６次総合計画　施策別評価シート（令和５年度）

基本目標６ 行政の効率的運営と官民協働体制の強化

施策36 コロナ対策の推進

1　施策の概要

重点施策	分野５ 持続可能なまちづくり〔施策の展開 6-36-2, 6-36-10が該当〕
今後の取組方針	◇ 状況に応じた経済対策を実施し、持続可能な地域経済を目指します。 ◇ 国・県・関係団体が示す感染症対策について引き続き町民、事業者、観光客に啓発していきます。 ◇ ワクチン接種については、引き続き接種対象となる町民が接種できるよう体制確保を図ります。 ◇ 各種イベント、教室、会議、打ち合わせ等の開催方法や施設の運営方法を検討し、ウィズコロナ時代においても執行できる事業のあり方を検討します。 ◇ 感染防止衣、感染防止用資器材及び消毒用資器材の整備と救急隊員等への二次感染防止に継続的に取組みます。 ◇ 消防職団員が安全・安心に業務を遂行できるよう消防施設の感染防止対策に向けた環境整備に取組みます。 ◇ 避難所における新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止するため、避難者のソーシャルディスタンスの確保や健康管理を推進します。

施策の展開	施策担当課	施策責任者
6-36-01　「新しい生活様式」の定着 6-36-02　ワクチン接種の推進 ◎ 6-36-03　正しい情報の迅速な提供 6-36-04　オンライン配信の積極的な利用 6-36-05　会議等における感染拡大防止のための書面開催 6-36-06　所管施設における感染防止対策の徹底 6-36-07　各種イベントにおける感染防止対策の実施 6-36-08　学校・園における感染防止対策の実施 6-36-09　事業者支援 6-36-10　町内経済活性化促進 ◎ 6-36-11　感染症防止用資器材等の整備 6-36-12　救急隊員等の健康管理 6-36-13　消防施設の感染防止対策 6-36-14　避難所における感染症対策の推進 6-36-15　自宅療養者への支援の推進	保険健康課 観　光　課 総務防災課 子育て支援課 学校教育課 消防本部	福祉部長

2　目標指標やその他成果などの状況と成果の分析

目標指標

1　新型コロナウイルス感染者数（単位：人）

元年度(基準)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(実績)	7年度(実績)	8年度(目標)
-	24	315	1,493	-			0

2　クラスター発生数（単位：件）

元年度(基準)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(実績)	7年度(実績)	8年度(目標)
-	-	-	-	-			0

3　避難所における新型コロナウイルス感染症新規感染者数（単位：人）

元年度(基準)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(実績)	7年度(実績)	8年度(目標)
-	-	-	-	-			0

その他定性的な成果（取組みを進めたことで発現した効果などについて記載）
・新型コロナウイルスワクチン接種を集団接種、各医療機関での個別接種により実施しました。
指標等の成果分析（指標の目標値達成を阻む外的要因等を含めて記載）
・令和５年５月に新型コロナウイルス感染症が５類に移行したことから、事業としては現状休止していますが、町として対応が必要となる感染症等が発生した際には適切に対応していきます。

3　施策を構成する実施計画事業の評価

No.	事務事業名	事業の進捗度	今後の方向性
1	新型コロナウイルスワクチン接種体制確保事業	計画通り実施できた	廃止
2	感染症対策事業（民生費）	計画通り実施できた	廃止
3	感染症対策事業（教育費）	計画通り実施できた	計画通り実施（予定）

4　施策の進捗状況

区　　分	選択区分	進捗状況区分を選択した理由
A ： 順調に推移 （目標達成又は進捗している） B ： 一定の進捗がある （目標達成に向け一定の進捗がある） C ： 一定の進捗がある （目標達成が遅れる可能性がある） D ： 進捗は大幅に遅れている （目標達成が難しい可能性がある）	A 前年度：A	・令和５年度末までは国による特例接種が続いたことにより、新型コロナワクチン接種体制を確保し、集団接種、各医療機関での個別接種によりワクチン接種を実施しました。

※指標等の成果を中心に施策を構成する実施計画事業の評価等から総合的に評価しています。

5　今後の方向性

区　　分	選択区分	「今後の方向性」及び「事業構成の妥当性」を選択した理由
① ： 現状のまま継続する （効果的な事業構成である） ② ： 一部見直し等の余地がある （概ね効果的な事業構成である） ③ ： 見直し等の余地は大きい （あまり効果的な事業構成ではない） ④ ： 抜本的見直し等が必要 （事業構成に問題がある）	①	・新型コロナウイルスワクチンの接種については、令和６年度以降は65歳以上の方を対象とした定期接種となりますので、医療機関での個別接種として、接種体制を確保していきます。 ・今後も引き続き、基本的な感染予防対策など、周知を徹底していきます。

※これまでの評価結果を踏まえて、施策の今後の方向性として事業の構成や手法などが妥当か評価しています。